

病 院 年 報

令和 3 年度

ANNUAL
REPORT 2021

Japanese Red Cross Fukushima Hospital



日本赤十字社 福島赤十字病院



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

病 院 年 報

令和 3 年度

福島赤十字病院

福島赤十字病院

Japanese Red Cross Fukushima Hospital

理念

Philosophy

わたしたちは、いのちと健康、尊厳を守るため、より良い医療を目指します。

We aim at the better medical care to follow a life health and dignity

基本方針

Policy

- 1. 患者さま中心の医療** Patient-centered medical care
患者さまの人権と意思を尊重し、説明と同意に基づいた患者さま中心の医療に努めます
- 2. 良質な医療の提供** Providing quality medical care
良質な医療を提供するため、医療技術の向上および施設の充実を図ります
- 3. 地域医療機関との連携** Cooperation with the medical institution of the area
地域医療支援病院として、地域の医療機関と緊密な医療連携を行います
- 4. 救急医療の充実** Enhancement emergency medical care
二次救急医療指定機関として、救急患者さまには24時間対応し、質の高い救急医療を行います
- 5. 災害時の救護活動** Relief activities at the time of disaster
災害拠点病院として、災害時の救護活動に努め、被災者に寄り添った支援を行います
- 6. 原子力災害対応機能の充実** Enhancement of medical service for nuclear-power disaster
原子力災害拠点病院として、原子力災害に対する対応や医療活動を行います
- 7. 健全な経営の維持** Maintenance of the sound management
健全な経営を維持し、高度な医療の提供に努めます

患者さまの権利

福島赤十字病院は患者さまの次の権利を尊重します。

1. 良質な医療を公平に受ける権利
2. 個人の尊厳が守られる権利
3. 医療上の個人情報(プライバシー)が守られる権利
4. 診療上必要な情報を得、説明を受ける権利
5. 自らの意思に基づき医療行為を選択する権利
6. 他の医師等の意見(セカンドオピニオン)を求める権利

発刊にあたり



福島赤十字病院
院長 鈴木 恭一

令和2年から国内に広がった新型コロナウイルス感染症は、ご存知の通り世界中に蔓延し、本稿の筆を執っている現在も収束していません。令和3年は一年を通して新型コロナウイルス感染症の影響を受けた年でした。

当院の令和3年を振り返ると、地域医療に関しては、コロナ感染症の出現前と比較して入院患者数、新入院患者数、外来患者数は落ち込んだままでした。これらは受診控えなどが影響したものです。その一方で、救急車の受入件数や手術件数はコロナ前とほぼ同水準を維持することが出来ました。コロナ感染対策など通常よりも業務内容が増えたなかで、少しでも多くの患者さんを引き受けようとする職員の頑張りによるものです。感謝すると共に誇りに感じています。

今回、新型コロナウイルス感染症の対応にあたっては、一部の診療科だけに負担を負わせるのではなく、皆で負担を分け合うことが大事だと考えました。そしてこの認識を、多くの職員が共有してくれました。外科系の医師も主治医を引き受けてくれました。事務職員も玄関先で来院者の検温対応にあたり、全ての入院患者さまに対して施行した抗原検査業務は、多くの医療スタッフが関わってくれました。2022年サッカーW杯で日本が決勝トーナメント進出を決めた時、森保監督はチーム一丸で戦った結果だと言っています。サッカーと医療の違いはありますが、当院の全職員が一丸となってコロナ診療に向き合ってくれた成果は大きく、互いの気持ちを尊重し合いながら同じ目的に向かって進んでくれたことに感謝しています。

新型コロナウイルス感染症は、私たち職員の心にも漠然とした重苦しさを感じさせるものでした。これまで毎年開催してきた春の新人歓迎会が中止となり、その後も看護の日イベントや院友会主催の多くのイベントが中止になりました。日常生活でも黙食が求められ、気持ちを伝え合う機会が少なくなっていました。コミュニケーションが求められるチーム医療において望ましくない状況です。こうした状況が続けば職場環境が悪化するのはと危惧しましたが杞憂でした。職員は、お互いを尊重しながらコミュニケーションを取り合って、良質な医療を提供し続けてくれました。「看護師さんがとても忙しく働いているのを見えています。私たちも頑張ります」という他職種の声聞き、有り難いことと思いました。引き続き職員の皆さんには、赤十字人としての矜持を持って、互いの意見を尊重しあい、患者さまに対しても敬意を持った対応をお願いします。

コロナ感染症の話ばかりになってしまいましたが、今後も「わたしたちは、いのちと健康、尊厳を守るため、より良い医療を目指します」という当院の理念を実践してまいります。皆様のご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

令和5年3月

目次

福島赤十字病院 令和3年度 病院年報

I 一年の動き

1. 令和3年度の動き	1
2. 災害救護訓練	4
3. 院友会	6

II 病院の概況

1. 病院の沿革	7
2. 病院概要	10
3. 組織図	15
4. 職員数	16
5. 福島赤十字病院会議及び委員会	17
6. 救護班名簿	18

III 統計

1. 令和3年度実績表	21
2. 入院 診療科別・月別 患者数、稼働額、単価	22
3. 外来 診療科別・月別 患者数、稼働額、単価	25
4. 診療科別・行為別稼働額	28
5. 入院患者数	30
6. 新入院患者数	31
7. 外来患者数	32
8. 診療科別稼働額	33
9. 入院・外来単価(自費収益を含まない)	34
10. 手術件数(手術室)	35
11. 平均在院日数	36
12. 病床稼働率(退院を含む)	37
13. 紹介率・逆紹介率(病院全体)	37
14. 分娩件数	37
15. 診療科別救急車受入件数	38
16. 損益推移	39
17. 比較損益計算書	40

IV 活動実績

1. 内科	41
2. 消化器内科	41
3. 糖尿病・代謝内科	44
4. 循環器内科	44
5. 脳神経内科	46
6. 精神科	47
7. 小児科	47
8. 外科	48
9. 心臓血管外科	51
10. 呼吸器外科	52
11. 整形外科	53
12. 脳神経外科	54
13. 皮膚科	56
14. 形成外科	57
15. 泌尿器科	57
16. 産婦人科	58
17. 眼科	59
18. 耳鼻咽喉科	60
19. 放射線科・放射線科部	61
20. 麻酔科	63
21. リウマチ・膠原病内科	64
22. 病理診断科	65
23. リハビリテーション科	66
24. 薬剤部	69
25. 医療技術部[栄養課、臨床工学技術課]	72
26. 看護部	75
27. 検査部	99
28. 事務部[総務課、経営企画課、医療情報システム課、会計課、用度施設課、 医事課、健診課、患者サービス推進室]	101
29. 医療安全推進室	112
30. 感染管理室	114
31. 診療支援室	115
32. 地域医療連携室	116
33. 福島赤十字訪問看護ステーション	118

V 会議・委員会活動

1. 会議	121
2. 病院運営に関する委員会	125
3. 医療安全管理に関する委員会	131
4. 診療に関する委員会	137
5. 教育・研究に関する委員会	143
6. 労務及び安全管理に関する委員会	144

VI 研究発表

1. 診療科部	145
2. 看護部	149
3. 薬剤部	150
4. 放射線科部	150
5. 医療技術部	151
6. 事務部	151
7. 地域医療連携室	151

I

一年の動き



1. 令和3年度の動き

令和3年度は、新型コロナウイルスの影響により多くの院内・院外のイベントが中止となった。

<当院の動き>

令和3(2021)年

4月

●辞令交付式[1日]

新たに43名の新規採用職員を迎えた。



辞令交付式の様子



新規採用職員

●新規採用職員オリエンテーション[1～2日、5日]



オリエンテーションの様子



●院友会総会・新人歓迎会 → 新型コロナウイルスによる影響のため中止

5月

●看護の日イベント → 新型コロナウイルスによる影響のため中止

例年、「看護の日」と「赤十字運動月間」にあわせて、正面玄関付近をメイン会場にイベントを開催しているが、新型コロナウイルスの影響もあり、中止となった。

●永年勤続功労表彰[1日]

勤続30年：3名 勤続20年：8名 勤続10年：16名

●福島日赤ボランティア会感謝状贈呈[26日]



感謝状の贈呈

8月

●福島わらじまつり「ダンシングソーダナイト」 → 新型コロナウイルスによる影響のため不参加



1. 令和3年度の動き

<当院の動き>

9月

- 第三次医療情報システム稼動 電子カルテ更新対応[20日]



電子カルテ更新作業の様子～完了報告

11月

- ヒポクラテスの木植樹[17日]



令和4(2022)年

1月

- 病院機関誌『日赤通り広報版vol.52』発行[1日]
- 仕事始め・院長年頭挨拶[4日]



年頭の集合写真

- 病院機関誌『日赤通り院内版vol.100』発行[31日]



1. 令和3年度の動き

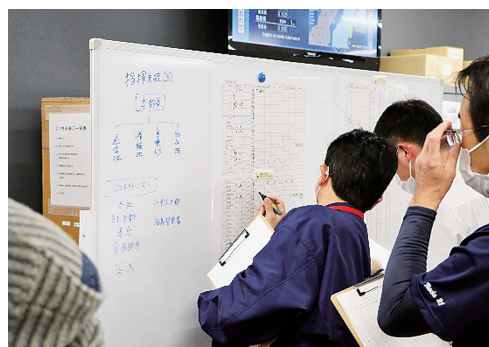
<当院の動き>

3月

- 院内災害救護訓練[8日]



- 福島県沖地震発生[16日]



- 臨床研修医研究発表会及び修了証書授与式[23日]



- 辞令交付式[31日]



2. 災害救護訓練

令和3年度の災害訓練・研修会参加状況

災害救護関連研修・訓練・会議

7月3日(土)

研 修 名：原子力災害医療基礎研修(Web)

開催場所：福島赤十字病院

参 加 者：計40名【内、支部職員(1名)、病院職員(13名)】

7月10日(土)

訓 練 名：日本赤十字社福島県支部災害訓練

開催場所：日本赤十字社福島県支部(福島市)

参 加 者：計34名【内、医師8名、看護師11名、薬剤師1名、主事6名、スタッフ8名】

8月23日(月)～25日(水)

研 修 名：原子力災害医療中核人材研修

開催場所：福島県立医科大学

参 加 者：計1名【主事：葛岡大輔】

9月2日(木)

研 修 名：東北ブロックDMAT技能維持研修

開催場所：オンライン開催

参 加 者：計3名【医師：遠藤豪一、看護師：泉弘子、原田瑞穂】

10月6日(水)

会 議 名：原子力災害医療アドバイザー会議

開催場所：オンライン開催

参 加 者：計2名【脳神経内科部主任部長 中村耕一郎、画像情報係長 海藤隆紀】

10月8日(金)

会 議 名：日赤災害医療コーディネーター連絡会議

開催場所：オンライン開催

参 加 者：計1名【循環器内科部主任部長 渡部研一】

10月30日(土)

訓 練 名：大規模地震時医療活動訓練(政府総合防災訓練)

開催場所：福島県庁

参 加 者：計6名【医師：遠藤豪一、看護師：泉弘子、原田瑞穂、武田良平、業務調整員：野田誠、葛岡大輔】

11月8日(月)

研 修 名：東北ブロックDMAT技能維持研修

開催場所：オンライン開催

参 加 者：計2名【医師：遠藤豪一、看護師：泉弘子、原田瑞穂】

11月20日(土)

訓 練 名：第2ブロック支部合同災害救護訓練

開催場所：栃木県

参 加 者：計6名【医師：芳賀文香、看護師長：武井明美、看護師：菊田純子、齋藤貴子、主事：渡辺源貴、
葛岡大輔】

11月29日(月)～12月1日(水)

研 修 名：こころのケア指導者養成研修

開催場所：オンライン開催

参 加 者：計1名【看護師長：柳田美穂】

12月8日(水)

会 議 名：原子力災害医療アドバイザー会議

開催場所：オンライン開催

参 加 者：計3名【脳神経内科部主任部長 中村耕一郎、画像情報係長 海藤隆紀、看護係長 成澤裕美】

12月12日(日)

研 修 名：原子力災害医療派遣チーム研修

開催場所：福島赤十字病院

参 加 者：計2名【看護師長：岩崎睦子、清和彩子】

令和4年1月23日(日)～24日(月)

研 修 名：東北ブロックDMAT技能維持研修

開催場所：仙台市

参 加 者：計2名【看護師：原田瑞穂、業務調整員：葛岡大輔】

1月26日(水)

研 修 名：原子力災害医療講師養成研修

開催場所：オンライン開催

参 加 者：計1名【主事：葛岡大輔】

2月11日(金)～13日(日)

研 修 名：こころのケア指導者養成研修

開催場所：オンライン開催

参 加 者：計1名【看護係長：佐藤裕子】



3. 院友会

<概要>

福島赤十字病院院友会は当院に勤務する職員及び常勤の嘱託・臨時職員を対象に、職員同士の親睦を図ることを目的としている。会長は院長、副会長は副院長、事務部長、看護部長が務め、監事は会長が任命する。その他役員は各部署から毎年1名ずつ選出され、年間を通して季節に応じたイベントを企画運営している。

イベントの他、院友会員の体育および文化サークルの活動を通して親睦と福利厚生を推進を図ることを目的に“体育・文化サークル活動助成金”を交付している。(助成金交付対象サークル：野球部、ソフトボール部、バレーボール部、フットサル部、卓球部、テニス部)

<令和3年度役員>

会 長 渡部 洋一(院長)
副会長 鈴木 恭一(副院長)、大和田尊之(副院長)、須藤 浩光(事務部長)、會澤 英子(看護部長)
幹 事 井上 卓哉(医局)、野木 拓実(3A病棟)、岩間 玲奈(3B病棟)、伊藤由佳子(4病棟)、
菅野 綾子(5A病棟)、阿部 美沙(5B病棟)、丹治 悠磨(6A病棟)、馬場 梢(6B病棟)、
渡邊ちひろ(7病棟)、渡邊 政子(外来)、梅宮 誠(手術室)、菊地 洋平(薬剤部)、
三浦 義喜(検査部)、五十公野純子(放射線科部)、鈴木かおり(リハビリテーション科部)、
村上 風太(医療技術部)、岡崎 美紀(事務部)、渡辺 源貴(事務部)、丸山 絢子(事務部)、
奈良輪大輔(事務部)

<令和3年度活動報告>

日時	内容	場所
9月24日(金)	1年目、2年目の職員紹介動画掲載 部署紹介、サークル紹介ページ掲載	システム掲示板
3月8日(火)	会費還元としてギフトカード配布	—
その他のイベントについては、新型コロナウイルスの影響により中止		

<令和3年度決算報告>

収入の部	支出の部	翌年度繰越額
13,209,618円	3,686,612円	9,523,006円

II

病院の概況

1. 病院の沿革

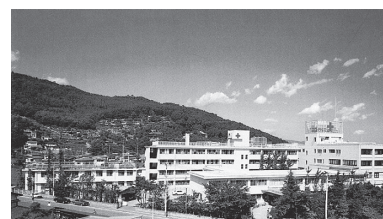
< 年 月 >	< 沿 革 >
昭和18年 8月	日本赤十字社福島支部福島療院として福島市舟場町に発足(病床数32床) 飯坂海軍病院の分院として診療が行われる <診療科目：内科、小児科、耳鼻咽喉科、理学診療科>
昭和19年 1月	20床増床(病床数52床)
4月	福島赤十字病院と改称
昭和25年10月	入院患者に対する完全給食を開始
昭和28年 2月	30床増床(病床数82床)
昭和30年 7月	20床増床(病床数102床)
昭和33年 6月	産婦人科部設置
10月	18床増床(病床数120床)
昭和34年 5月	整形外科部設置
12月	30床増床(病床数150床)
昭和37年 1月	皮膚科部、眼科部設置
2月	現在地(福島市入江町)へ新築移転 <鉄筋コンクリート造4階建、延床面積4,740㎡> (病床数200床／一般170床・結核30床) 入院患者に対する基準寝具開始
6月	秩父宮妃殿下御慰問
昭和38年 6月	総合病院の承認を受ける
9月	救急病院の指定を受ける
昭和39年 9月	福島市外3町村委託による伝染病棟50床併設(病床数250床)
昭和40年 7月	精神科・神経科部設置
昭和42年12月	東病棟増築、100床(精神)を増床(病床数350床)
昭和43年 4月	循環器科部、呼吸器科部設置
昭和44年 9月	精神病床100床のうち40床を一般病棟に変更
昭和52年 8月	エネルギーセンター棟を新設
昭和54年 5月	放射線科部設置
9月	胃腸科部、泌尿器科部設置
12月	新館棟を増築、50床増床(病床数400床)
昭和56年11月	脳神経外科部設置
昭和57年 4月	病院駐車場として国有地(福島大学跡地)を取得
昭和59年 3月	脳血管系疾患の収容病床として20床増床(病床数420床)
昭和60年 5月	麻酔科部設置
昭和61年 1月	外来診療会計コンピュータ稼働
昭和63年 7月	三笠宮寛仁親王妃殿下御慰問
平成元年 9月	病床23床増床(救急特例病床17床、CCU 6床) (病床数443床)
平成5年12月	心臓血管外科部設置
平成6年 2月	本館棟等増改築工事完了
6月	医事／会計システム更新 富士通(株) HOPE/X
平成8年 4月	胃腸科部を消化器科部と名称変更
8月	結核病床30床を廃止(病床数413床)
11月	災害拠点病院の指定を受ける
平成10年10月	皇太子殿下並びに皇太子妃殿下御視察
12月	訪問看護ステーション設置
平成11年 3月	伝染病床50床を廃止(病床数363床)
4月	第二種感染症医療機関の指定を受ける(6床) (病床数369床／一般303床・精神60床・感染6床)
平成12年 4月	福島県精神科救急医療施設の指定を受ける 居宅介護支援事業所設置



昭和18年8月 舟場町に開院



昭和37年2月 入江町に新築移転



昭和56年11月 新館棟増築



平成6年2月 本館棟増改築

< 年 月 >	< 沿 革 >
平成13年 4月	デイサービスセンター、在宅介護支援センター設置
9月	医事／会計システム更新 富士通(株) HOPE/X-W V1
平成14年 7月	地域医療連携室開設
平成15年 4月	呼吸器外科部設置
平成16年 3月	臨床研修病院(協力型)の指定を受ける
6月	1号館、2号館3病棟改修工事完了
10月	臨床研修病院(管理型)の指定を受ける
平成18年 3月	病理検査室設置
	精神病床10床を減床(病床数359床/一般303床・精神50床・感染6床)
6月	医療安全推進室設置
平成19年 3月	病院機能評価Ver.4.0の認定を受ける
9月	医事／会計システム更新 富士通(株) HOPE/X-W V4 オーダーリングシステム導入 富士通(株) EGMAIN-FX V2 導入オーダ：患者基本、処方、検体検査、入退院、病棟移動、給食、病名、診療予約、 検歴参照
平成20年 1月	教育研修推進室設置
4月	医療技術部設置
12月	血管造影撮影室増築
平成21年 3月	デイサービスセンター、在宅介護支援センター運営終了
4月	DPC(診断群分類別包括制度)対象病院の指定を受ける
平成22年 4月	糖尿病・代謝科部設置
平成23年 3月	東日本大震災発生 救護班延べ77個班を派遣
7月	平成23年7月新潟・福島豪雨発生 救護班1個班を派遣
9月	地域医療支援病院の認定を受ける
平成24年 3月	ホールボディカウンター及びホールボディカウンター室を設置
	病院機能評価Ver.6.0一般にて更新
4月	新病院建設準備室設置
	ホールボディカウンターによる内部被ばく検査を開始
平成25年 4月	神経内科部設置
5月	医療用画像管理システム(PACS)導入 追加オーダ：放射線
平成26年 7月	HCUを設置
9月	自動精算機／POSレジシステム導入 医事／会計システム更新 富士通(株) HOPE/X-W V6 オーダーリングシステム更新 富士通(株) EGMAIN-GX V4 追加オーダ：細菌検査、生理検査、病理検査、内視鏡検査、注射(外来)、リハビリ
10月	診療科名称を変更(24科) 福島県認知症疾患医療センターの指定を受ける
平成27年 1月	循環器センター・末梢血管病センターを設置
3月	現病院土地との交換により新病院予定地(福島市八島町87番1・88番)取得
5月	名称から「総合病院」を削除
平成28年 4月	救急科部設置
	心療内科を廃止
	精神科病棟11床を減少(病床数348床/一般303床、精神39床、感染6床)
	熊本地震発生 救護班2個班、病院支援職員2個班、こころのケア班1個班を派遣
9月	福島赤十字病院 施設整備事業(移転新築工事)起工式
平成29年 4月	開設者を日本赤十字社福島県支部長から日本赤十字社社長に変更 原子力災害拠点病院の指定を受ける
7月	嚥下・ボイスセンター・鼻・副鼻腔センターを設置

< 年 月 >	< 沿 革 >
平成30年 6 月	病院機能評価 3rdG:Ver.1.1一般病院 2 の認定を受ける
7 月	外来診療電子カルテ運用開始
8 月	平成30年 7 月豪雨発生 こころのケア班 1 個班を派遣
9 月	平成30年北海道胆振東部地震発生
	救護班 2 個班、こころのケア班 1 個班を派遣
	福島赤十字病院 移転新築工事竣工式・定礎式
平成31年 1 月	新病院へ移転・開院(福島市八島町)
	<病院棟 鉄骨造地上 7 階建(免震構造)・塔屋 1 階、延床面積21,760.04㎡
	駐車場棟 鉄骨造地上 2 階(2 層 3 段)(耐震構造)延床面積3,092.40㎡>
	(病床数296床／一般280床・精神10床・感染症 6 床)
	神経内科部を脳神経内科部と名称変更
	血管外科・心臓外科を心臓血管外科と名称変更
	入院診療電子カルテ運用開始
	福島赤十字指定居宅介護支援事業所を廃止
平成31年/令和元年	3 月
4 月	リウマチ膠原病内科を新設
7 月	新病院におけるドクターヘリの初受け入れ
9 月	台風19号による洪水被害への支援活動で
	DMAT(2 班)、救護班(16班)、
	こころのケア班(5 班)を派遣
令和 2 年 2 月	クルーズ船(ダイヤモンド・プリンセス号)へDMAT: 2 班 救護班: 1 班を派遣
5 月	旧病院の解体工事完了
7 月	旧病院駐車場を福島市へ売却
11 月	初となるオンラインによる行幸啓を実施
令和 3 年 3 月	病院敷地内に原子力災害時拠点施設を新築
9 月	医事/会計システム更新 富士通(株) HOPE/X-W V11
	電子カルテシステム更新 富士通(株) EGMAIN-GX V8



平成31年 1 月 福島赤十字病院新築・移転

2. 病院概要

(令和3年3月31日現在)

(1) 施設の概要

名 称	福島赤十字病院 Japanese Red Cross Fukushima Hospital
所 在 地	〒960-8530 福島市八島町7番7号 7-7 Yasima-cho, Fukushima-city, Fukushima 960-8530 JAPAN TEL (024) 534-6101 (代表) FAX (024) 531-1721 http://www.fukushima-med-jrc.jp/
敷地面積	17,740.71㎡
延床面積	24,916.95㎡
開設年月日	昭和18年8月1日
開設者	日本赤十字社社長 大塚 義治
管理者	院長 渡部 洋一
付帯設備	福島赤十字訪問看護ステーション Japanese Red Cross Fukushima Hospital Visiting-nurse station

(2) 診療科目 Medical Departments

内 科	糖尿病・代謝内科	呼吸器内科	循環器内科
Internal Medicine	Diabetes and Metabolism	Respiratory	Cardiology
消化器内科	精神科	小児科	外 科
Gastroenterology	Psychiatry	Pediatrics	General surgery
心臓血管外科	呼吸器外科	整形外科	脳神経外科
Cardiovascular surgery	Thoracic Surgery	Orthopaedic	Neurosurgery
皮膚科	形成外科	泌尿器科	産婦人科
Dermatology	Plastic and Reconstructive Surgery	Urology	Obstetrics and Gynecology
眼 科	耳鼻咽喉科	放射線科	麻 酔 科
Ophthalmology	Otolaryngology	Radiology	Anesthesiology
脳神経内科	リハビリテーション科	救 急 科	病理診断科
Neurology	Rehabilitation Medicine	Emergency Medicine	Disgnostic Pathology
リウマチ・膠原病内科			
Rheumatology			

(全25科)

(3) 病床数

	許可病床数	実働病床数
一 般 病 床	280床	276床
精 神 病 床	10床	10床
感 染 症 病 床	6床	6床
計	296床	292床

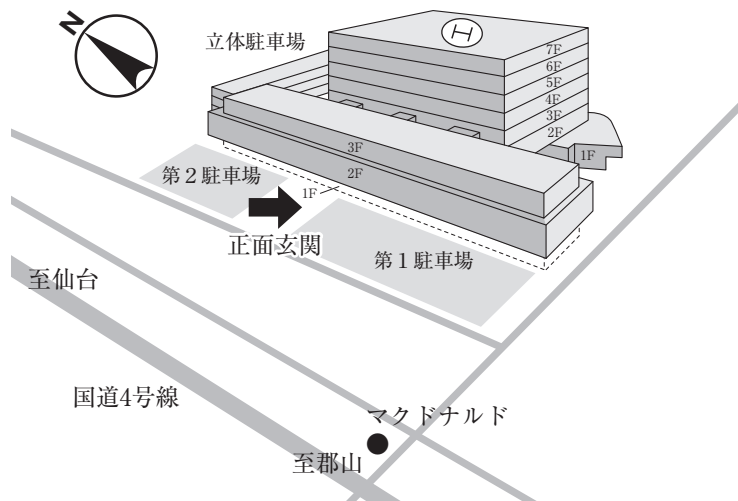
(内訳：実働病床数)

3 A病棟 20床(HCU 8床)	3 B病棟 34床	4 病棟 40床
5 A病棟 49床	5 B病棟 46床	6 A病棟 47床(感染症病床 6床)
6 B病棟 46床	7 病棟 10床	

(内訳：部屋別)

1 人部屋	2 人部屋	4 人部屋	計
66	3	55	124

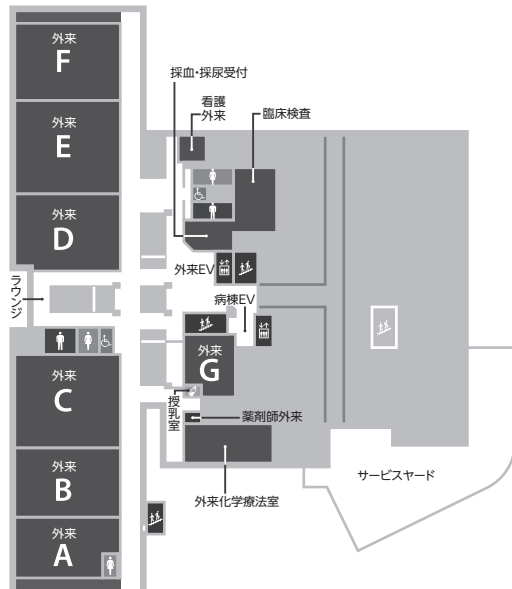
(4) 病院全体配置図



PH階	ヘリポート
7階	7病棟(精神科・10床)、総合リハビリテーション室
6階	6A病棟(47床(感染症6床)) 6B病棟(46床)
5階	5A病棟(49床) 5B病棟(脳卒中センター・46床)
4階	4病棟(レディースフロア・40床)、医局、事務・管理部門
3階	3A病棟(HCU12床、救急12床)、3B病棟(循環器センター・34床)、手術室、血管造影室・IVRセンター、中央材料室、病理検査室、MEセンター
2階	外来、看護外来、薬剤師外来、外来化学療法室、臨床検査、薬剤部、用度施設課、栄養課、霊安室
1階	総合案内、総合受付、再来受付、会計、FAXコーナー、ER(救急外来)、健診センター、医療福祉相談室、地域医療連携室、入退院支援センター、多目的ホール、売店・カフェ、放射線部、内視鏡センター、生理検査、防災センター

(5) 外来配置図

2階



1階



平成31年3月現在

(6) 位置及び案内



(7) 機関指定

機関指定	
健康保険法指定医療機関	地域医療支援病院
臨床研修指定医療機関	国民健康保険法指定医療機関
生活保護法指定医療機関	結核予防法指定医療機関
更生医療指定医療機関 (整形外科・脳神経外科・耳鼻咽喉科)	身体障害者福祉法指定医療機関
原子爆弾被害者に対する指定医療機関	戦傷病者特別援護法指定医療機関
育成医療(児童福祉法)指定医療機関	養育医療(母子保健法)指定医療機関
地方公務員災害補償法指定医療機関	労働者災害補償保険法指定医療機関
救急告示病院	国家公務員災害補償法指定医療機関
災害拠点病院(地域災害医療センター)	第二次救急指定病院
原子力災害拠点病院	福島県特定不妊治療費助成事業指定医療機関
開放型病院	第二種感染症指定医療機関

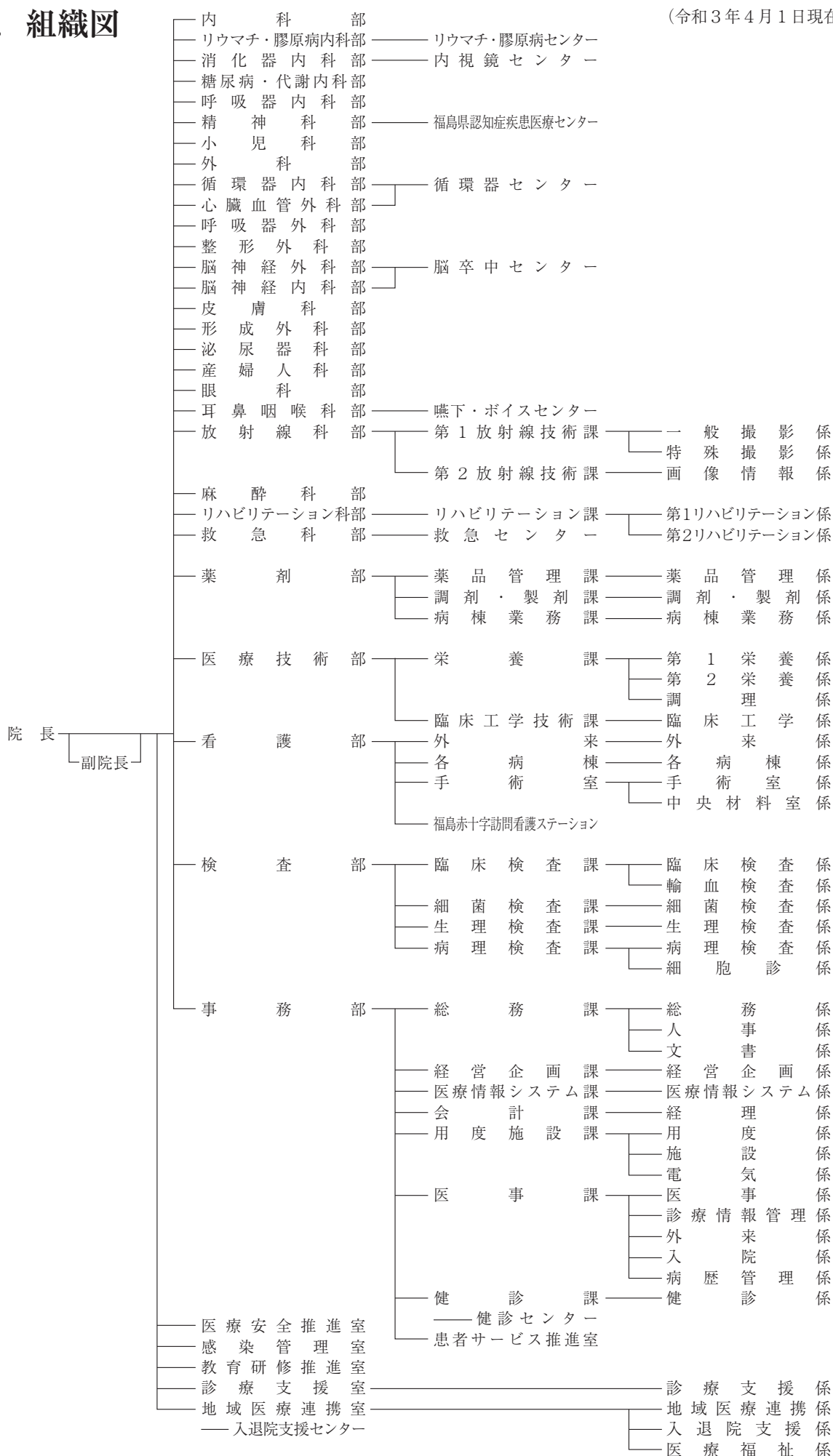
(8)施設基準の届出状況

基本診療料 特掲診療料 別	施設基準名	受理番号	算定開始 年月日
基本診療料	一般病棟入院基本料 7 対 1	(一般入院)第2317号	令和 2 年10月 1 日
	精神病棟入院基本料 10対 1	(精神入院)第1079号	平成31年 1 月 1 日
	総合入院体制加算 3	(総合 3)第10号	令和 2 年10月 1 日
	救急医療管理加算	(救急加算)第11号	令和 2 年 4 月 1 日
	超急性期脳卒中加算	(超急性期)第22号	令和 2 年 4 月 1 日
	診療録管理体制加算 1	(診療録 1)第53号	平成31年 1 月 1 日
	医師事務作業補助体制加算 1 20対 1	(事補 1)第142号	令和 3 年 7 月 1 日
	急性期看護補助体制加算 25対 1	(急性看護)第353号	令和 2 年 5 月 1 日
	看護職員夜間配置加算 1 16対 1	(看護夜配)第65号	令和 3 年 4 月 1 日
	重症者等療養環境特別加算	(重)第290号	平成31年 1 月 1 日
	緩和ケア診療加算	(緩和)第14号	令和 3 年12月 1 日
	精神病棟入院時医学管理加算	(精入学)第23号	平成31年 1 月 1 日
	精神科身体合併症管理加算	(精合併加算)第40号	平成31年 1 月 1 日
	医療安全対策加算 1	(医療安全 1)第195号	平成31年 1 月 1 日
	感染防止対策加算 1	(感染防止 1)第106号	平成31年 1 月 1 日
	患者サポート体制充実加算	(患サポ)第161号	平成31年 1 月 1 日
	褥瘡ハイリスク患者ケア加算	(褥瘡ケア)第16号	平成31年 1 月 1 日
	ハイリスク妊娠管理加算	(ハイ妊娠)第100号	平成31年 1 月 1 日
	ハイリスク分娩管理加算	(ハイ分娩)第76号	平成31年 1 月 1 日
	精神科救急搬送患者地域連携受入加算	(精救急受入)第 8 号	平成31年 1 月 1 日
	呼吸ケアチーム加算	(呼吸チ)第25号	平成31年 1 月 1 日
	後発医薬品使用体制加算 1	(後発使 1)第37号	平成31年 1 月 1 日
	病棟薬剤業務実施加算 1	(病棟薬 1)第35号	平成31年 1 月 1 日
	データ提出加算	(データ提)第117号	平成31年 1 月 1 日
	入退院支援加算	(入退支)第319号	令和 2 年 7 月 1 日
	認知症ケア加算	(認ケア)第106号	令和元年10月 1 日
	せん妄ハイリスク患者ケア加算	(せん妄ケア)第28号	令和 2 年 8 月 1 日
	精神疾患診療体制加算	(精疾診)第19号	平成31年 1 月 1 日
	地域医療体制確保加算	(地医確保)第 1 号	令和 2 年 4 月 1 日
	ハイケアユニット入院医療管理料 1	(ハイケア 1)第13号	平成31年 1 月 1 日
特掲診療料	外来栄養食事指導料の注 2	(外栄食指)第 3 号	令和 2 年 4 月 1 日
	心臓ペースメーカー指導管理料の注 5 に掲げる遠隔モニタリング加算	(遠隔ペ)第 6 号	令和 2 年 4 月 1 日
	がん性疼痛緩和指導管理料	(がん疼)第256号	平成31年 1 月 1 日
	がん患者指導管理料イ	(がん指イ)第114号	平成31年 1 月 1 日
	がん患者指導管理料ロ	(がん指ロ)第109号	平成31年 1 月 1 日
	がん患者指導管理料ハ	(がん指ハ)第24号	平成31年 1 月 1 日
	がん患者指導管理料ニ	(がん指ニ)第 4 号	令和 2 年 7 月 1 日
	外来緩和ケア管理料	(外緩)第 3 号	令和 3 年10月 1 日
	乳腺炎重症化予防ケア・指導料	(乳腺ケア)第23号	平成31年 1 月 1 日
	婦人科特定疾患治療管理料	(婦特管)第42号	令和 2 年 4 月 1 日
	小児科外来診療料	(小外診)第138号	令和 2 年 4 月 1 日
	院内トリアージ実施料	(トリ)第55号	平成31年 1 月 1 日
	夜間休日救急搬送医学管理料の注 3 に 掲げる救急搬送看護体制加算	(救搬看護)第38号	令和 2 年 4 月 1 日
	ニコチン依存症管理料	(ニコ)第804号	平成31年 1 月 1 日
	療養・就労両立支援指導料の注 3 に掲 げる相談支援加算	(両立支援)第 3 号	令和 2 年12月 1 日
	開放型病院共同指導料	(開)第51号	平成31年 1 月 1 日
	肝炎インターフェロン治療計画料	(肝炎)第35号	平成31年 1 月 1 日
	ハイリスク妊産婦連携指導料 1	(ハイ妊連 1)第11号	平成31年 1 月 1 日
	ハイリスク妊産婦連携指導料 2	(ハイ妊連 2)第 6 号	平成31年 1 月 1 日
	薬剤管理指導料	(薬)第287号	平成31年 1 月 1 日
	検査・画像情報提供加算及び電子的診 療情報評価料	(電情)第85号	平成31年 1 月 1 日
	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジ ポンプと連動する持続血糖測定器を用い る場合)及び皮下連続式グルコース測定	(持血測 1)第37号	令和元年 8 月 1 日

基本診療料 特掲診療料 別	施設基準名	受理番号	算定開始 年月日
特掲診療料	在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算	(遠隔持陽)第26号	令和2年9月1日
	医療機器安全管理料1	(機安1)第98号	平成31年1月1日
	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	(HPV)第152号	平成31年1月1日
	検体検査管理加算(Ⅱ)	(検Ⅱ)第81号	平成31年1月1日
	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	(歩行)第34号	平成31年1月1日
	ヘッドアップティルト試験	(ヘッド)第25号	平成31年1月1日
	神経学的検査	(神経)第66号	平成31年1月1日
	コンタクトレンズ検査料	(コン1)第377号	平成31年1月1日
	小児食物アレルギー負荷検査	(小検)第32号	平成31年1月1日
	画像診断管理加算1	(画1)第46号	平成31年1月1日
	CT撮影及びMRI撮影	(C・M)第499号	平成31年1月1日
	冠動脈CT撮影加算	(冠動C)第27号	平成31年1月1日
	心臓MRI撮影加算	(心臓M)第23号	平成31年1月1日
	BRCA 1/2 遺伝子検査	(BRCA)第23号	令和3年4月1日
	在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2	(在看)第30号	令和2年12月1日
	抗悪性腫瘍剤処方管理加算	(抗悪処方)第42号	平成31年1月1日
	外来化学療法加算1	(外化1)第146号	平成31年1月1日
	連携充実加算	(外化連)第4号	令和2年4月1日
	無菌製剤処理料	(菌)第146号	平成31年1月1日
	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	(心Ⅰ)第67号	令和元年10月1日
	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	(脳Ⅰ)第364号	平成31年1月1日
	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	(運Ⅰ)第450号	平成31年1月1日
	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	(呼Ⅰ)第361号	平成31年1月1日
	がん患者リハビリテーション料	(がんリハ)第140号	平成31年1月1日
	レーザー機器加算	(手光機)第235号	平成31年1月1日
	喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)	(喉頭形成)第2号	令和2年11月1日
	乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	(乳セ1)第39号	平成31年1月1日
	乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	(乳セ2)第41号	平成31年1月1日
	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	(経特)第23号	令和2年4月1日
	経皮的中隔心筋焼灼術	(経中)第19号	平成31年1月1日
	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	(ペ)第183号	平成31年1月1日
	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	(ペリ)第11号	平成31年1月1日
	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	(大)第97号	平成31年1月1日
	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	(早大腸)第30号	平成31年1月1日
	腹腔鏡下仙骨脛固定術	(腹仙骨固)第7号	平成31年1月1日
	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	(胃瘻造)第84号	平成31年1月1日
	輸血管理料Ⅱ	(輸血Ⅱ)第94号	平成31年1月1日
	輸血適正使用加算	(輸適)第78号	平成31年1月1日
	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	(造設前)第75号	平成31年1月1日
	胃瘻造設時嚥下機能評価加算	(胃瘻造嚥)第57号	平成31年1月1日
	麻酔管理料(Ⅰ)	(麻管Ⅰ)第191号	平成31年1月1日
	保険医療機関間の連携による病理診断	(連携診)第15号	令和元年6月1日
	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製	(連組織)第6号	令和元年6月1日
	病理診断管理加算1	(病理診1)第20号	平成31年1月1日
	悪性腫瘍病理組織標本加算	(悪病組)第14号	平成31年1月1日
	入院時食事療養費/生活療養(Ⅰ)	(食)第1020号	平成31年1月1日
	酸素の購入単価	(酸単)第13568号	令和3年4月1日 (毎年届出)

3. 組織図

(令和3年4月1日現在)



4. 職員数

(令和4年3月31日現在)

(1) 病院

(単位：人)

	常勤職員	非常勤職員	実人員計	換算人員計
医 師	49	38	87	58.1
研 修 医	16		16	16.0
薬 剤 師	17	1	18	17.2
診療放射線技師	13		13	18.0
臨床検査技師	22	2	24	22.8
臨床工学技士	7		7	7.0
管理栄養士	6		6	6.0
栄 養 士	6		6	6.0
理学療法士	12		12	13.0
作業療法士	4		4	4.0
言語聴覚士	4		4	4.0
視能訓練士	4		4	4.0
臨床心理士	1		1	1.0
社会福祉士	6		6	6.0
精神保健福祉士	1		1	1.0
保 健 師	6		6	6.0
助 産 師	20		20	20.0
看 護 師	277	13	290	257.4
准 看 護 師	4	1	5	3.7
事務職員	64	1	65	64.8
技 術 員	1		1	1.0
調 理 師	5		5	5.0
ボイラー技士等	1		1	1.0
看護助手	28	2	30	29.7
放射線助手		1	1	0.6
業 務 員	9		9	7.0
小 計	583	59	642	580.3

(2) 付帯事業

(単位：人)

	常勤職員	非常勤職員	実人員計	換算人員計
訪問看護ステーション職員	5		5	5.0
計	5	0	5	5.0

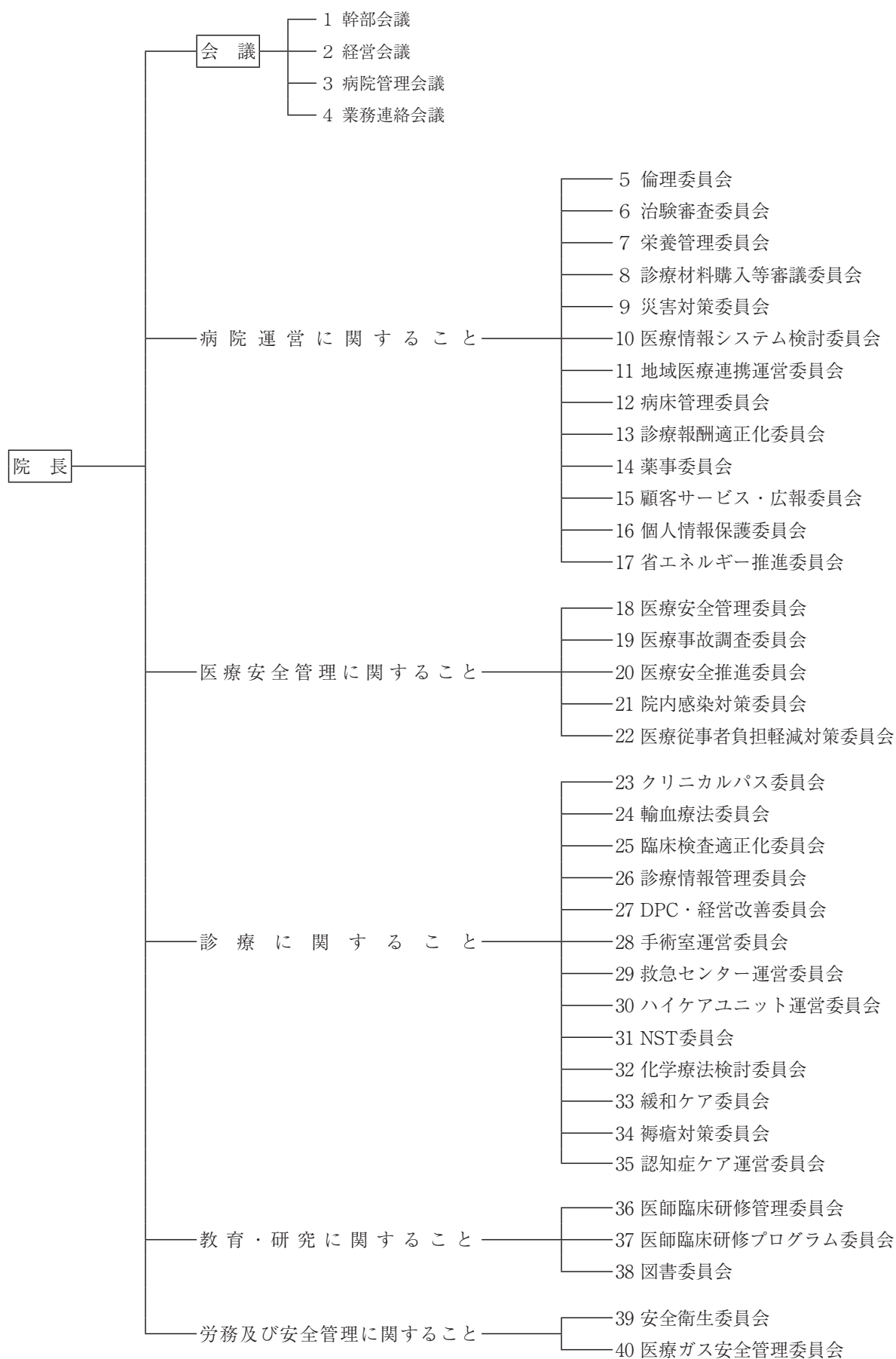
(3) 合計

(単位：人)

	常勤職員	非常勤職員	実人員計	換算人員計
(1) + (2)	588	59	647	608.9

5. 福島赤十字病院会議及び委員会

令和3年4月1日現在



6. 救護班名簿

(令和3年4月1日現在)

(1) 常備救護班

	第1救護班	所属	第2救護班	所属	第3救護班	所属	第4救護班	所属
医 師	菅野有紀子	医局 (消化器内科部長)	浅間 宏之	医局 (消化器内科部)	阪本 貴之	医局 (循環器内科部)	大須賀文彦	医局 (外科部)
看護師長	武井 明美	5 A病棟	武田 里美	3 B病棟	安達 明美	7 階病棟	成澤 裕美	4 階病棟
看護師	三浦 愛	6 A病棟	國分 朋子	6 B病棟	成尾ありさ	外来	柳田 美穂	3 B病棟
	渡邊 義文	5 B病棟	斎藤 駿	手術室	山口 広夢	3 A病棟	三浦 将克	5 B病棟
主 事	菅野 正幸	総務課	池田 久光	用度施設課	菊田 基晴	医事課	山名慎一郎	会計課
	幕田 高平	検査部	佐藤 勝行	放射線科	藤橋 伸弘	リハビリテーション科	村上 風太	臨床工学技術課

	第5救護班	所属	第6救護班	所属	第7救護班	所属	第8救護班	所属
医 師	井上 卓哉	医局 (呼吸器外科部)	佐藤 法義	医局 (整形外科部)	大原 美希	医局 (産婦人科部)	多田 靖宏	医局 (耳鼻咽喉科部)
看護師長	菅野いずみ	6 B病棟	泉 弘子	手術室	鈴木 牧子	6 A病棟	奈良輪弘美	3 A病棟
看護師	清和 彩子	6 A病棟	佐藤 裕子	7 階病棟	萩原 暁美	外来	本田 裕子	手術室
	野坂 雄史	5 A病棟	武田 良平	3 B病棟	長沢 恵	5 B病棟	田島 一樹	3 B病棟
主 事	金原 昭世	医事課	奈良輪大輔	医療情報システム課	渡辺 源貴	医事課	佐藤 隆昭	医療情報システム課
	三浦 義喜	検査部	明田 充弘	放射線科	三浦 友輔	リハビリテーション科	小河原貴之	栄養課

薬 剤 師	市橋 淳	緑上 淳一	渡部 寿康	川村 早苗	佐藤 南	井上可奈子	二瓶 瑤子	酒井 亮
	菊池 洋平	安齋 英里	古賀 彩織	大竹麻衣子	小野優紀恵	武藤 芳和	佐藤 綾香	黒田 彩佳
	矢葺 優佳	猪股 育美						

助 産 師	橘 智寿子	齋藤 幸恵	赤井みゆき	金成 美和
-------	-------	-------	-------	-------

こころのケア 指 導 者	高根 晴美	地域医療連携室	菅野 直樹	地域医療連携室	武田 里美	3 B病棟	成澤 裕美	4 階病棟
-----------------	-------	---------	-------	---------	-------	-------	-------	-------

(2) 福島赤十字病院 統括DMAT(1人)

職名	氏名	所属
医 師	渡部 洋一	医局 (脳神経外科)

(3) 福島赤十字病院 日本DMAT隊員(23人)

区分	第1班	所属	第2班	所属	第3班	所属	第4班	所属
医 師	市川 剛	医局 (脳神経外科)	遠藤 豪一	医局 (外科)	渡部 研一	医局 (循環器内科)	中村耕一郎	医局 (脳神経内科)
看護師	奈良輪弘美	3 A病棟	泉 弘子	手術室	渡邊あゆみ	外来 (ER)	萩原 暁美	外来
	金成 美和	4 病棟	原田 瑞穂	3 A病棟	鈴木 安英	3 A病棟	梅宮 誠	手術室
	鈴木 直人	手術室	田島 一樹	3 B病棟	武田 良平	3 B病棟		
業務調整員	渡部 寿康	薬剤部	久保 芳宏	支部事業推進課	橋本 健一	臨床工学技術課	野地 幸次	用度施設課
	野崎 謙司	支部事業推進課	松本 琢也	支部総務課	野田 誠	総務課	葛岡 大輔	総務課

(4) 福島県DMAT隊員(7人)

職名	氏名	所属
看護師	朝倉 恵実	5 B病棟
	山口 広夢	3 A病棟
	北村 慶	3 A病棟
業務調整員	酒井 亮	薬剤部
	山名慎一郎	会計課
	佐藤 隆昭	医療情報システム課
	渡辺 源貴	医事課

(5)福島県災害医療コーディネーター(2人)

職 名	氏名
医師	渡部 洋一
事務職	久保 芳宏

(6)日赤原子力災害医療アドバイザー(2人)

職 名	氏名
医師	中村耕一郎
診療放射線技師	海藤 隆紀

(7)日赤災害医療コーディネーター(5人)

職 名	氏名
医師	渡部 洋一
医師	遠藤 豪一
医師	渡部 研一
医師	市川 剛
医師	中村耕一郎

(8)日赤災害医療コーディネートスタッフ(10人)

職 名	氏名
事務職	久保 芳宏
事務職	野田 誠
看護師	安達 明美
看護師	渡邊あゆみ
看護師	奈良輪弘美
看護師	鈴木 安英
薬剤師	渡部 寿康
事務職	野地 幸次
事務職	松本 琢也
事務職	野崎 謙司

(9)原子力災害医療派遣チーム研修修了者(11人)

職 名	氏名
医師	市川 剛
看護師	齋藤 幸恵
看護師	志賀 慶子
診療放射線技師	玉根 勇樹
事務職	渡辺 源貴
医師	中村耕一郎
診療放射線技師	海藤 隆紀
薬剤師	酒井 亮
事務職	山名慎一郎
診療放射線技師	明田 充弘
事務職	葛岡 大輔

(10)原子力災害時医療中核人材研修修了者(11人)

職 名	氏名
看護師	成澤 裕美
看護師	小林 洋子
看護師	岩崎 睦子
診療放射線技師	海藤 隆紀
医師	中村耕一郎
看護師	鈴木 牧子
看護師	黒沢真由美
診療放射線技師	玉根 勇樹
看護師	柳田 美穂
看護師	清和 彩子
診療放射線技師	明田 充弘

III

統計

1. 令和3年度実績表

単位：人(患者延数、1日平均)日(在院日数)、円(稼働額、診療単価)

	入 院				外 来			合 計		
	患者延数	1日平均	在院日数	診療稼働額	診療単価	患者延数	1日平均	診療稼働額	診療単価	診療稼働額合計
内 科	252	0.7	14.8	10,980,094	43,572	5,311	21.9	70,780,569	13,327	81,760,663
リウマチ・膠原病内科	2,652	7.3	13.5	151,460,044	57,112	6,421	26.5	156,320,590	24,345	307,780,634
消化器内科	15,829	43.4	10.9	840,135,666	53,076	16,421	67.9	346,421,531	21,096	1,186,557,197
糖尿病・代謝内科	1,737	4.8	16.6	71,066,044	40,913	9,341	38.6	87,959,290	9,416	159,025,334
小 児 科	224	0.6	5.0	11,911,774	53,178	2,404	9.9	35,102,890	14,602	47,014,664
外 科	8,488	23.3	14.9	535,013,992	63,032	7,795	32.2	192,718,474	24,723	727,732,466
整 形 外 科	15,716	43.1	20.2	948,597,527	60,359	14,009	57.9	98,048,784	6,999	1,046,646,311
脳神経外科	7,088	19.4	11.9	537,157,798	75,784	7,014	29.0	88,446,792	12,610	625,604,590
皮 膚 科	110	0.3	9.5	4,697,284	42,703	4,702	19.4	19,954,418	4,244	24,651,702
泌 尿 器 科	834	2.3	5.6	43,405,508	52,045	3,512	14.5	36,590,107	10,419	79,995,615
産 婦 人 科	5,468	15.0	6.9	412,734,312	75,482	10,956	45.3	112,503,480	10,269	525,237,792
眼 科	1,126	3.1	1.1	110,548,408	98,178	7,450	30.8	56,111,103	7,532	166,659,511
耳 鼻 咽 喉 科	1,569	4.3	5.0	122,581,554	78,127	4,965	20.5	43,898,221	8,842	166,479,775
麻 酔 科	20	0.1	3.2	1,762,510	88,126	734	3.0	1,625,570	2,215	3,388,080
精 神 科	1,689	4.6	32.0	46,965,997	27,807	8,994	37.2	46,503,885	5,171	93,469,882
心臓血管外科	1,330	3.6	16.7	166,848,039	125,450	1,598	6.6	14,672,624	9,182	181,520,663
循環器内科	10,569	29.0	11.7	789,949,481	74,742	16,725	69.1	160,063,352	9,570	950,012,833
形 成 外 科	204	0.6	10.3	15,755,656	77,234	2,564	10.6	35,972,313	14,030	51,727,969
脳神経内科	4,562	12.5	16.4	229,102,698	50,220	5,967	24.7	44,804,539	7,509	273,907,237
放 射 線 科	0	0.0	0.0	0	0	22	0.1	796,250	36,193	796,250
呼 吸 器 外 科	5,087	13.9	15.6	363,265,177	71,410	5,421	22.4	219,668,176	40,522	582,933,353
救 急 科	0	0.0	0.0	0	0	46	0.2	1,854,952	40,325	1,854,952
合 計	84,554	231.7	11.7	5,413,939,563	64,029	142,372	588.3	1,870,817,910	13,140	7,284,757,473

2. 入院 診療科別・月別 患者数、稼働額、単価

(1) 入院患者数

(単位：人)

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内 科	252	57	22	7	30	13	9	4	9	49	52	0	0
リウマチ・膠原病内科	2,652	296	261	231	191	189	233	244	262	217	153	134	241
消化器内科	15,829	1,458	1,338	1,378	1,295	1,505	1,524	1,413	1,331	1,101	1,204	1,067	1,215
糖尿病・代謝内科	1,737	139	245	170	203	99	148	97	101	221	110	78	126
小 児 科	224	0	0	10	39	40	53	18	23	19	2	20	0
外 科	8,488	790	618	630	753	832	820	734	649	641	707	663	651
整 形 外 科	15,716	1,097	1,460	1,226	1,106	1,177	1,203	1,069	1,463	1,433	1,595	1,363	1,524
脳神経外科	7,088	681	704	532	547	647	625	430	459	562	595	618	688
皮膚科	110	0	0	23	10	27	26	0	7	0	0	0	17
泌尿器科	834	44	19	46	53	68	91	99	84	75	94	77	84
産婦人科	5,468	506	382	416	482	506	407	464	538	451	425	448	443
眼 科	1,126	136	84	105	91	102	126	105	96	81	76	8	116
耳鼻咽喉科	1,569	164	140	131	142	171	126	172	98	77	135	86	127
麻 酔 科	20	11	0	0	0	0	0	3	2	0	0	0	4
精神科	1,689	164	158	159	151	180	128	166	123	114	129	82	135
心臓血管外科	1,330	117	151	94	75	139	116	104	88	89	115	146	96
循環器内科	10,569	783	931	877	953	752	559	954	802	917	907	1,082	1,052
形成外科	204	7	8	24	18	11	19	32	39	15	0	0	31
脳神経内科	4,562	389	334	469	324	365	313	285	369	366	392	472	484
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼吸器外科	5,087	339	476	475	449	429	449	439	464	517	402	328	320
救 急 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	84,554	7,178	7,331	7,003	6,912	7,252	6,975	6,832	7,007	6,945	7,093	6,672	7,354
1 日 平 均	231.7	239.3	236.5	233.4	223.0	233.9	232.5	220.4	233.6	224.0	228.8	238.3	237.2

(2) 入院稼働額

(単位：千円)

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	10,980	2,350	1,053	239	1,111	531	480	280	508	2,361	2,069	0	0
リウマチ・膠原病内科	151,460	17,321	13,485	12,213	12,320	12,049	12,569	14,437	15,079	12,589	9,500	7,867	12,032
消化器内科	840,136	78,298	71,218	71,956	71,022	80,144	77,596	71,684	73,346	57,653	64,260	60,999	61,960
糖尿病・代謝内科	71,066	6,734	9,000	6,484	7,676	4,335	5,791	3,899	3,988	10,038	4,125	3,949	5,046
小児科	11,912	0	0	514	2,063	2,092	3,282	766	1,091	1,304	71	728	0
外科	535,014	48,241	39,317	38,073	49,624	54,230	46,267	47,616	44,363	38,644	44,782	40,760	43,096
整形外科	948,598	67,244	81,181	74,837	67,814	71,619	73,247	67,502	89,084	82,355	104,645	78,164	90,905
脳神経外科	537,158	45,528	48,916	41,182	41,587	47,593	53,856	32,441	34,929	48,797	44,986	44,910	52,433
皮膚科	4,697	0	0	1,032	413	1,162	1,093	0	299	0	0	0	698
泌尿器科	43,406	1,938	1,084	2,750	2,654	2,744	4,392	4,413	4,680	4,763	5,629	3,922	4,435
産婦人科	412,734	40,707	25,793	35,364	35,542	35,668	31,601	36,527	38,311	33,285	32,940	31,615	35,383
眼科	110,548	12,986	8,633	10,381	9,026	9,675	12,139	10,665	9,417	8,120	7,371	867	11,270
耳鼻咽喉科	122,582	11,496	10,712	10,239	11,548	14,454	11,948	11,237	7,062	5,210	10,745	7,012	10,919
麻酔科	1,763	888	0	0	0	0	0	301	219	0	0	0	355
精神科	46,966	4,485	4,242	4,628	4,017	5,083	4,261	4,520	2,677	2,949	3,866	2,494	3,744
心臓血管外科	166,848	15,216	16,408	12,124	11,343	17,155	16,920	6,494	13,090	11,138	17,376	17,190	12,395
循環器内科	789,949	64,721	69,569	69,841	69,267	61,532	48,793	71,646	58,292	75,352	66,513	69,254	65,169
形成外科	15,756	605	900	3,841	1,404	1,641	1,609	1,537	1,538	758	0	0	1,923
脳神経内科	229,103	19,896	18,255	24,092	18,087	21,526	16,831	14,751	17,372	16,523	18,866	21,312	21,590
呼吸器外科	363,265	22,053	35,108	29,267	31,841	31,204	32,280	31,328	33,541	35,897	28,719	26,107	25,919
合計	5,413,940	460,707	454,874	449,057	448,359	474,437	454,955	432,045	448,885	447,733	466,464	417,150	459,274

(3) 入院単価

(単位：円)

	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	43,572	41,225	47,867	34,081	37,042	40,831	53,287	69,880	56,457	48,178	39,782	—	—
リウマチ・膠原病内科	57,112	58,518	51,666	52,870	64,503	63,750	53,943	59,167	57,552	58,012	62,094	58,712	49,924
消化器内科	53,076	53,702	53,227	52,218	54,843	53,252	50,916	50,732	55,106	52,364	53,372	57,169	50,996
糖尿病・代謝内科	40,913	48,447	36,735	38,139	37,814	43,791	39,126	40,199	39,485	45,420	37,501	50,634	40,050
小児科	53,178	—	—	51,409	52,891	52,309	61,928	42,541	47,454	68,646	35,475	36,400	—
外科	63,032	61,065	63,620	60,433	65,902	65,181	56,424	64,873	68,356	60,286	63,341	61,479	66,199
整形外科	60,359	61,298	55,603	61,042	61,315	60,849	60,887	63,145	60,891	57,470	65,608	57,347	59,649
脳神経外科	75,784	66,854	69,483	77,410	76,027	73,560	86,169	75,445	76,098	86,827	75,607	72,670	76,210
皮膚科	42,703	—	—	44,869	41,317	43,020	42,049	—	42,774	—	—	—	41,052
泌尿器科	52,045	44,056	57,076	59,784	50,075	40,349	48,264	44,575	55,718	63,513	59,882	50,933	52,802
産婦人科	75,482	80,448	67,521	85,010	73,739	70,489	77,645	78,721	71,209	73,802	77,506	70,568	79,871
眼科	98,178	95,483	102,777	98,865	99,185	94,856	96,341	101,567	98,094	100,241	96,982	108,353	97,156
耳鼻咽喉科	78,127	70,097	76,511	78,157	81,327	84,528	94,825	65,332	72,059	67,662	79,594	81,530	85,980
麻酔科	88,126	80,713	—	—	—	—	—	100,190	109,410	—	—	—	88,820
精神科	27,807	27,349	26,849	29,105	26,602	28,241	33,289	27,230	21,762	25,865	29,970	30,411	27,735
心臓血管外科	125,450	130,048	108,660	128,984	151,238	123,416	145,859	62,444	148,753	125,142	151,093	117,739	129,118
循環器内科	74,742	82,658	74,725	79,636	72,683	81,824	87,287	75,101	72,683	82,172	73,333	64,006	61,948
形成外科	77,234	86,498	112,445	160,062	77,992	149,161	84,669	48,037	39,427	50,502	—	—	62,045
脳神経内科	50,220	51,147	54,657	51,370	55,824	58,975	53,773	51,759	47,078	45,146	48,129	45,153	44,608
呼吸器外科	71,410	65,053	73,757	61,615	70,915	72,736	71,893	71,363	72,286	69,434	71,441	79,596	80,998
合計	64,029	64,183	62,048	64,124	64,867	65,422	65,226	63,238	64,062	64,468	65,764	62,522	62,452

3. 外来 診療科別・月別 患者数、稼働額、単価

(1) 外来患者数

(単位：人)

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内 科	5,311	450	484	435	511	458	433	479	418	443	401	357	442
リウマチ・膠原病内科	6,421	589	502	533	536	575	528	533	541	532	534	428	590
消化器内科	16,421	1,285	1,152	1,315	1,254	1,295	1,418	1,530	1,567	1,497	1,357	1,258	1,493
糖尿病・代謝内科	9,341	838	763	721	797	804	823	747	780	828	749	683	808
小児科	2,404	148	126	158	197	266	211	207	204	257	193	190	247
外科	7,795	664	566	698	648	603	725	717	683	689	601	525	676
整形外科	14,009	1,046	1,043	1,126	1,210	1,160	1,295	1,222	1,212	1,220	1,189	998	1,288
脳神経外科	7,014	629	580	573	581	575	631	638	594	601	540	432	640
皮膚科	4,702	398	344	416	388	434	384	386	421	386	394	313	438
泌尿器科	3,512	257	210	256	246	237	287	294	326	347	331	304	417
産婦人科	10,956	908	786	908	941	881	880	936	967	972	884	888	1,005
眼科	7,450	672	600	624	631	606	635	658	610	624	600	495	695
耳鼻咽喉科	4,965	435	400	413	443	506	499	418	353	392	383	309	414
麻酔科	734	70	52	55	62	45	54	58	78	72	67	53	68
精神科	8,994	780	687	761	711	773	780	680	747	783	733	710	849
心臓血管外科	1,598	171	136	134	153	114	133	138	124	155	116	88	136
循環器内科	16,725	1,444	1,320	1,401	1,383	1,420	1,389	1,361	1,473	1,506	1,336	1,237	1,455
形成外科	2,564	213	184	229	219	189	205	234	226	240	210	196	219
脳神経内科	5,967	539	462	490	471	475	541	469	482	512	528	413	585
放射線科	22	2	4	3	1	2	2	0	0	1	3	1	3
呼吸器外科	5,421	433	312	389	443	482	472	512	482	453	463	430	550
救急科	46	4	1	0	3	3	5	4	1	7	2	9	7
合計	142,372	11,975	10,714	11,638	11,829	11,903	12,330	12,221	12,289	12,517	11,614	10,317	13,025
1日平均	588.3	570.2	630.2	529.0	563.3	595.2	616.5	555.5	646.8	625.9	611.3	573.2	566.3

(2) 外来稼働額

(単位：千円)

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	70,781	5,917	6,689	5,722	6,981	6,206	5,996	6,273	5,843	5,466	4,892	5,386	5,409
リウマチ・膠原病内科	156,321	13,700	13,834	14,955	12,493	16,461	11,793	12,531	12,868	11,162	12,062	10,123	14,338
消化器内科	346,422	30,801	25,251	31,843	27,096	26,627	25,749	26,269	33,159	29,199	28,642	26,156	35,629
糖尿病・代謝内科	87,959	8,223	7,175	7,093	7,778	7,522	7,794	7,258	7,326	7,605	7,351	5,288	7,547
小児科	35,103	3,465	3,117	2,736	3,002	3,277	2,827	2,606	2,708	2,798	2,726	2,800	3,042
外科	192,718	16,685	14,697	17,801	14,929	14,225	17,012	15,929	16,807	15,593	15,420	15,789	17,832
整形外科	98,049	6,622	7,066	8,051	8,708	7,534	8,458	8,281	9,209	9,512	8,488	7,382	8,740
脳神経外科	88,447	8,297	7,375	7,710	7,153	7,307	7,782	8,287	7,220	7,569	6,587	5,204	7,955
皮膚科	19,954	1,573	1,687	1,979	1,093	1,737	2,116	1,069	1,709	1,820	1,436	1,384	2,350
泌尿器科	36,590	2,942	1,893	2,718	2,485	2,447	3,111	3,033	3,004	3,907	3,913	3,053	4,084
産婦人科	112,503	9,306	8,700	9,654	10,150	8,212	8,582	9,616	9,496	10,891	9,944	8,998	8,953
眼科	56,111	5,328	4,876	4,890	4,631	4,559	5,103	4,851	4,739	4,494	4,323	3,475	4,843
耳鼻咽喉科	43,898	4,124	3,020	3,610	4,442	4,562	4,384	4,121	3,088	3,606	3,272	2,398	3,271
麻酔科	1,626	161	125	114	157	78	91	205	134	125	145	158	132
精神科	46,504	3,791	3,521	4,053	3,880	4,166	3,976	3,639	3,874	4,092	3,778	3,182	4,551
心臓血管外科	14,673	1,543	1,396	1,418	1,379	1,065	970	1,399	1,134	1,325	993	809	1,243
循環器内科	160,063	13,656	12,191	13,758	13,326	13,533	13,047	14,123	13,764	13,724	12,767	11,757	14,420
形成外科	35,972	3,325	1,940	2,945	2,916	2,572	2,942	3,563	2,769	3,382	3,279	2,631	3,708
脳神経内科	44,805	4,128	3,094	3,748	3,349	3,792	3,528	4,131	3,634	3,801	3,886	3,259	4,455
放射線科	796	63	144	124	48	63	79	0	0	30	112	30	103
呼吸器外科	219,668	15,360	13,790	16,795	16,228	20,132	21,489	20,501	18,898	18,493	20,438	18,201	19,344
救急科	1,855	78	37	27	55	70	140	124	25	474	58	488	277
合計	1,870,818	159,087	141,616	161,744	152,280	156,147	156,988	157,809	161,407	159,067	154,512	137,950	172,228

(3) 外来単価

(単位：円)

	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	13,327	13,149	13,820	13,153	13,662	13,549	13,848	13,096	13,979	12,339	12,199	15,088	12,238
リウマチ・膠原病内科	24,345	23,259	27,557	28,058	23,308	28,629	22,335	23,511	23,786	20,981	22,588	23,652	24,302
消化器内科	21,096	23,969	21,919	24,215	21,608	20,561	18,159	17,169	21,161	19,505	21,107	20,791	23,864
糖尿病・代謝内科	9,416	9,813	9,403	9,838	9,759	9,356	9,470	9,716	9,392	9,185	9,815	7,742	9,340
小児科	14,602	23,409	24,739	17,314	15,240	12,318	13,399	12,590	13,275	10,885	14,125	14,736	12,316
外科	24,723	25,128	25,966	25,503	23,038	23,591	23,465	22,216	24,607	22,631	25,657	30,073	26,379
整形外科	6,999	6,330	6,774	7,150	7,196	6,495	6,531	6,776	7,598	7,797	7,139	7,396	6,786
脳神経外科	12,610	13,191	12,715	13,456	12,312	12,707	12,332	12,989	12,156	12,594	12,199	12,047	12,430
皮膚科	4,244	3,953	4,905	4,757	2,818	4,002	5,512	2,769	4,060	4,715	3,645	4,423	5,366
泌尿器科	10,419	11,449	9,016	10,619	10,102	10,326	10,838	10,315	9,214	11,259	11,822	10,043	9,793
産婦人科	10,269	10,249	11,069	10,632	10,787	9,322	9,752	10,274	9,820	11,204	11,249	10,133	8,909
眼科	7,532	7,928	8,126	7,836	7,340	7,524	8,036	7,372	7,768	7,202	7,205	7,021	6,968
耳鼻咽喉科	8,842	9,481	7,551	8,740	10,028	9,017	8,786	9,859	8,747	9,199	8,543	7,760	7,900
麻酔科	2,215	2,304	2,398	2,077	2,539	1,728	1,683	3,530	1,717	1,733	2,170	2,985	1,944
精神科	5,171	4,860	5,125	5,326	5,457	5,389	5,098	5,352	5,186	5,226	5,154	4,482	5,361
心臓血管外科	9,182	9,023	10,263	10,583	9,010	9,344	7,291	10,135	9,144	8,551	8,558	9,189	9,140
循環器内科	9,570	9,457	9,235	9,820	9,635	9,530	9,393	10,377	9,344	9,113	9,556	9,504	9,911
形成外科	14,030	15,610	10,543	12,860	13,316	13,611	14,353	15,225	12,253	14,091	15,614	13,422	16,933
脳神経内科	7,509	7,659	6,698	7,649	7,109	7,984	6,521	8,808	7,540	7,423	7,360	7,891	7,616
放射線科	36,193	31,645	36,023	41,287	48,490	31,510	39,320	-	-	30,100	37,210	30,100	34,343
呼吸器外科	40,522	35,473	44,200	43,175	36,631	41,767	45,527	40,042	39,207	40,823	44,142	42,328	35,171
救急科	40,325	19,543	36,620	-	18,407	23,193	28,036	31,118	25,270	67,741	29,170	54,260	39,606
合計	13,140	13,285	13,218	13,898	12,873	13,118	12,731	12,913	13,134	12,708	13,304	13,371	13,223

4. 診療科別・行為別稼働額

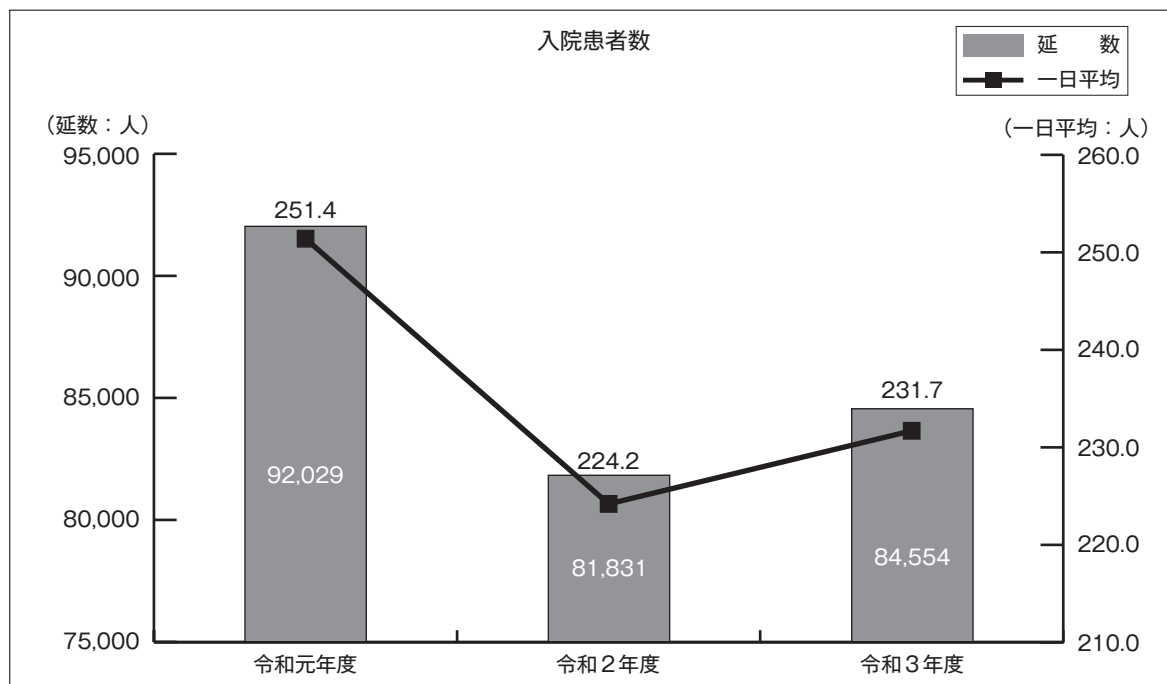
(単位：千円)

		入院料収益				入院診療収益／外来診療収益												自費収益(C)			合計 (A) + (B) + (C)	
		DPC 稼働額	入院料	食事 療養費	計(A)	検査料	画像 診断料	投薬料	注射料	処置料	手術料等	初診 再診料	医学 管理料	在宅 管理料	理学 療法料	精神 療法料	処方箋料 その他	小計(B)	室料 差額	文書検診 その他		
	内科	入院	7,983	1,061	382	9,425	212	74	74	120	60	57	5	138	410	361	45	0	1,555	2,156	92	13,228
	外来		0	0	0	0	27,235	10,494	102	323	118	178	5,330	2,706	21,882	12	0	2,402	70,781	0	7,639	78,420
	消化器内科	入院	88,484	15,038	3,890	107,412	2,702	438	5,482	17,111	101	6,244	126	1,879	824	8,921	220	0	44,048	3,817	267	155,545
	外来		0	0	0	0	40,436	5,930	37	89,160	142	878	4,573	2,640	9,159	0	0	3,365	156,321	0	1,006	157,326
	糖尿病・代謝内科	入院	541,419	79,911	18,362	639,691	18,651	2,493	6,028	19,576	1,782	11,986	1,557	11,270	1,234	16,729	1,016	249	200,444	22,900	1,597	864,633
	外来		0	0	0	0	126,670	39,575	120	131,478	705	17,177	13,638	8,824	3,370	4	0	4,861	346,422	0	3,798	350,219
	小児科	入院	53,507	8,041	3,034	64,582	886	160	335	198	29	1,139	87	1,113	753	1,763	21	0	6,484	1,549	94	72,709
	外来		0	0	0	0	41,222	1,235	8	155	3	0	6,364	1,108	32,413	0	0	5,452	87,959	0	461	88,420
	外科	入院	5,241	5,671	168	11,080	296	47	12	15	42	119	80	222	0	0	0	0	832	24	33	11,968
	外来		0	0	0	0	2,622	298	5	15,211	0	0	893	5,908	9,887	0	0	279	35,103	0	14,799	49,902
	整形外科	入院	266,125	61,677	10,288	338,090	5,585	1,597	1,345	2,971	1,554	167,141	511	5,243	604	9,907	465	2	196,924	14,051	575	549,640
	外来		0	0	0	0	34,029	30,813	80	101,433	601	4,554	5,908	11,986	902	6	0	2,406	192,718	0	2,179	194,898
	整形外科	入院	415,737	73,008	28,545	517,290	7,099	2,368	2,048	2,204	1,960	354,677	1,648	10,734	419	47,520	621	10	431,308	15,237	632	964,466
	外来		0	0	0	0	15,560	34,135	467	6,700	3,060	8,570	13,295	5,051	1,763	4,146	0	5,300	98,049	0	6,540	104,589
	脳神経外科	入院	248,276	74,939	10,463	333,678	7,585	3,746	1,201	626	201	148,477	1,524	5,836	38	33,980	99	168	203,480	11,974	908	550,040
	外来		0	0	0	0	10,114	56,229	168	2,486	328	2,118	7,659	6,042	595	273	0	2,434	88,447	0	3,601	92,048
	皮膚科	入院	3,905	127	190	4,223	122	1	16	0	0	6	25	106	0	200	0	0	475	0	7	4,704
	外来		0	0	0	0	3,344	108	27	7,210	1,144	175	3,833	1,679	36	10	0	2,388	19,954	0	362	20,317
	泌尿器科	入院	30,056	1,879	1,216	33,151	1,916	20	123	24	4	6,583	53	700	49	768	16	0	10,255	2,518	57	45,981
	外来		0	0	0	0	11,582	9,798	37	5,184	1,266	724	3,034	1,730	2,077	0	0	1,157	36,590	0	423	37,013
	産婦人科	入院	140,195	43,318	5,429	188,942	5,591	97	791	1,171	1,115	209,847	319	4,532	77	107	147	0	223,792	15,408	4,431	432,573
	外来		0	0	0	0	55,449	20,270	51	20,112	496	846	7,083	6,152	182	0	0	1,862	112,503	0	2,331	135,814

(単位：千円)

	入院料収益				入院診療収益／外来診療収益												自費収益(C)			合計 (A) + (B) + (C)	
	DPC 稼働額	入院料	食事 療養費	計(A)	検査料	画像 診断料	投薬料	注射料	処置料	手術料等	初診 再診料	医学 管理料	在宅 管理料	理学 療法料	精神 療法料	処方箋料 その他	小計(B)	室料 差額	文書検診 その他		
眼科	入院	34,723	698	1,116	36,537	50	0	807	3	2	71,029	3	2,093	0	8	16	0	74,011	2,385	1	112,935
	外来	0	0	0	0	40,181	1,140	4	58	114	3,575	5,580	1,969	0	2	0	3,489	56,111	0	624	56,735
耳鼻咽喉科	入院	52,031	6,950	2,000	60,981	2,439	191	232	37	11	54,974	247	2,861	0	608	0	0	61,600	3,123	39	125,744
	外来	0	0	0	0	21,380	9,309	47	1,501	388	1,194	5,275	2,518	278	937	0	1,070	43,898	0	1,520	45,418
麻酔科	入院	790	808	16	1,614	43	2	1	0	0	0	22	46	0	6	30	0	149	0	0	1,763
	外来	0	0	0	0	80	117	24	13	29	333	496	98	30	0	0	406	1,626	0	45	1,671
精神科	入院	58	30,148	3,089	33,295	2,050	899	1,217	566	418	14	36	730	0	2,140	5,599	0	13,671	60	44	47,070
	外来	0	0	0	0	2,459	1,609	20	1,330	1	0	6,520	2,124	635	4	26,891	4,912	46,504	0	1,906	48,410
心臓血管外科	入院	48,136	12,687	2,159	62,982	481	47	249	32	1,205	98,415	62	609	51	2,611	103	0	103,866	1,620	180	168,648
	外来	0	0	0	0	4,941	7,184	3	12	37	0	1,276	524	133	0	0	563	14,673	0	300	14,973
循環器内科	入院	376,909	97,535	16,858	491,302	18,917	1,838	6,384	1,937	1,207	241,507	1,212	8,205	715	16,389	336	0	298,648	7,925	1,307	799,182
	外来	0	0	0	0	83,996	20,593	114	2,650	642	90	13,097	11,904	18,059	195	0	8,725	160,063	0	2,531	162,594
形成外科	入院	6,106	184	321	6,611	100	1	58	0	481	8,133	0	127	18	226	0	0	9,145	816	10	16,582
	外来	0	0	0	0	11,937	994	588	26	147	18,409	2,977	159	67	19	0	648	35,972	0	563	36,535
神経内科	入院	147,238	43,262	6,793	197,293	3,600	1,090	1,016	510	102	1,375	662	2,933	128	20,341	51	2	31,809	4,326	269	233,697
	外来	0	0	0	0	9,738	15,416	59	1,231	38	1,203	5,239	4,273	4,777	12	0	2,819	44,805	0	1,792	46,597
放射線科	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	0	0	0	0	0	677	0	0	0	0	64	55	0	0	0	0	796	0	3,880	4,676
呼吸器外科	入院	161,921	40,606	8,745	211,272	5,437	1,186	1,510	15,669	698	113,119	393	4,152	600	8,189	134	906	151,993	8,951	302	372,518
	外来	0	0	0	0	22,759	38,306	20	140,666	79	65	5,035	9,348	1,874	250	0	1,265	219,668	0	1,577	221,245
救急科	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	0	0	0	0	545	464	2	67	401	5	176	188	0	2	0	4	1,855	0	365	2,220
合計	入院	2,628,841	597,547	123,063	3,349,451	83,761	16,295	28,930	62,770	10,972	1,602,716	8,570	63,530	5,919	170,774	8,914	1,337	2,064,489	118,840	10,846	5,543,625
	外来	0	0	0	0	546,922	296,715	1,912	526,787	9,648	60,094	113,523	85,094	91,756	5,871	26,891	54,007	1,819,221	0	14,661	1,965,822

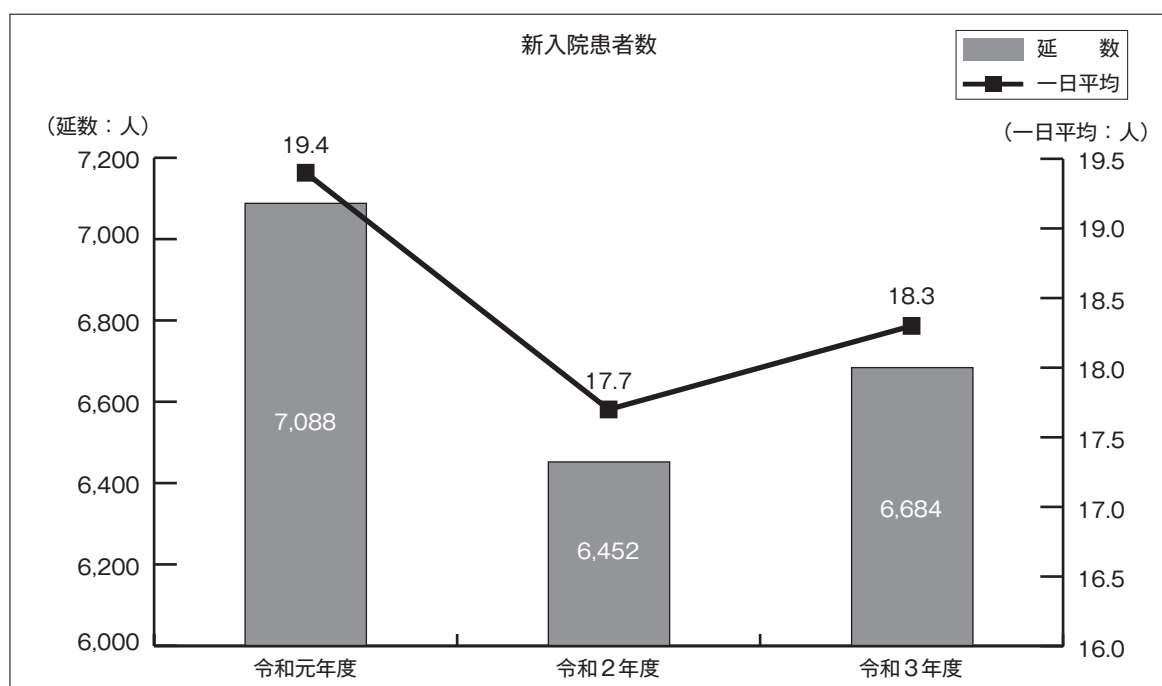
5. 入院患者数



(単位：人)

	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均
内 科	11,152	30.5	276	0.8	252	0.7
リウマチ・膠原病内科	—	—	3,052	8.4	2,652	7.3
消化器内科	11,741	32.1	14,096	38.6	15,829	43.4
糖尿病・代謝内科	2,165	5.9	1,697	4.6	1,737	4.8
小 児 科	196	0.5	166	0.5	224	0.6
外 科	7,193	19.7	8,047	22.0	8,488	23.3
整 形 外 科	13,665	37.3	14,454	39.6	15,716	43.1
脳神経外科	9,344	25.5	8,230	22.5	7,088	19.4
皮 膚 科	285	0.8	131	0.4	110	0.3
泌 尿 器 科	—	—	74	0.2	834	2.3
産 婦 人 科	6,318	17.3	4,869	13.3	5,468	15.0
眼 科	1,212	3.3	1,263	3.5	1,126	3.1
耳鼻咽喉科	1,952	5.3	1,599	4.4	1,569	4.3
麻 酔 科	51	0.1	28	0.1	20	0.1
精 神 科	1,626	4.4	1,979	5.4	1,689	4.6
心臓血管外科	2,901	7.9	1,847	5.1	1,330	3.6
循環器内科	11,804	32.3	10,568	29.0	10,569	29.0
形 成 外 科	191	0.5	333	0.9	204	0.6
脳神経内科	4,848	13.2	4,226	11.6	4,562	12.5
放 射 線 科	—	—	1	0.0	0	0.0
呼吸器外科	5,385	14.7	4,894	13.4	5,087	13.9
救 急 科	—	—	1	0.0	0	0.0
合 計	92,029	251.4	81,831	224.2	84,554	231.7

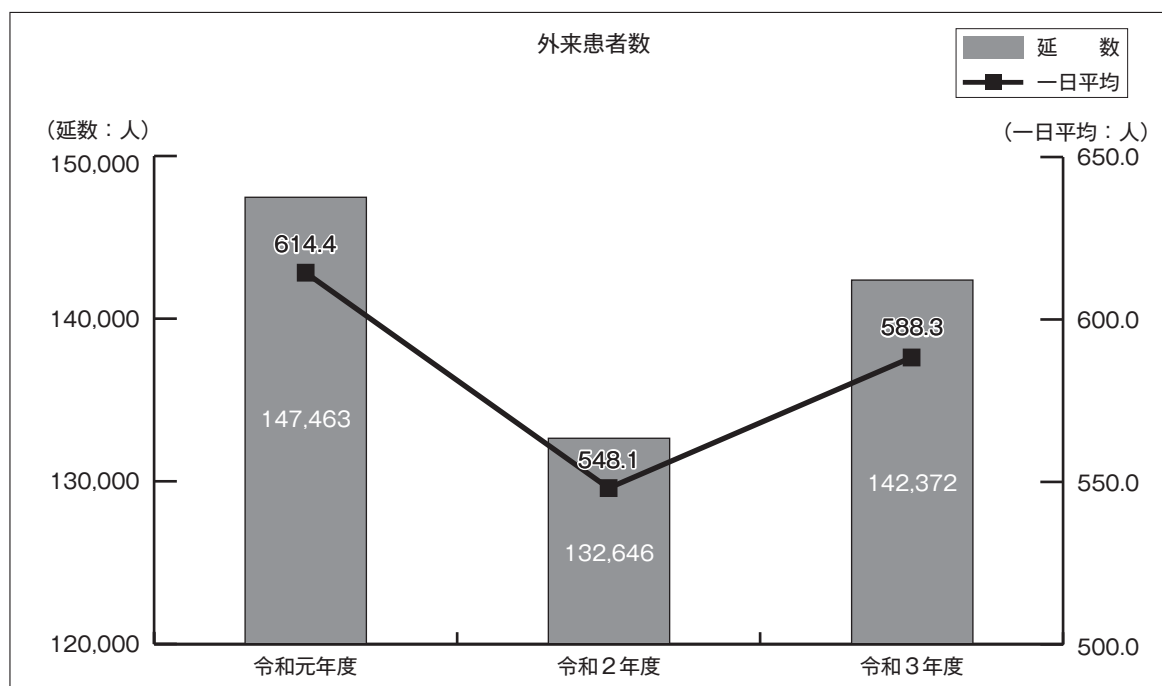
6. 新入院患者数



(単位: 人)

	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均
内 科	644	1.8	28	0.1	16	0.0
リウマチ・膠原病内科	—	—	189	0.5	173	0.5
消化器内科	1,014	2.8	1,298	3.6	1,350	3.7
糖尿病・代謝内科	129	0.4	95	0.3	100	0.3
小 児 科	51	0.1	31	0.1	37	0.1
外 科	496	1.4	480	1.3	520	1.4
整 形 外 科	689	1.9	707	1.9	749	2.1
脳神経外科	649	1.8	588	1.6	552	1.5
皮 膚 科	18	0.0	10	0.0	11	0.0
泌 尿 器 科	—	—	26	0.1	126	0.3
産 婦 人 科	808	2.2	655	1.8	697	1.9
眼 科	582	1.6	615	1.7	537	1.5
耳 鼻 咽 喉 科	332	0.9	262	0.7	266	0.7
麻 酔 科	13	0.0	9	0.0	6	0.0
精 神 科	45	0.1	51	0.1	45	0.1
心臓血管外科	179	0.5	123	0.3	74	0.2
循環器内科	770	2.1	732	2.0	840	2.3
形 成 外 科	30	0.1	24	0.1	17	0.0
脳神経内科	297	0.8	243	0.7	263	0.7
放 射 線 科	—	—	1	0.0	0	0.0
呼吸器外科	342	0.9	284	0.8	305	0.8
救 急 科	—	—	1	0.0	—	—
合 計	7,088	19.4	6,452	17.7	6,684	18.3

7. 外来患者数



(単位：人)

	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均
内 科	18,773	78.2	5,596	23.1	5,311	21.9
リウマチ・膠原病内科	—	—	6,228	25.7	6,421	26.5
消化器内科	10,427	43.4	14,675	60.6	16,421	67.9
糖尿病・代謝内科	8,654	36.1	8,905	36.8	9,341	38.6
小 児 科	2,873	12.0	2,218	9.2	2,404	9.9
外 科	7,903	32.9	7,133	29.5	7,795	32.2
整 形 外 科	13,624	56.8	11,532	47.7	14,009	57.9
脳神経外科	8,245	34.4	7,455	30.8	7,014	29.0
皮 膚 科	5,548	23.1	4,347	18.0	4,702	19.4
泌 尿 器 科	701	2.9	2,119	8.8	3,512	14.5
産 婦 人 科	9,823	40.9	9,489	39.2	10,956	45.3
眼 科	9,062	37.8	7,795	32.2	7,450	30.8
耳鼻咽喉科	6,226	25.9	4,619	19.1	4,965	20.5
麻 酔 科	882	3.7	846	3.5	734	3.0
精 神 科	9,653	40.2	8,673	35.8	8,994	37.2
心臓血管外科	4,012	16.7	2,653	11.0	1,598	6.6
循環器内科	17,428	72.6	16,020	66.2	16,725	69.1
形 成 外 科	2,602	10.8	2,016	8.3	2,564	10.6
脳神経内科	5,970	24.9	5,465	22.6	5,967	24.7
放 射 線 科	25	0.1	33	0.1	22	0.1
呼吸器外科	5,032	21.0	4,797	19.8	5,421	22.4
救 急 科	—	—	32	0.1	46	0.2
合 計	147,463	614.4	132,646	548.1	142,372	588.3

8. 診療科別稼働額

(単位：千円)

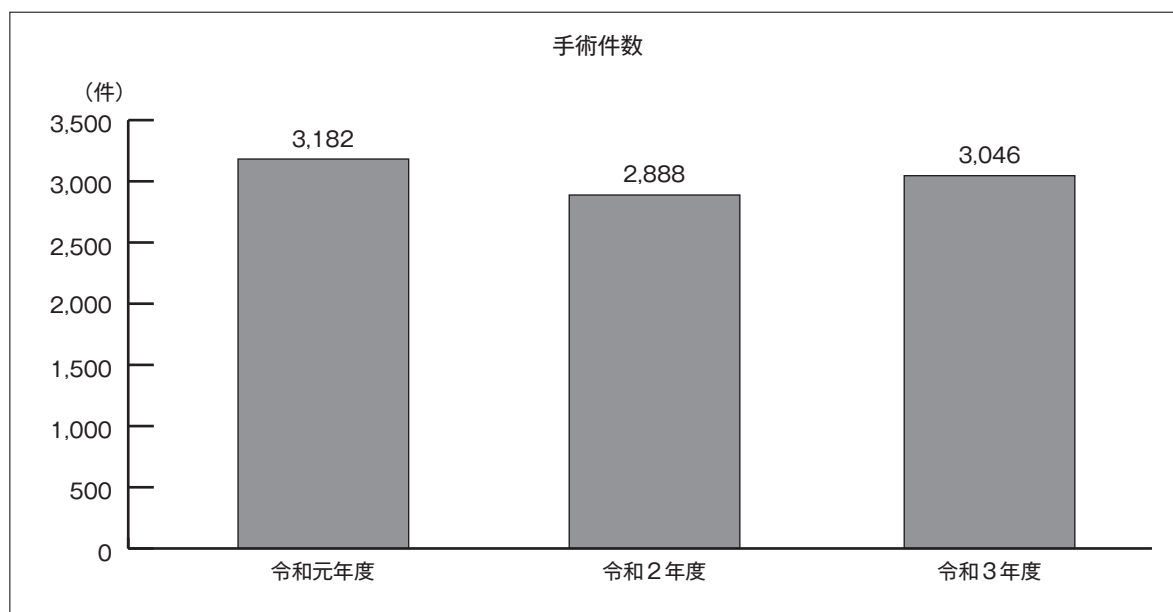
	令和元年度			令和2年度			令和3年度		
	入院	外来	計	入院	外来	計	入院	外来	計
内 科	476,914	340,503	817,417	12,195	71,902	84,097	10,980	70,781	81,761
リウマチ・膠原病内科	—	—	—	160,402	162,384	322,786	151,460	156,321	307,781
消化器内科	557,129	171,202	728,331	741,014	266,374	1,007,388	840,136	346,422	1,186,557
糖尿病・代謝内科	76,022	80,336	156,358	67,538	82,716	150,255	71,066	87,959	159,025
小 児 科	11,654	18,000	29,654	6,678	15,323	22,000	11,912	35,103	47,015
外 科	458,271	140,917	599,188	522,962	167,860	690,822	535,014	192,718	727,732
整 形 外 科	803,308	79,793	883,101	851,779	74,817	926,596	948,598	98,049	1,046,646
脳神経外科	603,461	98,064	701,525	594,688	92,702	687,391	537,158	88,447	625,605
皮 膚 科	9,452	18,818	28,269	4,936	18,539	23,475	4,697	19,954	24,652
泌 尿 器 科	—	4,248	4,248	4,104	19,900	24,004	43,406	36,590	79,996
産 婦 人 科	435,730	99,033	534,763	363,332	94,709	458,042	412,734	112,503	525,238
眼 科	118,985	63,330	182,315	129,208	59,146	188,354	110,548	56,111	166,660
耳鼻咽喉科	145,304	51,008	196,312	112,687	39,450	152,137	122,582	43,898	166,480
麻 酔 科	2,927	1,983	4,910	1,905	1,776	3,682	1,763	1,626	3,388
精 神 科	42,978	48,772	91,750	55,488	43,023	98,511	46,966	46,504	93,470
心臓血管外科	256,453	26,768	283,222	185,256	21,163	206,419	166,848	14,673	181,521
循環器内科	748,235	151,307	899,542	686,730	144,226	830,956	789,949	160,063	950,013
形 成 外 科	13,345	36,236	49,582	18,796	31,512	50,309	15,756	35,972	51,728
脳神経内科	208,015	43,535	251,549	202,717	38,549	241,266	229,103	44,805	273,907
放 射 線 科	—	886	886	—	1,267	1,267	—	796	796
呼吸器外科	385,894	247,124	633,018	339,434	203,290	542,723	363,265	219,668	582,933
救 急 科	—	—	—	—	833	833	—	1,855	1,855
合 計	5,354,078	1,721,861	7,075,939	5,061,850	1,651,462	6,713,312	5,413,940	1,870,818	7,284,757

9. 入院・外来単価(自費収益を含まない)

(単位：円)

	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	入院	外来	入院	外来	入院	外来
内科	42,765	18,138	44,185	12,849	43,572	13,327
リウマチ・膠原病内科	－	－	52,556	26,073	57,112	24,345
消化器内科	47,452	16,419	52,569	18,152	53,076	21,096
糖尿病・代謝内科	35,114	9,283	39,799	9,289	40,913	9,416
小児科	59,460	6,265	40,228	6,908	53,178	14,602
外科	63,711	17,831	64,988	23,533	63,032	24,723
整形外科	58,786	5,857	58,930	6,488	60,359	6,999
脳神経外科	64,583	11,894	72,259	12,435	75,784	12,610
皮膚科	33,164	3,392	37,678	4,265	42,703	4,244
泌尿器科	－	6,059	55,454	9,391	52,045	10,419
産婦人科	68,967	10,082	74,622	9,981	75,482	10,269
眼科	98,173	6,988	102,303	7,588	98,178	7,532
耳鼻咽喉科	74,439	8,193	70,474	8,541	78,127	8,842
麻酔科	57,393	2,248	68,049	2,100	88,126	2,215
精神科	26,432	5,053	28,038	4,961	27,807	5,171
心臓血管外科	88,402	6,672	100,301	7,977	125,450	9,182
循環器内科	63,388	8,682	64,982	9,003	74,742	9,570
形成外科	69,872	13,926	56,445	15,631	77,234	14,030
脳神経内科	42,907	7,292	47,969	7,054	50,220	7,509
放射線科	－	35,449	－	38,402	－	36,193
呼吸器外科	71,661	49,111	69,357	42,378	71,410	40,522
救急科	－	－	－	26,031	－	40,325
合計	58,178	11,677	61,859	12,450	64,029	13,140

10. 手術件数(手術室)



(単位：件)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
消化器内科	3	6	5
外科	458	416	442
呼吸器外科	130	100	116
整形外科	594	568	662
脳神経外科	122	107	102
産婦人科	373	321	372
心臓血管外科	79	49	47
耳鼻咽喉科	194	144	156
形成外科	569	434	474
泌尿器科	3	8	30
眼科	590	613	534
精神科	60	113	101
麻酔科	7	9	5
合計	3,182	2,888	3,046

11. 平均在院日数

(単位：日)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
内 科	16.3	12.5	14.8
リウマチ・膠原病内科	—	14.9	13.5
消 化 器 内 科	10.8	10.0	10.9
糖尿病・代謝内科	16.7	16.8	16.6
小 児 科	2.8	4.4	5.0
外 科	13.2	15.5	14.9
整 形 外 科	18.7	19.4	20.2
脳 神 経 外 科	13.8	13.1	11.9
皮 膚 科	16.4	12.8	9.5
泌 尿 器 科	—	1.7	5.6
産 婦 人 科	6.8	6.4	6.9
眼 科	1.1	1.1	1.1
耳 鼻 咽 喉 科	4.8	5.0	5.0
麻 酔 科	3.8	2.6	3.2
精 神 科	28.7	32.1	32.0
心 臓 血 管 外 科	15.0	13.9	16.7
循 環 器 内 科	14.2	13.5	11.7
形 成 外 科	5.2	12.3	10.3
脳 神 経 内 科	15.3	16.5	16.4
放 射 線 科	—	—	—
呼 吸 器 外 科	14.8	16.0	15.6
救 急 科	—	—	—
平 均	12.0	11.7	11.7

12. 病床稼働率(退院を含む)

(単位：％)

	稼働病床数	令和元年度	令和２年度	令和３年度
３Ａ病棟 (ＨＣＵ含む)	20	68.4％	63.3％	72.6％
３Ｂ病棟	34	91.8％	90.2％	97.4％
４病棟	40	76.1％	72.7％	84.9％
５Ａ病棟	49	90.2％	90.0％	96.4％
５Ｂ病棟	46	90.2％	88.2％	93.6％
６Ａ病棟	47	86.8％	34.6％	16.0％
６Ｂ病棟	46	92.4％	94.7％	99.6％
７病棟 (精神病棟)	10	72.0％	72.7％	64.0％
合 計	292	86.1％	76.8％	79.3％

13. 紹介率・逆紹介率(病院全体)

(単位：％)

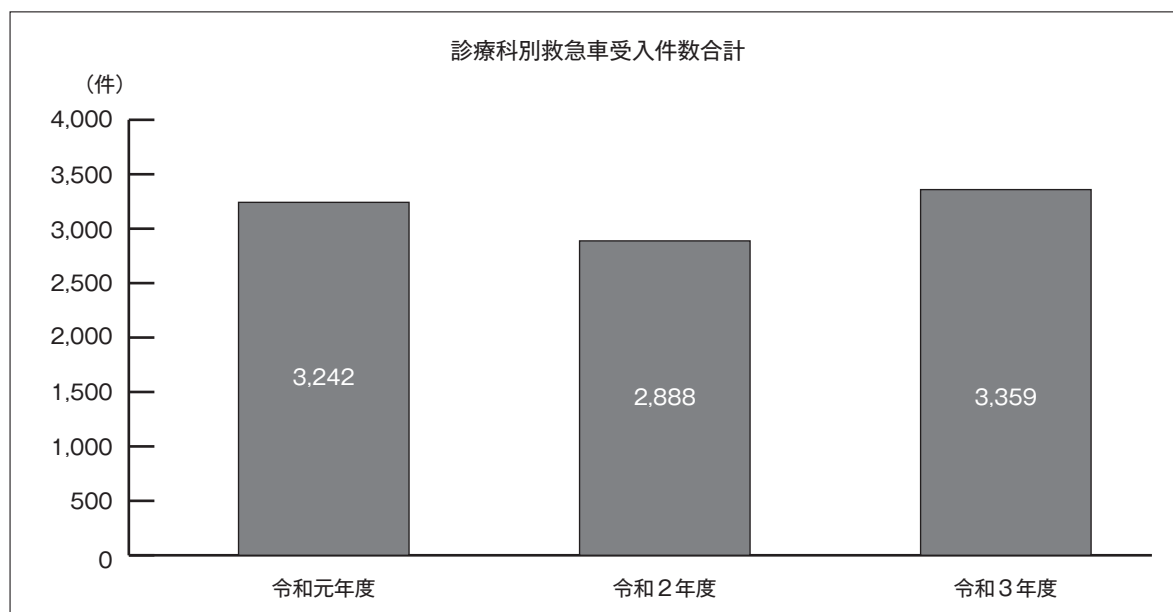
	令和元年度	令和２年度	令和３年度
紹 介 率	95.0％	98.5％	92.5％
逆 紹 介 率	100.4％	109.4％	101.8％

14. 分娩件数

(単位：件)

	令和元年度	令和２年度	令和３年度
自 然 分 娩	157	160	140
帝 王 切 開	31	43	37
合 計	188	203	177

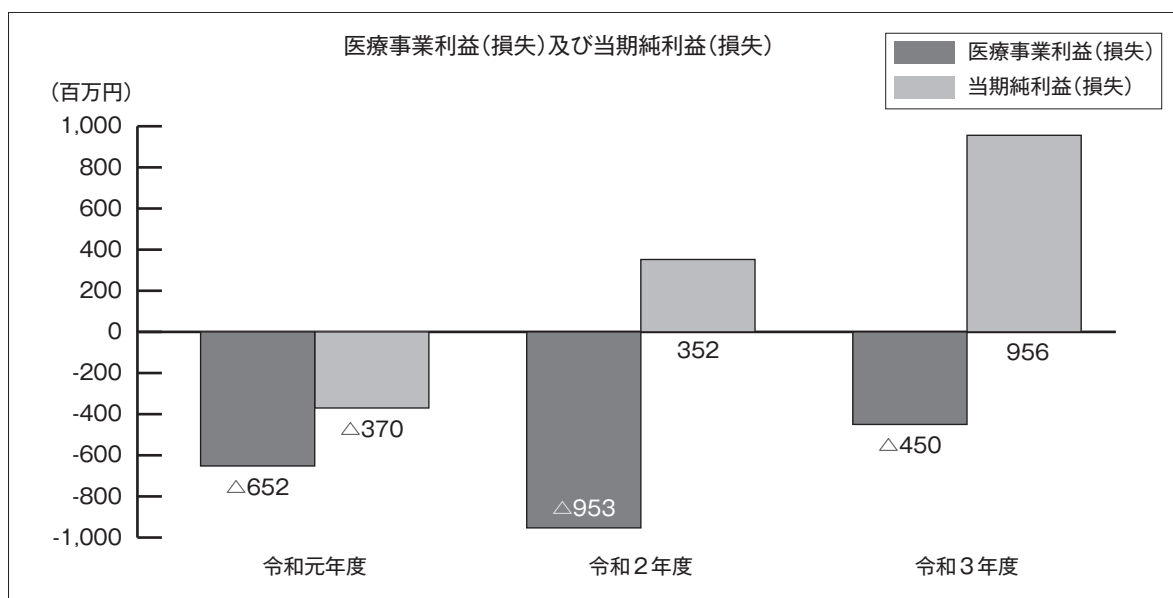
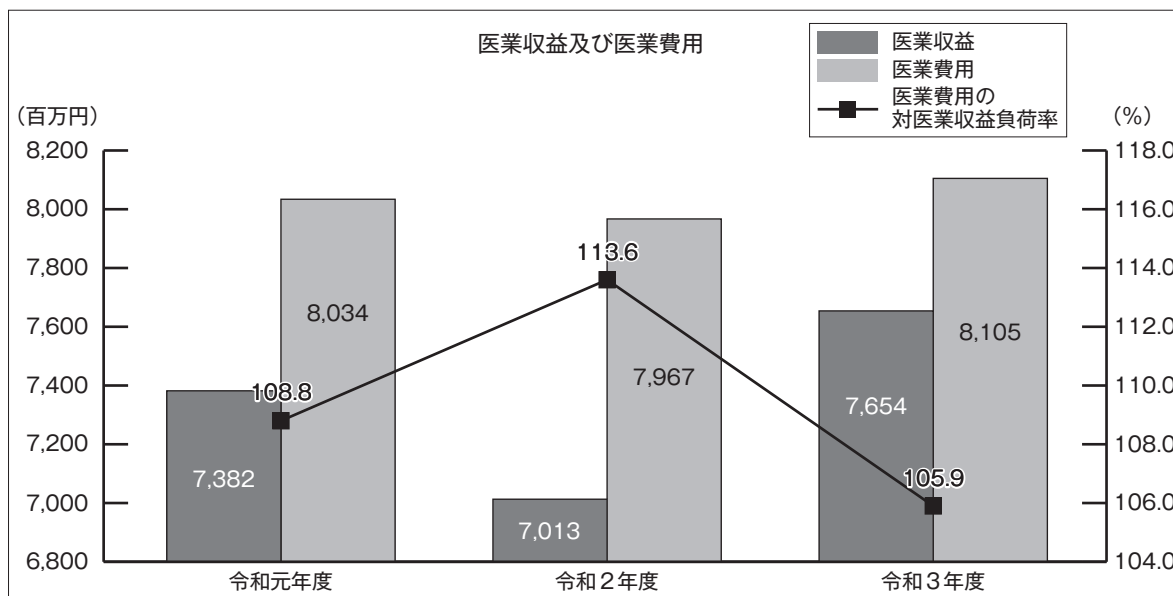
15. 診療科別救急車受入件数



(単位：件)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
内 科	518	212	209
リウマチ・膠原病内科	－	30	56
消 化 器 内 科	276	344	467
糖尿病・代謝内科	32	35	33
小 児 科	28	4	14
外 科	104	117	112
整 形 外 科	546	499	618
脳 神 経 外 科	810	728	784
皮 膚 科	8	13	16
泌 尿 器 科	17	26	47
産 婦 人 科	17	28	30
眼 科	2	4	2
耳 鼻 咽 喉 科	73	69	78
麻 酔 科	10	5	7
精 神 科	35	30	38
心 臓 血 管 外 科	66	45	31
循 環 器 内 科	384	409	497
形 成 外 科	2	1	0
脳 神 経 内 科	264	224	241
呼 吸 器 外 科	50	57	61
救 急 科	－	23	46
合 計	3,242	2,888	3,359

16. 損益推移



(単位:円、%)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
医業収益	7,382,122,173	7,013,736,443	7,654,434,628
医業費用	8,034,187,849	7,967,241,550	8,105,358,024
医療事業利益(損失)	△ 652,065,676	△ 953,505,107	△ 450,923,396
医業費用の対医業収益負荷率	108.8%	113.6%	105.9%
医業外利益(損失)	462,648,065	1,521,453,334	1,492,314,037
医療社会利益(損失)	△ 101,954,704	△ 90,489,983	△ 85,895,262
付帯事業利益(損失)	2,054,957	△ 274,389	5,831,616
特別利益(損失)	△ 72,539,967	△ 123,406,082	△ 5,939,156
法人税等	8,943,570	877,243	△ 877,243
当期純利益(損失)	△ 370,800,895	352,900,530	956,265,082

17. 比較損益計算書

(単位：円)

	令和2年度	令和3年度	(2年度～3年度)	
			前年比	増減率
医療事業損益計算				
医業収益	7,013,736,443	7,654,434,628	640,698,185	9.1%
入院診療収益	5,092,323,108	5,453,407,000	361,083,892	7.1%
室料差額収益	102,994,320	130,398,400	27,404,080	26.6%
外来診療収益	1,655,623,526	1,884,042,789	228,419,263	13.8%
保険予防活動収益	130,694,017	147,249,118	16,555,101	12.7%
受託検査・施設利用収益	2,525,457	4,121,084	1,595,627	63.2%
その他の医業収益	42,904,743	49,857,724	6,952,981	16.2%
保険等差通減	△ 13,328,728	△ 14,641,487	△ 1,312,759	－
医業費用	7,967,241,550	8,105,358,024	138,116,474	1.7%
材 料 費	1,808,970,973	2,002,783,374	193,812,401	10.7%
給 与 費	3,890,189,077	3,954,073,771	63,884,694	1.6%
委 託 費	601,124,928	597,535,269	△ 3,589,659	△ 0.6%
設備関係費	1,279,902,483	1,228,613,473	△ 51,289,010	△ 4.0%
研究研修費	30,417,631	32,012,006	1,594,375	5.2%
経 費	356,636,458	290,340,131	△ 66,296,327	△ 18.6%
医療事業利益(損失)	△ 953,505,107	△ 450,923,396	502,581,711	－
事業損益計算				
医業外収益	1,550,074,830	1,525,365,861	△ 24,708,969	△ 1.6%
医業外費用	28,621,496	33,051,824	4,430,328	15.5%
医療外利益(損失)	1,521,453,334	1,492,314,037	△ 29,139,297	△ 1.9%
医療社会事業収益	605,966	1,685,943	1,079,977	178.2%
医療奉仕費用	91,095,949	87,581,205	△ 3,514,744	△ 3.9%
医療社会事業利益(損失)	△ 90,489,983	△ 85,895,262	4,594,721	－
事業利益(損失)	477,458,244	955,495,379	478,037,135	100.1%
経常損益計算				
付帯事業収益	36,265,950	41,673,373	5,407,423	14.9%
付帯事業費用	36,540,339	35,841,757	△ 698,582	△ 1.9%
付帯事業利益(損失)	△ 274,389	5,831,616	6,106,005	－
経常利益(損失)	477,183,855	961,326,995	484,143,140	101.5%
当期純損益計算				
特別利益	3,558,561	77,386	△ 3,481,175	－
特別損失	126,964,643	6,016,542	△ 120,948,101	△ 95.3%
特別利益(損失)	△ 123,406,082	△ 5,939,156	117,466,926	－
税引前当期純利益(損失)	353,777,773	955,387,839	601,610,066	170.1%
法人税等	877,243	△ 877,243	△ 1,754,486	△ 200.0%
当期純利益(損失)	352,900,530	956,265,082	603,364,552	171.0%
前期繰越利益(損失)	△ 4,599,978,978	△ 4,247,078,448	352,900,530	－
当期未処分利益(未処理損失)	△ 4,247,078,448	△ 3,290,813,366	956,265,082	－

IV

活動実績

1. 内科	41	18. 耳鼻咽喉科	60
2. 消化器内科	41	19. 放射線科・放射線科部	61
3. 糖尿病・代謝内科	44	20. 麻酔科	63
4. 循環器内科	44	21. リウマチ・膠原病内科	64
5. 脳神経内科	46	22. 病理診断科	65
6. 精神科	47	23. リハビリテーション科	66
7. 小児科	47	24. 薬剤部	69
8. 外科	48	25. 医療技術部	72
9. 心臓血管外科	51	26. 看護部	75
10. 呼吸器外科	52	27. 検査部	99
11. 整形外科	53	28. 事務部	101
12. 脳神経外科	54	29. 医療安全推進室	112
13. 皮膚科	56	30. 感染管理室	114
14. 形成外科	57	31. 診療支援室	115
15. 泌尿器科	57	32. 地域医療連携室	116
16. 産婦人科	58	33. 福島赤十字訪問看護ステーション	118
17. 眼科	59		



1. 内科

【医師】 寺島久美子(健診センター長)

■ 専門

アレルギー疾患、喘息

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 認定内科医

【外部医】 田中 健一

■ 専門

腎臓病・透析

■ 資格・所属学会等

日本腎臓学会専門医・指導医

日本透析医学会専門医・指導医

日本高血圧学会専門医・指導医

日本内科学会 総合内科専門医 指導医

<内科について>

・ 総合内科

高齢者の増加に伴い一人でいくつもの病気を抱えている患者が増加しております。それぞれの臓器別専門分野のエキスパートと連携し、総合的に内科診療を行ってまいります。どの診療科に行ったらよいのかわからない場合や、どの診療科で受診しても診断がつかないような場合に受診してください。

・ 一般内科

高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病や喘息、アレルギー疾患の診療をいたします。

・ 呼吸器内科

気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、肺癌、縦隔腫瘍、胸腺疾患などの呼吸器疾患に対して診断・治療をいたします。

・ 腎臓内科

腎炎、ネフローゼ、糖尿病・膠原病などによる腎疾患、末期の腎不全に対して診断・治療をいたします。



2. 消化器内科

【主任部長】 黒田 聖仁

■ 専門

肝炎、肝臓がん

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 総合内科専門医 指導医

日本肝臓学会 指導医

日本消化器病学会 指導医

日本消化器内視鏡学会 専門医

福島県立医科大学臨床教授・客員講師

【部 長】 菅野 有紀子

■ 専門

肝科、消化器科、肝臓疾患

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 総合内科専門医

日本消化器病学会 専門医 指導医 評議員

日本消化器内視鏡学会 専門医

日本肝臓学会 専門医・指導医

日本リウマチ学会 専門医 指導医

日本門脈圧亢進症学会

【部 長】 児玉 健太(兼 内視鏡センター長)

■ 専門

消化器病

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 認定内科医

日本消化器病学会 専門医

日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医

日本消化管学会 胃腸科専門医

日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

日本大腸検査学会評議員

【副 部 長】 紺野 直紀

■ 専門

消化器内科(特に胆・膵疾患)

■ 資格・所属学会等

日本膵臓学会 指導医、日本胆道学会

日本門脈圧亢進症学会

日本臨床腫瘍学会

日本内科学会 総合内科専門医

日本消化器病学会 専門医

日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医

日本肝臓学会 専門医

【副 部 長】 浅間 宏之

■ 専門

消化器内科一般

胆膵疾患

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 認定内科医

日本消化器病学会 専門医

日本肝臓学会 専門医

日本消化器内視鏡学会

日本臨床腫瘍学会

日本膵臓学会

日本門脈圧亢進症学会

日本胆道学会

【外 部 医】 引地 拓人

■ 専門

消化器内視鏡の診断・治療

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 総合内科専門医 指導医

日本消化器内視鏡学会 専門医 指導医

日本消化器病学会 専門医 指導医

日本消化管学会 胃腸科認定医

胃腸科専門医 胃腸科指導医

日本カプセル内視鏡学会 専門医 指導医

日本肝臓学会 専門医

日本ヘリコバクター学会 H.pylori(ピロリ菌)感染症認定医

日本門脈圧亢進症学会

技術認定医(内視鏡治療)

日本高齢消化器病学会

日本消化器がん検診学会

日本胃癌学会

日本脾臓学会

PEG・在宅医療学会

福島医学会

America Society of GastrointestinalEndoscopy(ASGE)：国際会員

【外 部 医】 中村 純

■ 専門

消化管癌の内視鏡診断・治療

食道アカラシアの診断・治療

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 認定内科医

日本消化器内視鏡学会 専門医・支部評議員

日本消化器病学会 専門医・支部評議員

日本消化管学会 胃腸科専門医

日本ヘリコバクター学会 H.pylori(ピロリ菌)感染症認定医

日本門脈圧亢進症学会

日本胃癌学会

日本がん検診学会

＜令和3年度活動実績＞

当科は消化管(食道、胃、十二指腸、大腸)、肝臓、胆嚢、胆管、脾臓疾患の診断、治療を行っている。コロナ下で検査件数の減少がみられたが、低侵襲で安全な内視鏡検査、治療を心掛けており、食道、胃、大腸のESD(粘膜下剥離術)治療やEMR(粘膜切除術)の施行件数も年々増加している。吐血や下血に対する止血処置や総胆管結石へのEST(内視鏡的乳頭切開術)、閉塞性黄疸への内視鏡的ドレナージ、大腸癌によるイレウスへのステント留置等を緊急で施行できる体制を整えている。肝疾患専門医療機関であり、ウイルス性肝炎や自己免疫性肝疾患の治療の他、肝細胞癌には年間約50例にラジオ波焼灼療法、免疫チェックポイント阻害剤や分子標的治療薬による治療、肝動脈塞栓療法を施行。また難治性腹水には腹水濃縮再注入療法を行っている。

研修医は日本消化器病学会東北支部例会にて発表し、優秀演題賞を受賞している。

上部消化管内視鏡検査件数年間	2,924件
胃粘膜下層剥離術(ESD)	45件

止血術	35件 等
下部消化管内視鏡検査件数	769件
大腸ポリープ切除術・EMR	532件
止血術	38件 等
胆嚢、胆管、膵臓に対する内視鏡検査(胆管結石や閉塞性黄疸の治療)	235件
超音波内視鏡	68件
腹部超音波検査	約3,500件

<令和4年度目標>

コロナ下診療であり、感染に注意し、安全に効率良く診療をすることを目標としたい。新しい治療を積極的に取り入れ、コメディカルの力も借りて、クオリティの高い診療を維持して行きたい。病診連携に力を入れて症例数をさらに増加させ、研修医の指導や学会活動にも力を入れて消化器内科医を育てていきたい。

3. 糖尿病・代謝内科

【部 長】 佐藤 義憲

■ 専門

糖尿病

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 認定内科医・総合内科 専門医

日本糖尿病学会 専門医・指導医

ICD制度協議会認定インфекションコントロールドクター

<令和3年度実績>

活動実績

外来予約診療 1,025

入院 107

学会発表 1

<令和4年度目標>

部長定年退職後の診療体制継続について考えたい。

4. 循環器内科

【副 院 長】 大和田尊之(兼 循環器センター長)

■ 専門

循環器一般、虚血性心疾患、冠動脈疾患

■ 資格・所属学会等

日本内科学会認定専門医・指導医、日本循環器学会認定専門医

日本心血管インターベンション治療学会認定専門医

日本高血圧学会認定指導医、福島県立医科大学臨床教授

【主任部長】 渡部 研一(兼 医療技術部長)

■ 専門

循環器科一般、不整脈

■ 資格・所属学会等

日本内科学会認定専門医・指導医、日本循環器学会認定専門医

日本DMAT隊員、日赤災害医療コーディネーター

【部 長】 阪本 貴之

■ 専門

循環器科一般、心血管インターベンション

■ 資格・所属学会等

日本内科学会認定専門医・指導医、日本循環器学会認定専門医

日本心血管インターベンション治療学会認定医

【医 師】 坂本 和哉

■ 専門

循環器内科一般

【医 師】 芳賀 文香

■ 専門

循環器内科一般

【外 部 医】 中里 和彦

＜令和3年度実績＞

令和3年度も後期研修医2名を含む5人体制での活動となった。コロナ禍での診療も2年目となり、入院・治療面では全体に前年度を上回る症例数となった。コロナ禍における緊急カテーテル対応について外来／病棟スタッフと連携しスムーズにカテーテル治療を行う体制が確立したこと、入院の際循環器センターへ素早く受け入れる体制を整えて頂いたことがよい結果へ繋がっていると考えられ、関係各所に感謝したい。

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

外来受診患者延数16,725名(一日平均69名)

入院患者延数10,569名(一日平均29名)

救急車搬送患者総数497名

カテーテル関連

冠動脈造影 379例(うち緊急103例)

右心カテーテル 57例

経皮的冠動脈インターベンション(PCI) 207例(うち緊急PCI 85例)

下肢末梢血管インターベンション(EVT) 11例

気管支動脈IVR 1例

IABP 7例

PCPS 1例

緊急経静脈一時ペーシング 21例

ペースメーカー移植術 75例(新規 46例・交換 29例)

植え込み型心電図モニター移植術 6例

その他

CPAP／ASV治療・管理

ペースメーカー等デバイス管理 デバイス植え込み患者MRI撮像対応

他科手術時デバイス管理

さらに、今年度も他の内科系診療科同様、コロナウイルス感染症患者の入院対応や新患を含む一般内科診療・高齢者当番入院対応など内科医としての役割も多く果たす事が出来た。教育面では、研修医や学生見学を積極的に受け入れて指導を行っているほか、院内BLS・ICLSにも協力させていただき救急対応のレベルアップにも貢献できたと考える。

<令和4年度目標>

令和4年度も地域の循環器医療に貢献するため、救急症例について例年通り盤石の受け入れ体制を維持し対応していくことに加え、地域の先生方との連携をさらに強化し、病診・病病連携とともに気軽に御相談いただける関係づくりを進めていく。コロナ禍で症例を増やせなかった心臓リハビリテーションを見直し、心不全治療においては最新の治療を地域の先生方と共有できるよう、県北の循環器診療医療の中心として発信にも努めていきたい。また医師の働き方改革への対応が迫られており、積極的な業務の効率化や有給取得率の上昇を目指し、質の高い医療の継続のため学会発表・参加による自己研鑽も重ねて、安心・安全な高度医療を提供していく所存である。

5. 脳神経内科

【主任部長】 中村耕一郎

■ 専門

神経内科一般

■ 資格・所属学会等

日本神経学会 専門医・指導医

日本内科学会 総合内科専門医

福島県立医科大学 臨床教授

【部長】 守谷 新

■ 専門

神経内科一般

■ 資格・所属学会等

日本神経学会 専門医・指導医

日本内科学会 認定内科医・総合内科 専門医

日本プライマリ・ケア連合学会

認定医・指導医

日本医師会認定産業医

<令和3年度実績>

令和3年度の入院件数は263件であった。

<令和4年度目標>

当科入院症例は救急および紹介症例が多数を占めるため、引き続き病診連携に努め神経救急患者の受け入れに努めていく。

6. 精神科

【部 長】 藤森 春生

■ 専門

精神医学一般

■ 資格・所属学会等

精神保健指定医

日本精神神経学会 精神科専門医・指導医

日本総合病院精神医学会一般病院連携

精神医学 専門医・指導医

日本医師会認定産業医

日本サイコオンコロジー学会

日本臨床神経生理学会

福島県立医科大学 臨床教授

【医 師】 山本慎之助

■ 専門

精神科

■ 資格・所属学会等

日本臨床精神神経薬理学会

日本精神神経学会

精神保健指定医

<令和3年度実績>

令和3年度の実績としては、外来患者延数9,263人(1日平均38.4人)、初診患者延数136人、入院患者延数1,920人(1日平均5.2人)、平均在院日数34.2日、紹介率100.0%、逆紹介率76.7%、mECT件数103件となっている。

<令和4年度目標>

当科は、有床総合病院精神科であり、精神保健福祉法に基づく精神科病床を有する。地域医療における有床総合病院精神科の役割を果たしていくことが大切である。救急医療における精神疾患への対応、身体合併症を有する認知症疾患及び精神疾患への対応、院内身体科とのコンサルテーション・リエゾン精神医療、修正電気けいれん療法等は重要であると考えられる。また、認知症疾患医療センターであり、地域の認知症医療の拠点としての役割も重要である。医療連携及び地域連携を大切に、円滑な診療体制を作っていく必要がある。

7. 小児科

【主任部長】 清水 裕美

■ 専門

小児科一般

■ 資格・所属学会等

日本小児科学会 専門医 指導医

日本周産期・新生児医学会 専門医

【部 長】 今野 友貴

■ 専門

小児科一般

■ 資格・所属学会等

日本小児科学会 専門医

日本小児循環器学会

日本アレルギー学会

日本小児救急医学会

子どもの心相談医

＜令和3年度実績＞

外来は、感染症が多くを占めるが、特に思春期に多い、不登校のカウンセリングや起立性調節障害の治療などにも対応している。他の医療機関と連携を図りながら、小児の各領域の疾患に関して診療を行っている。一般外来のほか、腎臓、神経、心臓疾患の特殊外来や乳幼児健診・予防接種などを行っている。

入院管理を再開し、気管支炎や胃腸炎などの感染症の治療のほか、食物経口負荷試験や成長ホルモン分泌刺激試験などにも対応している。新生児は、新生児一過性多呼吸、新生児感染症、低血糖症や高ビリルビン血症などの管理を行った。

＜令和4年度目標＞

常勤二人体制で、入院管理を再開することで、救急医療、二次医療の充実を図る。

また、予防接種や乳幼児健診および学校健診での要精検者の二次健診の拡充にも努める。

引き続き、産婦人科医と連携し、新生児の管理に当たっていく。



8. 外科

【主任部長】 遠藤 豪一

■ 専門

消化器外科、一般外科

■ 資格・所属学会等

日本外科学会 専門医 指導医

日本消化器外科学会 専門医 指導医

日本消化器外科学会 消化器がん外科治療 認定医

日本がん治療認定医機構認定医

マンモグラフィ検診精度管理中央委員会認定マンモグラフィ読影認定医

福島県立医科大学臨床教授

日本DMAT 隊員

【部 長】 大須賀文彦(腹腔鏡外科)

■ 専門

消化器外科、腹腔鏡外科

■ 資格・所属学会等

日本外科学会 専門医 指導医

日本消化器外科学会 専門医
日本がん治療認定医機構認定医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療 認定医
日本癌治療学会、日本臨床外科学会
日本内視鏡外科学会
日本大腸肛門病学会
日本静脈経腸栄養学会

【副 部 長】 青砥 慶太

■ 専門

外科一般

■ 資格・所属学会等

日本外科学会 専門医
日本乳腺外科学会 認定医
日本消化器外科学会 専門医
日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医
日本がん治療認定医機構認定医
日本癌治療学会

【医 師】 塚田 学

■ 専門

外科

■ 資格・所属学会等

日本外科学会 専門医
日本消化器外科学会 専門医、消化器がん外科治療認定医
日本臨床外科学会
日本内視鏡外科学会

【医 師】 望月翔太郎

■ 専門

外科

■ 資格・所属学会等

日本外科学会
日本臨床外科学会
日本癌治療学会

【医 師】 今野 修(非常勤)

■ 専門

消化器外科

■ 資格・所属学会等

日本外科学会 認定医・専門医・指導医
日本消化器外科学会 専門医 指導医、消化器がん外科治療認定医
乳がん検診精度管理中央機構認定マンモグラフィ読影認定医
日本スポーツ協会公認スポーツドクター
認知症サポート医
日本人間ドック学会健診情報管理指導士
福島県災害医療コーディネーター
福島県肝炎医療コーディネーター

<令和3年度実績>

手術症例(一般外科手術症例)

1) 乳腺

乳腺悪性腫瘍手術 10例 (乳房温存手術 2例)

2) 胃

胃悪性腫瘍手術 16例 (胃全摘術 6例)

潰瘍穿孔手術 6例

3) 小腸

部分切除術 11例 (腹腔鏡下手術 2例)

4) 大腸(結腸)

結腸悪性腫瘍手術 47例 (腹腔鏡下手術 26例)

その他 8例 (腹腔鏡下手術 3例)

5) 直腸

直腸悪性腫瘍手術 25例 (直腸切断術 2例)(腹腔鏡下手術 11例)

その他 5例

6) 虫垂炎

虫垂切除術 16例 (腹腔鏡下手術 16例)

7) 消化管(その他)

腹膜炎(胃潰瘍を除く)手術 3例

腸閉塞症手術 11例

8) 肝臓

肝嚢胞開窓術(腹腔鏡下) 1例

9) 胆嚢

胆嚢結石症 62例 (腹腔鏡下手術 51例)

胆嚢炎 25例 (腹腔鏡下手術 21例)

胆嚢腫瘍 2例 (腹腔鏡下手術 1例)

10) ヘルニア

単径ヘルニア 50例

大腿ヘルニア 4例

腹壁癒痕ヘルニア 4例

閉鎖孔ヘルニア 6例

11) その他

CVポート造設術 53例

皮下腫瘍 4例

<令和4年度目標>

基本的治療方針として、個々の患者様の状態、患者様の生活環境等にも配慮した適切な治療(手術)を行う事を目標としています。

現在は患者様の体への負担の少ない腹腔鏡下手術を積極的に施行しています。年々腹腔鏡手術の適応は拡大し、大腸癌においては進行大腸癌も含め半数以上の患者様において腹腔鏡手術を施行しています。その他の疾患では胆石症では8割以上、虫垂炎では全例の患者様において腹腔鏡下手術を施行しております。

今後も患者様の体への負担が少ない腹腔鏡下手術等の手術適応をさらに拡大し、より多くの患者様に体への負担の少ない治療(手術)を行えるように進めていきます。



9. 心臓血管外科

【部 長】 籠島 彰人

■ 専門

成人心臓、血管

■ 資格・所属学会等

日本心臓血管外科学会 専門医

日本外科学会 専門医

日本脈管学会 専門医

腹部ステントグラフト実施医・指導医

浅大腿動脈ステントグラフト実施医

日本血管外科学会、日本胸部外科学会

日本循環器学会

日本心臓血管外科学会

日本冠動脈外科学会

日本下肢救済学会

＜令和3年度実績＞ 2021年1月～2021年12月

開心術 12例（手術死亡 0、在院死亡 0、主要合併症 0）

心拍動下冠動脈バイパス術 5例

大動脈弁置換術 2例

大動脈弁置換術＋僧帽弁形成術 1例

僧帽弁形成術 1例

僧帽弁形成術＋三尖弁輪縫縮術＋MAZE手術 2例

末梢動脈疾患 42例（手術死亡 0、在院死亡 0、主要合併症 0）

腹部大動脈瘤・人工血管置換 8例

腹部ステントグラフト内装術 6例

内腸骨動脈コイル塞栓術 4例

大腿-大腿動脈バイパス術 1例

大腿-膝上膝窩動脈バイパス術 4例

大腿-後脛骨動脈バイパス術 3例

血管内治療 11例

血管内治療＋内膜摘除術 2例

血栓除去術 3例

仮性動脈瘤手術 3例

静脈疾患・その他（手術死亡 0、在院死亡 0、主要合併症 0）

ストリッピング手術 2例

ペースメーカー 1例

創傷処理 2例

その他 2例

＜令和4年度目標＞

良好な治療成績の維持と症例数の増加を図ります。

10. 呼吸器外科

【部 長】 管野 隆三(兼 感染管理室長)

■ 専門

呼吸器外科

■ 資格・所属学会等

日本外科学会 専門医・指導医

日本胸部外科学会 専門医 指導医

日本呼吸器外科学会 専門医 指導医

日本消化器外科学会 認定医

呼吸器外科専門医合同委員会認定呼吸器外科 専門医・評議員

日本呼吸器内視鏡学会認定気管支鏡 専門医・指導医

日本がん治療認定医機構認定医・暫定教育医

福島県立医科大学臨床教授・客員講師

ICD(感染制御ドクター)

【副 部 長】 井上 卓哉

■ 専門

呼吸器外科

■ 資格・所属学会等

日本外科学会 専門医

日本呼吸器外科学会 専門医

日本がん治療学会 認定医

日本胸部外科学会、日本肺癌学会

日本呼吸器内視鏡学会

日本臨床外科学会

日本バイオセラピー学会、IASLC

臨床研修指導医講習会受講

日本がん治療認定医機構認定医

<令和3年度実績>

呼吸器外科手術総数108件(胸腔鏡下手術87件、局所麻酔手術、気管切開は除く)

内訳：肺良性腫瘍手術6件、原発性肺悪性腫瘍手術43件、転移性肺腫瘍手術8件、縦隔腫瘍手術3件、膿胸に対する手術2件、特発性自然気胸手術28件、続発性気胸手術15件

<令和4年度目標>

呼吸器外科手術総数120件を目標とする。特に原発性肺悪性腫瘍手術件数を増やすこと。引き続き、その他の良性呼吸器外科疾患、手術不能の肺癌に対する緩和療法を含めた治療症例の増加に努めること。

11. 整形外科

【部 長】 村上 和也(兼 リハビリテーション科部長)

■ 専門

足の外科、膝関節外科

■ 資格・所属学会等

日本整形外科学会認定 専門医

日本整形外科学会スポーツ 認定医

日本整形外科学会運動器リハビリテーション 認定医

日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会評議員

東北膝関節研究会幹事

【副 部 長】 佐藤 法義

■ 専門

整形外科一般

■ 資格・所属学会等

日本整形外科学会 専門医

日本股関節学会

日本人工関節学会 認定医

骨折治療学会

【医 師】 横田 武尊

■ 専門

整形外科一般

■ 資格・所属学会等

日本整形外科学会

【医 師】 大竹 飯豊

■ 専門

整形外科一般

■ 資格・所属学会等

日本整形外科学会

<令和3年度実績>

令和3年度の整形外科の年間新患者数は1,358名と昨年度よりは減少していたが、年間手術件数は886件(外来手術201件、入院手術685件)とかなり増加していた。新型コロナの流行が止まらない中、福島市内、県北地区の救急指定病院でもクラスターが発生したことにより外来、救急業務機能が停止し、当院への救急搬送患者が増加し、外傷手術、臨時手術が増えたことがその一因と考えられる。人工関節手術に関しては、コロナの流行とは無関係に増加しており、令和3年度は133件(令和2年度は107件)であった。これは地域の連携医療機関からの紹介が増えている影響と考えている。引き続き地域の連携を深め、手術成績の向上に努めていきたいと考えている。

<令和4年度目標>

令和4年度は常勤の村上、佐藤法義医師は変わらず、横田武尊医師、大竹飯豊医師に変わり、小平俊介医師が着任する。スタッフの人員的には減少であるが、小平医師は佐藤医師と同期であり、膝関節、外傷に対する優れた技能を有しており、マンパワー的には令和4年度と遜色ないか、それ以上の陣容になると期待している。年々増加している人工関節手術も更なる増加を目指して行きたいと考えている。



12. 脳神経外科

【院長】 渡部 洋一

■ 専門

脳卒中全般、特に脳梗塞に対する薬物療法

■ 資格・所属学会等

日本脳神経外科学会 専門医
日本脳卒中学会 専門医 指導医 評議員
日本脳卒中の外科学会 技術指導医
日本救急医学会 専門医
社会医学系専門医、指導医
福島県立医科大学 臨床教授
統括日本DMAT 隊員
福島県災害医療コーディネーター
日赤災害医療コーディネーター
日本原子力災害医療コーディネーター

【副院長】 鈴木 恭一(兼 医療安全推進室長)

■ 専門

脳卒中の診断と治療

■ 資格・所属学会等

日本脳神経外科学会 専門医
日本脳卒中学会 専門医 指導医 評議員
日本脳卒中の外科学会 代議員
日本脳卒中の外科学会 技術指導医
日本脳神経外科光線力学学会幹事
日本リハビリテーション医学会 認定
福島県立医科大学 臨床教授
■ トピックス
第15回鈴木二郎賞(日本脳卒中の外科学会)受賞
第24回中村隆賞金賞(東北脳血管障害懇話会)受賞

【部長】 市川 剛(兼 救急センター長 兼 脳卒中センター長)

■ 専門

脳神経外科一般、血管内治療

■ 資格・所属学会等

日本脳神経外科学会 専門医
日本脳卒中学会 専門医 指導医
日本脳神経血管内治療学会 専門医 指導医
日本脳卒中の外科学会技術指導医
日本神経内視鏡学会 技術認定医
日本DMAT 隊員
日本脳神経外科コンgres
日本災害医療コーディネーター
福島県立医科大学 臨床教授

【医 師】 山ノ井 優

■ 専門

脳神経外科

■ 資格・所属学会等

日本脳神経外科学会

日本脳卒中学会

日本脳腫瘍学会

日本脳血管内治療学会

【医 師】 鎌村 美歩

■ 専門

脳神経外科

<令和3年度実績>

I. 診察

昨年度の入院患者総数は552名であり、その内訳は、脳血管障害が281例(脳梗塞：140例、脳出血：98例、くも膜下出血：15例、未破裂脳動脈瘤：16例、脳動静脈奇形・硬膜動静脈瘻：5例、もやもや病：7例)、脳腫瘍が30例、頭部外傷が77例、てんかんが12例、水頭症・奇形が7例、機能的疾患が4名、感染症が64例、その他が77例であった。

手術件数は160例で、そのうち開頭手術は39例で、脳動脈瘤クリッピング術：6例、脳内血腫除去術：7例、脳腫瘍摘出術：18例、脳動脈吻合術：2例、急性硬膜下血腫除去術：2例、神経血管減圧術：3例、その他：1例であった。血管内手術は56例であり、脳動脈瘤コイル塞栓術：15例、頸部頸動脈ステント留置術：13例、機械的血栓回収術：17例、塞栓術：8例、硬膜動静脈瘻：1例、その他：2例であった。それ以外の手術は65例で、慢性硬膜下血腫：43例、水頭症手術：15例、その他：7例であった。

II. 教育

リハビリテーションカンファランス：脳卒中急性期リハビリテーションによる更なる機能改善を目指して、医師・リハビリテーションスタッフ・看護師・管理栄養士による入院患者さんの検討会を2回／月で開催した。

脳神経内科・脳神経外科合同カンファランス：脳疾患治療の進歩に迅速に対応するための勉強会を第2、4月曜に開催した。研修医や看護師も参加し、当院における脳疾患治療の底上げを目指している。

回復期リハビリテーション施設との症例検討会：不定期ではあるが開催して、顔の見える関係を構築し、県北地域の脳卒中治療成績の向上を目指している。

若手医師・スタッフを対象とした教育セミナー：例年、脳神経外科治療のスキルを向上させるため、血管内治療(カテーテル)のハンズオンや、顕微鏡手術下での縫合練習等を開催していたが、新型コロナウイルス蔓延のため、今年度は開催できなかった。

III. 社会貢献

当院は、日本脳卒中協会福島支部の事務局であり、渡部洋一院長が支部長を務めている。例年、福島県脳卒中市民公開講座を開催しているが、コロナ禍のために開催は中止となった。また、福島県循環器病対策推進協議会の委員として、福島県循環器病推進計画の策定にかかわっている。

IV. 研究

主に脳卒中に関する臨床研究を継続して行い、その成果を国内外の学会で発表した。福島医大脳神経外科を中心に行っている臨床研究にも参加・協力している。

<令和4年度目標>

I. 診察

令和3年度も福島医大脳神経外科から専攻医を派遣していただいた(昨年度から令和3年9

月まで山ノ井優医師が勤務)。今年度も継続して鎌村美歩医師を派遣していただいております、診療のレベルアップを目指したい。

当院の使命として、県北医療圏における重症疾患や緊急手術への対応が挙げられる。新病院移転時(令和元年)に最新式の脳血管装置を導入し、同年に手術用顕微鏡を最新式に更新した。併せて手術用ナビゲーションシステムを導入した。ナビゲーションシステムは、病変や重要な神経路の位置を確認しながら顕微鏡手術を進めることを可能とするもので、県北医療圏では福島医大病院と当院のみに設置されている。加えてこれまで積極的に取り入れてきた血管内治療や神経内視鏡手術を組み合わせることにより、従来は対応が困難であった手術をより安全で確実に行うことが可能となった。今後引き続き良好な医療を続けたい。

平成29年に開設した「脳神経・脳卒中センター」も機能している。脳卒中はもちろんのこと脳神経疾患全般を脳神経外科医、脳神経内科医が協力して行うことで、神経疾患に対する診療レベル向上が得られた。特に当院は、脳卒中に対する県北地域の基幹病院であることから、多職種のスタッフと協力しながら、脳卒中センターの実績を積み重ねていきたい。

脳神経外科疾患においては、急性期治療のみ上手くいけば良いというものではない。急性期から慢性期まで切れ目のない治療の継続が求められる。地域の医療機関や回復期リハビリテーション病院との連携をより一層強化し、患者さんの満足度が高まることを目指したい。

II. 教育

当院は、日本脳神経外科学会専門医研修連携施設の他、日本脳卒中学会研修教育施設、日本脳神経血管内治療学会研修施設に認定されている。特に日本脳神経血管内治療学会研修施設は福島県内に3カ所のみであり、血管内治療医を目指す若手の教育を継続していきたい。脳卒中の外科認定技術指導医、神経内視鏡学会技術認定医も在籍しており、脳神経外科全般にわたる指導も継続していく。臨床研修指定病院としての役割も担う当院は、初期研修医の教育にも重点を置いていく。脳神経外科治療を院内の多職種で共有出来るような教育の場を増やし、スタッフの学会発表・論文作成を支援することにより、病院全体のレベルアップに努めていきたい。

III. 社会貢献

日本脳卒中協会福島支部の事務局として、脳卒中の予防、早期治療の重要性などに関する啓発活動を中心として社会貢献に努めていきたい。福島県循環器病推進計画の策定と検証を行っていく。その中にも記載されているが、救急隊と連携し、県北地域の脳卒中治療の成績向上を目指したい。

13. 皮膚科

【部 長】 元木 良和

■ 専門

皮膚科一般

■ 資格・所属学会等

日本皮膚科学会 専門医

福島県立医科大学 臨床教授

<令和3年度実績>

統計のページを参照。

<令和4年度目標>

福島医大皮膚科と連携して、診療の質の維持・向上を図る。

14. 形成外科

【部 長】 浅井 笑子

▪ 専門

形成外科一般、唇顎口蓋裂等先天異常
マイクロサージャリーを含む再建外科

▪ 資格・所属学会等

日本形成外科学会専門医・領域指導医
皮膚腫瘍外科分野指導医
小児形成外科分野指導医
日本創傷外科学会 専門医 分野指導医
日本顔面神経学会

<令和3年度実績>

令和3年4月1日～令和4年3月31までの手術件数461件(うち全身麻酔22件)

<令和4年度目標>

患者さんが快適で安心して受けられる医療を、単独で可能な範囲内で提供していく。

15. 泌尿器科

【医 師】 本田瑠璃子

▪ 専門

泌尿器科一般

▪ 資格・所属学会等

日本泌尿器科学会、日本小児泌尿器科学会
日本泌尿器内視鏡学会、日本排尿機能学会
日本泌尿器腫瘍学会

【医 師】 丹治 亮

▪ 専門

泌尿器科一般

▪ 資格・所属学会等

日本泌尿器科学会、日本泌尿器内視鏡学会
日本排尿機能学会、日本泌尿器腫瘍学会
日本癌治療学会

【外 部 医】 丹治 進

▪ 専門

泌尿器科一般

▪ 資格・所属学会等

日本泌尿器科学会 専門医 指導医
日本性機能学会 専門医、岩手医科大学泌尿器科客員教授

<令和3年度実績>

経直腸式前立腺生検術：70件

TURBT：23件

<令和4年度目標>

常勤医2名、非常勤医1名(水曜日)にて、外来診療を行います。

週1日の手術日を設け、前立腺生検や経尿道的膀胱腫瘍切除術を中心に手術を行っております。
地域の皆様のお役に立てるよう努めて参ります。

16. 産婦人科

【部長】 矢澤 浩之

■ 専門

内視鏡手術

(腹腔鏡下手術、子宮鏡下手術)

婦人科腫瘍学、不妊症

■ 資格・所属学会等

日本産科婦人科学会 専門医

日本産科婦人科内視鏡学会 技術認定医

日本生殖医学会 生殖医療専門医

福島県立医科大学 臨床教授

【副部長】 大原 美希

■ 専門

産婦人科

■ 資格・所属学会等

日本産科婦人科学会 専門医

日本産科婦人科内視鏡学会

日本生殖医学会、日本人類遺伝学会

日本遺伝カウンセリング学会

【医師】 福田 薫

■ 専門

産婦人科

■ 資格・所属学会等

日本産科婦人科学会 専門医

日本産科婦人科内視鏡学会

日本女性医学学会

【医師】 矢澤 里穂

■ 専門

産婦人科

■ 資格・所属学会等

日本産科婦人科学会

日本産科婦人科内視鏡学会

<令和3年度活動実績>

子宮筋腫や卵巣腫瘍など婦人科良性疾患に対しては患者様の負担軽減のため可能な限り低侵襲性手術(内視鏡下手術)を選択してきた。学会や研修会に積極的に参加し内視鏡下手術のスキルアップに努めその適応拡大を行ってきた。

悪性疾患では、診断、治療(手術、化学療法)、術後のフォローアップから終末期管理や在宅医療への移行まで一貫した管理を行ってきた。

産科診療では、外来妊婦健診において助産師外来の割合を増やすことにより、妊婦さんの診療待ち時間の短縮、充実した妊婦生活指導などに努めてきた。また、最近妊婦さんの高齢化が進んでおり、内科疾患、精神科疾患を有する妊婦が増加する傾向にあるが、これらの患者さんに対しては積極的に内科医、精神科医へ相談を行い共同管理を行ってきた。

不妊症治療では、妊娠に関する気軽な相談、タイミング法、腹腔鏡下による検査、治療から顕微授精を含むART(Assisted Reproductive Technology)治療までを一貫して行ってきたが、新病院での診療体制に合わせて平成30年度よりART治療は中止とした。

その他、骨盤性器脱の管理や性感染症の診断治療など全ての産婦人科疾患に対応できる体制で診療を行ってきた。

<令和3年活動実績>

総手術件数：362件

悪性腫瘍・境界悪性腫瘍に対する根治手術：18件

腹腔鏡下手術：192件(卵巣腫瘍：87件、子宮全摘：73件、筋腫核出：12件、異所性妊娠：4件、子宮脱：4件など)

子宮鏡下手術：5件

開腹子宮全摘術：47件

開腹子宮筋腫核出術：20件

開腹卵巣腫瘍手術：4件

円錐切除術：33件

帝王切開：4件 など

分娩件数：187件 [うち帝王切開：42件(22.5%)]

<令和4年度の目標>

- *学会や研修会に積極的に参加し、最新の診断、治療法の習得や手技の向上に努める。
- *婦人科良性腫瘍の手術件数の増加、特に内視鏡下手術の適応拡大に努める。
- *婦人科悪性腫瘍患者管理をさらに充実させる。
- *妊婦管理(健診)の充実、分娩件数の増加に努める。
- *初期研修医、後期研修医がさらに充実した研修を行えるように努める。



17. 眼科

【部 長】 山田 文子

■ 専門

白内障手術

■ 資格・所属学会等

日本眼科学会 専門医、

日本眼科手術学会

日本眼循環学会

日本コンタクトレンズ学会

福島県立医科大学臨床教授
福島県立医科大学研修指導医

【視能訓練士】 秋山 妙子、湯野川樹理、渡邊 恵、大藤 美弥

<令和3年度実績>

統計ページを参照。

<令和4年度目標>

外来診療では、診断に不可欠な光干渉断層計(OCT)やエコーを駆使し、より正確な診療、迅速な加療に努めたい。

病棟、手術室始め院内全体との関わりも強くなり、入院もスムーズに運用されるようになってきている。更に眼科疾患、患者様の介助などへのスタッフの理解を深めるよう勉強会を開催したり、密にコミュニケーションを図っていき、急患、入院も積極的に受け入れたい。白内障手術を中心に安全、確実を心がけ、地域に貢献できるよう件数も更に増やしたい。

18. 耳鼻咽喉科

【主任部長】 多田 靖宏(兼 嚥下・ボイスセンターセンター長
兼 鼻・副鼻腔センター長 兼 医療情報部門責任者)

■ 専門

耳鼻咽喉科一般、音声外科領域(声帯ポリープ・声帯麻痺)
鼻副鼻腔領域(慢性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、鼻中隔湾曲症)
気管食道科領域(気管狭窄症)、医療情報学領域鼻

■ 資格・所属学会等

日本耳鼻咽喉科学会 専門医 指導医 補聴器相談医
日本気管食道科学会 認定専門医、耳鼻咽喉科専門研修指導医
日本喉頭科学会、音声言語医学会、日本鼻科学会
日本嚥下医学会 相談医、日本耳鼻咽喉科臨床学会
日本頭頸部外科学会、日本再生医療学会 認定医
喉頭形成手術実施医、福島県立医科大学非常勤講師
福島県立医科大学臨床教授

【部長】 三浦 智広(兼 嚥下・ボイスセンター副センター長
兼 鼻・副鼻腔センター副センター長)

■ 専門

耳鼻咽喉科疾患一般
耳鼻咽喉科救急疾患
鼻副鼻腔領域、血管性浮腫

■ 資格・所属学会等

日本耳鼻咽喉科学会 専門医 指導医
補聴器相談医
日本鼻科学会、日本頭頸部癌学会
日本頭頸部外科学会医
日本嚥下医学会 相談医耳鼻咽喉科部副部長

【医 師】 大河内幸男(非常勤)

▪ 専門

耳鼻咽喉科一般

▪ 資格・所属学会等

日本耳鼻咽喉科学会 専門医

日本気管食道科学会 専門医

日本耳科学会、日本鼻科学会

耳鼻咽喉科臨床学会

【外 部 医】 松井 隆道

▪ 専門

耳鼻咽喉科一般

耳科領域

▪ 資格・所属学会等

日本耳鼻咽喉科学会 専門医

日本耳科会

補聴器適合判定医師

【外 部 医】 谷 亜希子

▪ 専門

耳鼻咽喉科一般、音声嚥下領域

鼻副鼻腔領域、気管食道領域

▪ 資格・所属学会等

耳鼻咽喉科専門医、気管食道科専門医

耳鼻咽喉科専門研修指導医

日本医師会認定産業医

＜令和3年度実績＞

令和3年度の入院患者数は265名で、その内訳は手術目的の予定入院190名、救急入院は75名であった。手術症例は全身麻酔133名、局所麻酔39名であった。

＜令和4年度目標＞

1. 国内および国際学会で積極的に発表を行う。
2. 手術研修や講習会に積極的に参加する。
3. 各専門外来を充実させ、より専門的な治療を提供する。
4. 耳鼻咽喉科に関わるコ・メディカルと連携し、チーム医療を充実させる。

19. 放射線科・放射線科部

【部 長】 菊田 学(放射線科部長)

▪ 専門

画像診断(特にCT・MRI)

▪ 資格・所属学会等

日本医学放射線学会専門医

【技 師 長】 佐藤 勝行(放射線科部技師長)

【課 長】 相澤 浩樹(第1放射線技術課長 兼 一般撮影係長)
阿部 直人(第2放射線技術課長)

【係 長】 菅野 徹(特殊撮影係長)
海藤 隆紀(第2放射線技術課画像情報係長)

【診療放射線技師】 五十公野純子、羽貝 寿子、伊藤 美穂、三次 鏡太、
明田 充弘、佐藤 竜馬、玉根 勇樹、外山 歩

【放射線科助手】 八巻 弘美

<令和3年度活動実績>

1. 検査件数

	令和2年度	令和3年度
CT検査	12,743	13,063
MRI検査	5,490	5,933
血管撮影	592	652
一般撮影	27,342	30,073
乳房撮影	1,582	1,803
透視撮影	1,247	1,367
骨密度測定	493	565
ポータブル	4,635	4,627
術中透視	364	427
PACS取込・複写	5,452	5,808

<令和4年度の目標>

1. 院内接遇No.1の放射線科部を目指す
2. 撮影ミスや事故のない安全な検査に努める
3. 病院を良くするための取り組みを行う
4. 勉強会・研究会等へ積極的に参加する
5. 医療被ばく線量管理の分析を行う
6. 計画的に新入職員の教育を行う

<研修会・Web研修会>

1. 令和3年度 第3回救急画像診断研究会
令和3年4月28日(水) ～救急画像から考える～ 佐藤 勝行、玉根 勇樹
2. 令和3年度 福島県CTテクニカルセミナー
令和3年6月12日(土) ～CT撮影のテクニック～ 佐藤 勝行、相澤 浩樹、玉根 勇樹
3. 令和3年度 原子力災害医療基礎研修
令和3年7月3日(土) 福島医科大学研修棟 海藤 隆紀、五十公野純子
4. 東北MR技術研究会
令和3年7月10日(土) 阿部 直人、海藤 隆紀
5. Mediner LIVE Roundo-Table
令和3年7月27日(火) ～大腸CTの新たなチャレンジ～ 玉根 勇樹

6. 日本放射線技術学会 アンギオ研究会セミナー
令和3年7月31日(土) ～冠動脈検査・PCIの基礎を学ぼう～ 外山 歩
7. 第20回 福島県MRI技術研究会
令和3年8月7日(土) ～実機で学ぶMRI撮影技術～ 海藤 隆紀
8. 県北地区協議会 夏季勉強会
令和3年8月28日(土) ～個人線量計の取り扱い～ 佐藤 勝行、相澤 浩樹、阿部 直人
9. 第1回 いわてIVR研究会
令和3年8月28日(土) ～救急IVR こんなときどうする？～ 海藤 隆紀
10. 第21回 県北MDCTカンファレンス ～CTの線量測定 管理について～
令和3年9月25日(土) 佐藤 勝行、相澤 浩樹、阿部 直人、海藤 隆紀、五十公野純子
11. 第11回 東北放射線技術学術大会 【大会運営スタッフ】
令和3年10月30日(土)～31日(日) 福島医大保健学部 相澤 浩樹
12. 第7回 福島県血管撮影技術セミナー(FANTA)
令和3年11月20日(土) 福島県立医科大学福島駅前キャンパス3F講義室
佐藤 勝行、海藤 隆紀、五十公野純子、玉根 勇樹
13. 県北地区協議会 冬季勉強会 ～AI技術を活用した画像診断支援など～
令和4年1月22日(土) 佐藤 勝行、相澤 浩樹、阿部 直人
14. 令和3年度 日本赤十字社放射線技師会東北ブロック研修会
令和4年2月26日(土) 佐藤 勝行、相澤 浩樹、阿部 直人、海藤 隆紀、五十公野純子

20. 麻酔科

【部長】 出羽 明子

- 専門
緩和ケア、带状疱疹後神経痛
- 資格・所属学会等
日本麻酔科学会 専門医
日本緩和医療学会
日本ペインクリニック学会
福島県立医科大学 臨床教授

【副部長】 江花 英朗

- 専門
手術麻酔
- 資格・所属学会等
日本麻酔科学会 専門医
周術期経食道心エコー(JB-POT) 認定医
日本臨床麻酔学会

日本集中治療医学会
日本心臓血管麻酔学会

【医 師】 安達 守

■ 専門

星状神経節ブロック

■ 資格・所属学会等

日本麻酔科学会 専門医

<令和3年度実績>

麻酔管理件数	1,790件
ペインクリニック	73件
緩和ケア	36件
薬物中毒	5件
初期研修医	11名

<令和4年度目標>

安全な手術麻酔と緩和ケアの充実

21. リウマチ・膠原病内科

【医 師】 宮田 昌之(リウマチ・膠原病センター長)

■ 専門

リウマチ、膠原病、アレルギー疾患

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 総合内科専門医 指導医

アメリカ内科学会 専門医

日本プライマリ・ケア連合学会

認定医・指導医

日本リウマチ学会 専門医 指導医

日本アレルギー学会 専門医 指導医

日本消化器病学会 専門医

日本肝臓学会 専門医

福島県立医科大学臨床教授

診療情報管理士

【医 師】 天目 順平

■ 専門

リウマチ膠原病

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 認定内科医

日本リウマチ学会 専門医

日本自己炎症学会

【外部医】 田中 健一

■ 専門

腎臓病・透析

■ 資格・所属学会等

日本腎臓学会専門医・指導医

日本透析医学会専門医・指導医

日本高血圧学会専門医・指導医

日本内科学会 総合内科専門医 指導医

当科ではリウマチ・膠原病を中心に不明熱なども含めて複雑な病態の患者さんを診療しております。

慢性的な痛み苦しんでいる患者さんは非常に多くおられます。整形外科が担当する患者さんも多くおられますがリウマチ・膠原病内科が担当する患者さんも非常に多くおります。この領域は炎症免疫学と非常に関連が深く最近の炎症免疫学の進歩とともに診療内容も進歩してきました。

その一例は分子生物学的手法を用いて開発された自己抗体の測定です。膠原病の多くはそれぞれの疾患の特徴となる自己抗体を持っております。この自己抗体の発見、臨床の現場での応用はとてリウマチ・膠原病疾患の診断に有用です。疾患によっては自己抗体を測定することで診断から、治療、その患者さんの予後まで予測可能な場合もあります。

また、最近の画像診断の発展により診断が困難であった疾患も比較的容易に診断できるようになりました。例えば関節リウマチにおける関節エコー検査とか仙腸関節炎におけるMRIの応用、高安病におけるPETの応用などです。高安病は造影CTなどでも診断が可能ですがPETは全身を一度に検査することができその有用性が認められ保険に収載されております。

炎症免疫学の進歩によって病態が次第に解明され20年ほど前までほとんど有効な治療がなかった関節リウマチにおいては抗サイトカイン療法やJAK阻害薬(Janus kinase inhibitor)などを用いて炎症を根本的に抑え込むことができるようになりました。

当科ではこれらの診療、治療の進歩をいち早く取り入れてリウマチ・膠原病の患者さんの診療にあたっております。リウマチ学会、アレルギー学会、臨床リウマチ学会、内科地方会、リウマチ地方会などのほか関連の研究会でも発表をおこない、まとまった報告については論文化するように心がけております。

リウマチ・膠原病内科では患者さんの全身を診療いたします。プライマリケア習得が目標の臨床研修にも力を入れており、研修で得たことについては発表の機会を設けて症例を掘り下げ考えるような習慣を身に着けていただくように心掛けております。

22. 病理診断科

【部長】 田崎 和洋(検査部長)

■ 専門

外科病理学一般

悪性リンパ腫の病理

■ 資格・所属学会等

日本病理学会認定病理専門医・指導医

日本臨床細胞学会認定細胞診断専門医・指導医

日本リンパ網内系学会

福島県立医科大学 臨床教授

【課長】 根本 浩(検査部病理検査課長)

【係 長】 佐藤 由峰(検査部病理検査係長)

【技 師】 石川 梓(臨床検査技師)
三浦 義喜(臨床検査技師)

＜令和3年度実績＞

組織診断件数	3,137件
術中迅速組織診断件数	138件
細胞診断件数	3,851件
術中迅速細胞診断件数	208件
病理解剖件数	1件
組織ブロック総数	12,005個

＜令和4年度目標＞

- ・医療安全上、きわめて重大な問題となる「担当医による病理診断書の見落とし」の根絶を目指す(週毎に前2週間分の未閲覧症例を抽出し担当医に報告)。
- ・ルーティンにて提出された病理検体については、免疫染色を要する症例や難解例を除き、可能な限り速やかに報告書を発行するように努める(turnaround timeの短縮)。
- ・報告書に標本のマクロまたはミクロ写真を添付し、診療担当医に理解しやすく、同時に患者様にも説明しやすい報告書の作成を心がける。
- ・外科系(呼吸器外科、乳腺外科、婦人科他)および消化器内科との連携によるコンパニオン診断(外注によるEGFR, PD-L1, ALK, HER2, RAS/BRAF, MSI 検査etc.)を円滑に進める。
- ・細胞診検討会を月に一度開催して診断困難事例や組織診断との乖離を認めた症例等について改めて検討を行い、細胞検査士と病理医両者の問題意識を共有するとともに診断のスキルアップに努める
- ・剖検例を用いたCPC(臨床病理検討会)に向けて、研修医が症例の概要をプレゼンテーションしやすい環境を整える。

23. リハビリテーション科

【部 長】 村上 和也(整形外科部長 兼 リハビリテーション科部長)

■ 専門

足の外科、膝関節外科

■ 資格・所属学会等

日本整形外科学会認定専門医、日本整形外科学会スポーツ認定医

日本整形外科学会運動器リハビリテーション認定医

日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会評議員、東北膝関節研究会幹事

【係 長】 大室 祐司(第1リハビリテーション科係長)

■ 資格・所属学会等

柔道整復師、心臓リハビリテーション指導士、3学会合同呼吸療法認定士、

認定理学療法士(呼吸)、認定理学療法士(循環)、登録理学療法士

藤橋 伸弘(第2リハビリテーション科係長)

■ 資格・所属学会等

心臓リハビリテーション指導士、認定理学療法士(循環)、登録理学療法士

AHA・BLSプロバイダー、福祉住環境コーディネーター2級

【理学療法士】 近澤 久美子

▪ 資格・所属学会等

認知症ケア専門士、認定理学療法士(脳卒中)、登録理学療法士、介護支援専門員

相田 悦子

鈴木 かおり

三浦 友輔

▪ 資格・所属学会等

3学会合同呼吸療法認定士、認定理学療法士(呼吸)、登録理学療法士、
AHA・BLSプロバイダー

金子 みなみ

▪ 資格・所属学会等

3学会合同呼吸療法認定士、登録理学療法士、福祉住環境コーディネーター2級

渕澤 慎也

▪ 資格・所属学会等

3学会合同呼吸療法認定士

大室 康騎

秋本 礼智

▪ 資格・所属学会等

認定理学療法士(運動器)、登録理学療法士

萩原 幸樹

▪ 資格・所属学会等

登録理学療法士

菅野 颯海

▪ 資格・所属学会等

登録理学療法士

【作業療法士】 高橋 美和

川瀬 ゆかり

▪ 資格・所属学会等

AHA・BLSプロバイダー

橋本 楓

▪ 資格・所属学会等

認知症ライフパートナー2級、AHA・BLSプロバイダー、
肝炎医療コーディネーター

菅野 尚之

【言語聴覚士】 齋藤 隆徳

佐藤 藍里

■ 資格・所属学会等

肝炎医療コーディネーター

東海林祐実

■ 資格・所属学会等

肝炎医療コーディネーター

菅野 信世

【事務】 鈴木真紀子(派遣事務員)

<令和3年度実績>

1. リハビリテーション業務実績

部 門	実患者数患者数合計	延べ患者数合計	総単位数
理学療法部門	2,079	27,738	37,541
作業療法部門	990	10,914	14,277
言語聴覚療法部門	763	9,834	13,334

2. 耳鼻咽喉科外来業務(音声外来患者対応)

3. カンファランス開催・参加

- ・ 整形外科ケースカンファランス
- ・ 脳血管疾患リハビリカンファランス
- ・ 呼吸器疾患リハビリカンファランス
- ・ 心大血管疾患リハビリカンファランス
- ・ 各種ケースカンファランス

4. チーム(委員会)活動への参加

- ・ EAT
- ・ NST
- ・ RST
- ・ 早期離床リハビリテーションチーム
- ・ 褥瘡対策チーム
- ・ 肝炎治療チーム
- ・ 認知症ケア委員会
- ・ 緩和ケア委員会

<令和4年度目標>

1. 方 針

- (1) 患者満足度と職務満足度の向上
- (2) 質の高いリハビリテーションの提供
- (3) 病院収益への貢献
- (4) 人材育成

2. 具体的目標

- (1) 処方された全ての患者様へ、適切なりハビリテーションを提供する
- (2) ハード面、ソフト面の充実

- (3) 地域連携パスの適切で効果的な運用
- (4) 診療報酬改訂に対応し、規定範囲内で最大限の算定を行う
- (5) 業務改善の提案
- (6) 他部門との連携強化
- (7) 各種リハビリテーション文書の統一化
- (8) 臨床実習の受け入れを行なう

24. 薬剤部

【部 長】 市橋 淳

▪ 資格・所属学会等

ケアマネージャー(福島県介護支援専門員)

【課 長】 緑上 淳一(薬品管理課長 兼 薬品管理係長)

渡部 寿康(調剤製剤課長 兼 調剤製剤係長)

▪ 資格・所属学会等

がん薬物療法認定薬剤師

緩和薬物療法認定薬剤師

ケアマネージャー(福島県介護支援専門員)

日病薬病院薬学認定薬剤師

日本薬剤師研修センター認定薬剤師

日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師

日本DMAT隊員

麻薬教育認定薬剤師

日本アンチドーピング機構スポーツファーマシスト

福島市学校薬剤師

川村 早苗(病棟業務課長)

▪ 資格・所属学会等

日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師

吸入指導薬剤師

【主 任】 佐藤 南

▪ 資格・所属学会等

吸入指導薬剤師

齋藤可奈子

▪ 資格・所属学会等

外来がん治療認定薬剤師

日本薬剤師研修センター認定薬剤師

日本アンチドーピング機構スポーツファーマシスト

酒井 亮

▪ 資格・所属学会等

日病薬病院薬学認定薬剤師

福島DMAT隊員
日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師

【薬剤師】 二瓶 瑤子

- 資格・所属学会等
日本糖尿病療養指導士

武藤 芳和

- 資格・所属学会等
日病薬病院薬学認定薬剤師
日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師

安齋 英里

菊地 洋平

- 資格・所属学会等
日病薬病院薬学認定薬剤師
外来がん化学療法認定薬剤師

大竹麻衣子

- 資格・所属学会等
日病薬病院薬学認定薬剤師

古賀 彩織

- 資格・所属学会等
日病薬病院薬学認定薬剤師

寺内優紀恵

- 資格・所属学会等
日本糖尿病療養指導士

佐藤 綾香

黒田 彩佳

矢葺 優佳

猪股 育美

藤田 麻実(臨時薬剤師)

【薬剤助手】 板垣かなえ、安倍 由紀

＜令和3年度実績＞

1. 薬剤管理指導件数 月平均：577件
2. 退院時薬剤情報管理指導数 月均：362件
3. 6年制薬剤師長期実務実習受入件数
Ⅱ期(令和3年5月24日～8月8日) 3名
Ⅲ期(令和3年8月23日～11月7日) 1名
Ⅳ期(令和3年11月22日～2月13日) 1名

4. 化学療法ミキシング件数

外来実施件数：1,703件

入院実施件数：306件

5. 学会・研修会発表

発表年月日 (西暦)	演題・テーマ・タイトル等	学会名・研究会名等	発表者
20210405	研修医対象 処方・注射オーダーの方法と注意点	福島赤十字病院薬剤部	渡部 寿康
20210806	医薬品に関する医療安全①	福島赤十字病院薬剤部	市橋 淳
20210806	医薬品に関する医療安全②	福島赤十字病院薬剤部	川村 早苗
20211009	ナルデメジンの効果と、悪心及び疼痛への影響の確認	第31回日本医療薬学会	渡部 寿康
20211009	医薬品使用期限管理の取り組み	第31回日本医療薬学会	佐藤 綾香
20211026	病棟における向精神薬注射剤の適正使用について	福島赤十字病院薬剤部	武藤 芳和
20211210	医療安全研修	福島赤十字病院医療安全推進室	市橋 淳
20220119	薬品安全管理 ～注射ver..～	福島赤十字病院薬剤部	矢茸 優佳
20220124	当院における疼痛緩和の取り組み	疼痛緩和セミナー	渡部 寿康
20220126	当院における疑義照会簡略化プロトコルの注意点	福島赤十字病院疑義照会簡略化プロトコルについて	渡部 寿康
20220201	レジメンの読み取りと副作用対策	令和3年度福島赤十字病院 化学療法レジメン研修会	渡部 寿康
20220201	初回化学療法から継続した入院患者への関わり	令和3年度福島赤十字病院 化学療法レジメン研修会	菊地 洋平
20220201	初回化学療法から継続した入院患者への関わり	令和3年度福島赤十字病院 化学療法レジメン研修会	武藤 芳和
20220221	パキロビットの使用法	福島赤十字病院薬剤部	佐藤 南
20220225	令和3年度 感染研修 第1回「抗菌薬の適正使用について」オンライン研修	福島赤十字病院ICT	緑上 淳一
20220309	循環器病棟で使用される薬剤について	福島赤十字病院薬剤部	古賀 彩織
20220318	令和3年度 感染研修 第2回「抗菌薬の適正使用について」(一般編) オンライン研修	福島赤十字病院ICT	緑上 淳一

6. 学会・研修会参加

20210513	日本緩和医療薬学会 第24回教育セミナー
20210513-16	第14回日本緩和医療薬学会年会
20210610-12	第24回日本臨床救急医学会総会・学術集会
20210703	令和3年度感染制御専門薬剤師講習会
20210704	第2回アドバンス編 災害救護医薬品検討ワークショップ
20210810	日本臨床腫瘍薬学会 Essential Seminar Neo A-program
20210824	日本臨床腫瘍薬学会 Essential Seminar Neo B-program
20210904	令和3年度救急認定薬剤師講習会
20210907	日本臨床腫瘍薬学会 Essential Seminar Neo C-program
20210928	日本臨床腫瘍薬学会 スタートアップセミナー2021
20211001	日本緩和医療薬学会 2021年秋季第25回教育セミナー

20211009-10	第31回日本医療薬学会年会
20211021-23	第59回日本癌治療学会学術集会
20211030-1107	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2021
20211101	令和3年度がん専門薬剤師集中教育講座
20211103	令和3年度妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師講習会
20211106	日本糖尿病学会第59回東北地方会
20211116	日本臨床腫瘍薬学会 ブラッシュアップセミナー
20211218	令和3年度認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ
20220312-13	日本臨床腫瘍薬学会学術大会2022(JASPO)

<令和4年度目標>

1. 薬剤管理指導件数
月平均 600件
2. 6年制薬剤師長期実務実習受入件数
Ⅱ期：3名 Ⅲ期：4名 Ⅳ期：1名
3. 化学療法ミキシング件数
外来実施件数：1,400件
入院実施件数：300件
4. 学会・研修会発表：2件

25. 医療技術部

【部 長】 渡部 研一(循環器内科主任部長 兼 医療技術部長)

栄養課

【係 長】 菊地 利恵(第一栄養係長)

- 資格・所属学会等
静脈経腸栄養(TNT-D)管理栄養士
NST専任管理栄養士

小河原貴之(第二栄養係長)

- 資格・所属学会等
福島県糖尿病療養指導士
NST専任管理栄養士

服部みゆき(調理係長)

【管理栄養士】 野崎 華織

- 葛城 美貴
- 資格・所属学会等
福島県体育協会認定スポーツ栄養士

野沢 雅美、佐藤 璃香

【栄養士】 野地満里絵、齋藤那緒美、蓬田 ゆみ、
 宍戸 萌美、角田奈々葉、香野 友希

【調理師】 釜田 雄一、中尾ひろみ、齋藤 蘭、小林 玲子

【業務員】 片平 純子、本多由美子、菱沼美佐子、
 菅野由香利、山田 弘美、佐藤 栄寿

【事務員】 大橋 睦子

<令和3年度実績>

・栄養管理業務

項目	区分	年間実績	備考		対前年度増減
栄養指導件数	外来指導	631件	算定件数	605件	139件増
	入院指導	849件	算定件数	678件	5件増
個別栄養食事管理加算(12月～)		41件			－
栄養管理計画書		4,438件	67.80%		38件増
集団栄養相談教室	プレママ	33回			－
個食対応		1,017件			104件増

- (1) 目標栄養指導件数1,276件に対し、1,480件実施。目標達成率116%
- (2) NST介入依頼を電子カルテに導入することを検討開始した
- (3) 12月から緩和ケア診療加算算定開始に伴い、個別栄養食事管理加算の算定可能となった

・給食管理業務

項目	区分	年間実績	備考		対前年度増減
食事提供数	一般食	108,379食	特別治療食 (加算有)割合	42.34%	3,165食増
	特別治療食(加算有)	79,572食			6,214食増
行事食回数		32回			－

- (1) 4月：オーダー締切時間変更実施
- (2) 8月：嗜好調査を実施し、献立内容改善に繋げた
- (3) 8・9・11月：管理栄養士、栄養士の実習生を3校(5名)受け入れた
- (4) 2月：個食対応の麺食献立改定

<令和4年度目標>

1. 30日献立サイクル検討(令和5年度導入予定)
2. 産科食祝膳内容改定検討(令和5年度導入予定)
3. 食事箋改定
4. アレルギー対応の運用再検討
5. 自助食器導入検討
6. 栄養ケアプロセス(NCP)の理解を深める(研修実施)
7. NST介入依頼を電カル導入予定
8. NSTラウンド80件／年目標

【課長】 橋本 健一(臨床工学技士・医療機器安全管理責任者
医療安全推進室員・特定高圧ガス取扱主任者)

【臨床工学技士】 早坂美智子、中山 彩、塩澤 将太、
村上 風太、齋藤 巧、佐久山 歩

<令和3年度活動実績>

◆臨床業務

- アンギオカテーテル業務 ・心臓 380件 (PCI 207件)
 - ・末梢血管EVT 27件 ・血栓除去 5件
 - ・IVCフィルター 1件 ・脳血管 79件(造影・コイル他)
 - ・肝臓 22件(TACE他) ・大動脈ステントグラフト 7件
- 心臓ペースメーカー業務 ・新規埋込み術・電池交換術 75件
 - ・植込み型ペースメーカー外来：指導管理料 2,210回
 - ・体外式ペースメーカー管理料 115日
- 心臓手術(人工心肺業務含む) 17件 ●自己血回収装置業務 24件
- 補助循環装置管理料 ・IABP 20日 ・ECMO 35日
- 血液浄化アフェレーシス療法業務 34回 (HD・CHDF・DHP・腹水濾過再静注)
- ラジオ波腫瘍焼却術(RFA) 2件
- 手術室業務
- 内視鏡室業務

◆医療機器管理業務 (医療機器安全管理料1算定)

- 中央管理・点検業務
 - 輸注ポンプ・人工呼吸器・除細動器・全身麻酔器・閉鎖式保育器・血液透析装置・補助循環装置(IABP・PCPS)・ペースメーカー・パルスオキシメーター・生態情報モニター・低圧持続吸引器・電気メス など
- 医療機器研修会開催 6回 (病棟単位での研修会含む)

◆参加委員会 等

- | | | |
|--------------|------------|--------------|
| ●医療安全推進室 | ●医療安全推進委員会 | ●医療ガス安全管理委員会 |
| ●医療機器整備委員会 | ●HCU運営委員会 | ●手術室運営委員会 |
| ●ER運営委員会 | ●災害対策委員会 | ●省エネ委員会 |
| ●医療情報システム委員会 | ●NESスタッフ | |

<令和4年度目標>

- 1)管理機器における点検表の整備
- 2)各臨床業務分野における知識・技術の向上



26. 看護部

看護部目標(令和3年度～令和5年度)

1. 倫理観のある心温まる看護を提供し、看護の質の向上を図る。
2. アセスメントに基づいた看護実践能力の向上を図る。
3. 看護要員の計画的な人材育成を図る。
4. 病院経営への参画を意識した看護要員の確保及び労務管理を行う。
5. 時代の変化に即応した赤十字看護師の役割を果たす。

令和3年度 短期目標

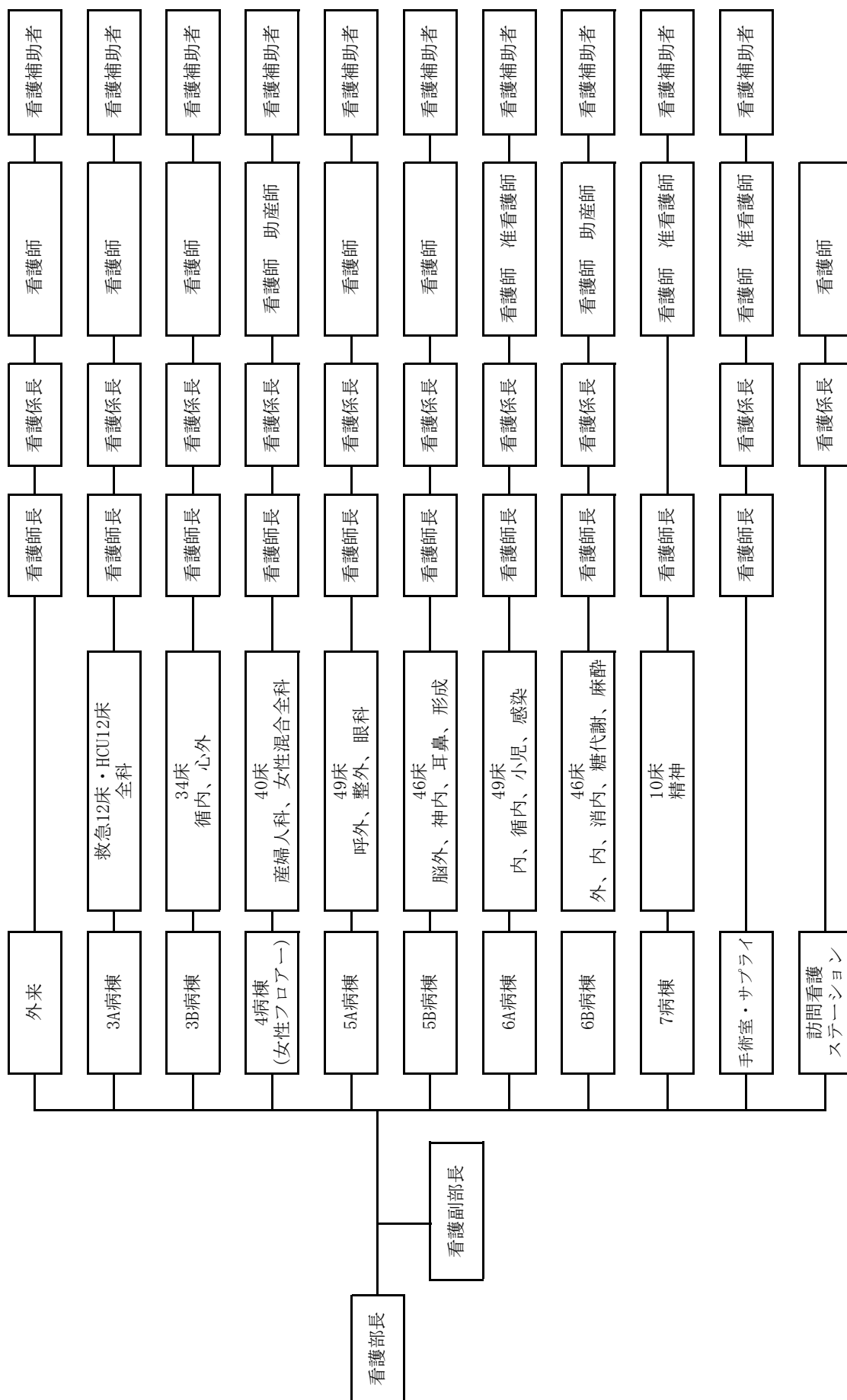
1. 患者の思いに寄り添い、尊厳ある看護を実践する。
2. 患者がみえる看護記録を徹底する。
3. 働きたいと思う職場環境を実現する。

福島赤十字病院看護部組織図

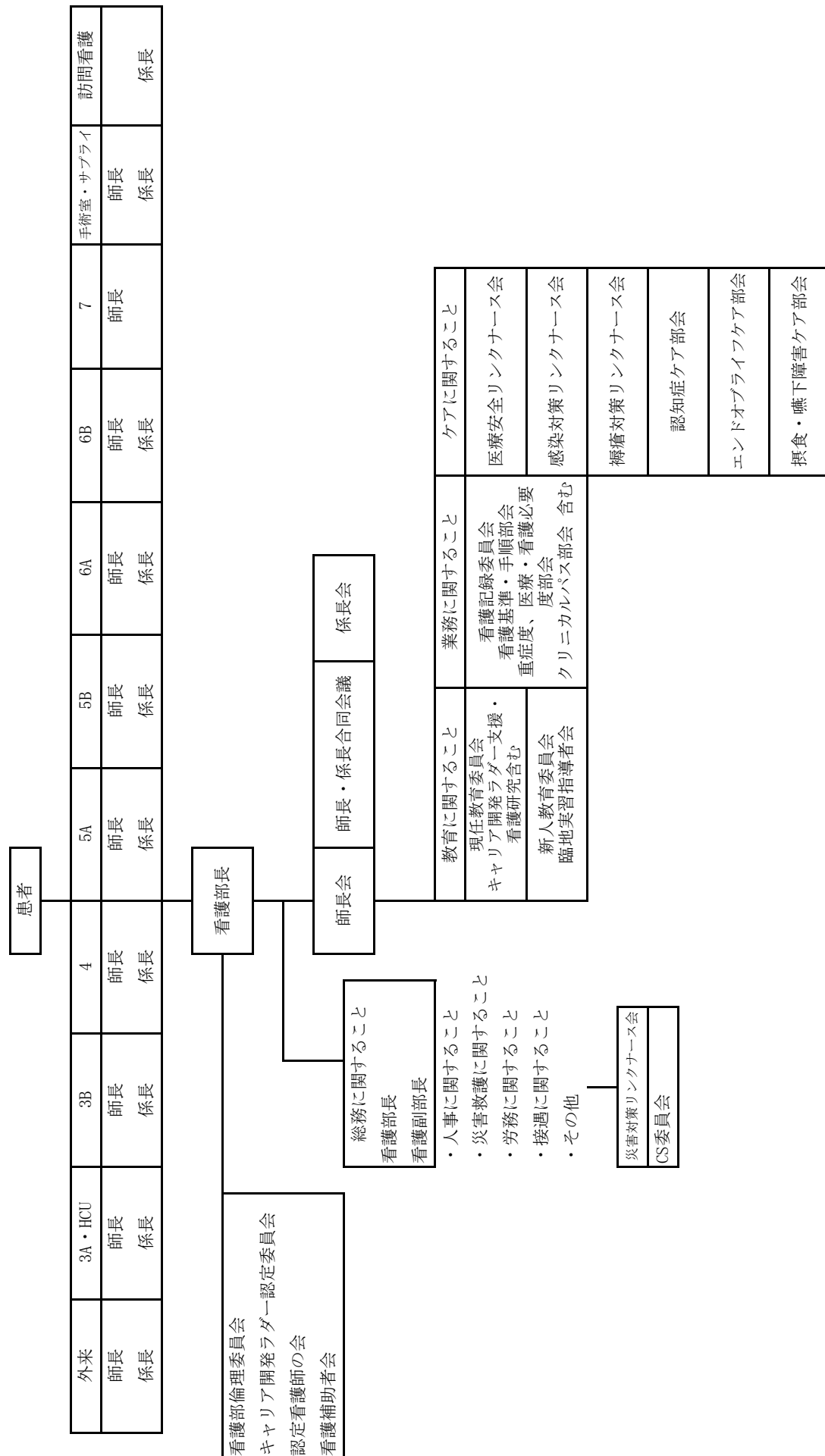
看護要員 (2020年4月1日改正)

病床数・診療科

部署



福島赤十字病院看護部機能図



令和3年度 看護部管理者配置

看護部	看護部長	會澤 英子
	看護副部長	鈴木 佳子 車田 真美
	褥瘡管理者(看護係長)	佐藤 美絵 (皮膚・排泄ケアCN、特定行為研修修了者)
外来	看護師長 1F外来	渡邊あゆみ(救急看護CN)
	看護師長 2F外来	森谷 浩子(がん化学療法看護CN)
	看護係長	小林 洋子 萩原 暁美
HCU・3A病棟	看護師長	奈良輪弘美
	看護係長	鈴木 安英 (クリティカルケアCN、特定行為研修修了者) 大槻 里美
3B病棟	看護師長	武田 里美
	看護係長	柳田 美穂
4病棟 産科・婦人科外来 助産外来	看護師長	菅野ひとみ
	看護係長	成澤 裕美 齋藤 幸恵 橘 智寿子
5A病棟	看護師長	武井 明美
	看護係長	菅野智恵子
5B病棟	看護師長	小野ひとみ
	看護係長	三浦 将克
6A病棟	看護師長	清和 彩子
	看護係長	三浦 愛(感染制御実践看護師) 鈴木 牧子
6B病棟	看護師長	菅野いづみ
	看護係長	國分 朋子
7病棟・精神科外来	看護師長	安達 明美
	看護係長	佐藤 裕子
手術室 中央材料室 麻酔科外来	看護師長	泉 弘子
	看護係長	佐久間由美子 本田 祐子
訪問看護ステーション	所長・看護係長	齋藤 泉
入退院支援センター	看護師長	伊藤美津子

令和3年度 看護部委員会・部会 メンバー表

委員会・部会	委員長	副委員長	開催日	3A	3B	4	5A	5B	6A	6B	7	外来	手術室	訪看
看護記録委員会 看護基準・手順部会 重症度・医療・看護 必要度部会 クリニカルパス部会	武井師長 小野師長	成澤係長 柳田係長 大槻係長	第3火	原田 瑞穂	渡邊 君枝	鈴木えり子 (高橋 沙綾)	菊地悠二郎	朝倉 恵実 (伊藤 美咲)	玉手 智美 (今野 蘭)	堀切 智子	野崎 美砂	齋藤 貴子	鈴木 直人	
医療安全リンクナース会	奈良輪師長	齋藤幸係長 本田係長	第1金	安達麻菜美	大須賀香織	高槻はるな	佐藤 良子	渡邊 義文	鈴木 宏美	馬場 梢	高野 都	八木沼裕子	本田 賀絵	
感染対策リンクナース会	森谷師長	佐久間係長 三浦愛係長	第3金	山本 知佳	北原 麻美	石井 美咲	渡邊 泰昇	齋藤 未来	伊佐見知美	箭内 良磨	渡邊 陽子	紺野みゆき	小林 理恵	高橋美千代
褥瘡対策リンクナース会	菅野い・師長	佐藤美係長 (C N)	第4火	北原奈緒美	菅野 奏	丹治 和子	古関 夏純	八巻 美沙	本間 香織	牧野江美子	菅野 麻衣	小野みさ子	齋藤 駿	安田みどり
認知症ケア部会	武田師長	佐藤裕係長 佐川C N	奇数第1水	伊藤 廉	大内 亜衣	菅野 陽子	渡辺 梨沙	瀬戸 雅子	明道美沙紀	鈴木 彩		佐藤 明美	菅野 美紀	中村 広子
エンドオブライフケア部会	清和師長	小松N s	奇数第2火	菊地めぐみ	田島 一樹	阿蘇由美子	吉内 絵美	伊藤 美咲	今野 蘭 (鈴木 彩佳)	布施美奈子	佐藤 幸恵	渡辺 和恵		黒沢真由美
摂食・嚥下障害ケア部会	小野師長	八木沼C N	偶数第3木	佐藤亜里咲	中村 亜紀	渡部 彩乃	野坂 雄史	齋藤 郁美	吉田 圭吾	南 栞	菊田 純子			
現任教育委員会 (キャリア開発ラダー支援・ 看護研究を含む)	看護部 鈴木 鈴木	渡邊あ師長 鈴木牧係長 鈴木安係長	第2金	東 由香里	武田 良平	清野 薫	野田 康代	佐藤 祐子 (長沢 恵)	佐藤 香葉	飛田 依麻	根本 智子	野地 静香	志賀 慶子	
新人教育委員会 臨床実習指導者会	菅野ひ師長	菅野智係長 國分係長	第1木	高橋 健太	佐藤 智子	佐藤あゆみ (中村 留美)	斎藤 祐香	菅野 勇勝 (磯松 咲乃)	高島 恵子	八巻 歩美 伊藤久美子		今野 暁子	根本 聡美 庄司 大志	
災害対策リンクナース会	渡邊あ師長	三浦将係長	偶数第2火	山口 広夢	中沢 利樹	菊田真由子	宮崎 遼人	高島 雄一	金子 尚代	有坂 愛	神尾 泰子	大橋 真紀	伊藤紗也加	
C S 委員会	安達師長	萩原係長	第2木	保住 朋美	高島 詩織	遠藤 裕子	渡邊 優香	上杉 梢	菊池 佑菜	山内 未優	加藤 妃子	佐藤美重子	今野 歩美	
コスト削減・省エネWG	泉師長	橘係長	第4木	鈴木 安英	柳田 美穂	橘 智寿子	菅野智恵子	三浦 将克	三浦 愛	國分 朋子	佐藤 裕子	小林 洋子	佐久間由美子	
看護部倫理委員会 キャリア開発ラダー認定委員会	看護部長 教育担当師長・係長	看護副部長												
看護補助者会	看護部	補助者会担当	第2木	貝沼まゆみ		羽田真由美	紺野 一彰	齋藤 順子	橋 麻紀	菅野智嘉子				
職能団体連絡委員会	安達師長	小林係長		菅野 忍	高橋みなみ	鈴木 舞	國分 典子	齋藤 文子	丹治 悠磨	齋藤真奈美	小野 充	小林 洋子	菊田 歩	

師長会担当	看護補助者会担当	菅野いづみ	小野ひとみ	コスト担当	清和 彩子	泉 弘子
	医事課担当	森谷 浩子	安達 明美	医療監査担当	奈良輪弘美	武井 明美

令和3年度 看護部委員会・部会の目標 最終評価と課題

委員会・部会	目 標	最終評価	次年度の課題
看護記録委員会	①患者が見える看護記録の徹底 ②電子クリニカルパスのスムーズな運用により拡大を図る。全科運用 ③看護の質向上のため、看護基準・手順を見直し改訂・整備する	・看護記録監査 量監査において入力率100%を目標に実施したが結果は97.9%であった。 今年度、全患者必須項目のみ量監査内容へ再度見直しを行ったが記入不足等が生じている。入力の低い項目に対しての分析を進める必要がある。 質監査において、看護記録から「患者が見える記録」になるよう内容を点数化にて評価開始。項目を徐々に増やし10項目の質監査の実施に至る。開始後3か月とまだ浅いが、アセスメント力が構築できるよう更なる検討が必要である。 ・看護必要度 年2回のテストを実施し、テスト結果は前期79%→後期85%と正解率の上昇がみられた。 ・電子クリニカルパス ・eラーニングより看護手順と看護基準の準備を実施。3月中までに、各病棟担当を決めすり合わせを進めてもらう。	・看護業務のなかで看護記録に費やす時間は大きい看護記録の重要性、記録に残すことの意義を再度周知する必要がある。 ・電子カルテにより、看護記録の差が生じているため、質監査の内容の充実を図りながら全スタッフへの伝達方法を検討していく。 ・看護マニュアル・看護基準の修正および改訂を進めていく。 ・経過表の記入方法に差が生じているため、マニュアルを見直し実践につなげていく。 ・看護必要度の正解率100%に達するためどのような研修が必要か検討していく。
医療安全リンクナース会	①看護を安全に提供するための環境づくりを支援する ②看護を安全に提供するためのスタッフ教育をおこなう	・医療安全リンクナースが、eラーニングでKYTの聴講をおこなった上で、全部署でKYT研修を行い、医療安全リンクナース会で報告した。 ・ヒヤリハットの分析方法について、医療安全リンクナース会で学び、ヒヤリハット事例からなぜなぜ分析を行った。 ・安全対策記録監査を4回/年実施し、結果を共有した。現任委員会と協働で倫理研修を全部署リーダー看護師・医療安全リンクナースに実施した。5部署で身体抑制カンファレンス内容項目の統一を図られ記録されるようになった。 ・身体抑制用具の定数を見直し、不要在庫を再度管理とした。 ・転倒・転落防止のeラーニングを聴講し、振り返りとしてマイペー	・KYT研修を、各部署で起きたヒヤリハットを想定し、ロールプレイを行うことで危険予知力を高めていく。 ・医療安全リンクナースが、ヒヤリハットの分析を繰り返し行うことで、分析能力を高めていく。 ・身体抑制記録監査を継続し、身体抑制カンファレンス記録内容・項目を全部署で統一し、身体抑制しない看護ケアが実践できるようにする。 ・転倒・転落防止に対する研修を企画・運営をおこない、予防対策の知識向上を図り看護ケアに繋がった

委員会・部会	目 標	最終評価	次年度の課題
感染対策 リンク ナース会	①標準予防策・感染経路別予防策を行い感染対策を徹底する。 ②感染対策教育を通して感染対策の充実を図る。	・アルコール製剤を個人持ちにして、使用量チェックを行ったが、1患者あたりの手指衛生回数や部別で見ると1日41回~178回と部署の差が大きい。手指衛生チェックリストの評価は高いが、使用量が伴っていない結果だった。 ・自部署で毎月環境チェックをしてもいい、改善を共有したが、相互ラウンドで、100%にならない部署があった。 ・防護具の着脱チェックを前期と後期に実施し、各自の不十分な箇所はリンクナースが指導を行った。 ・eラーニングを視聴しテストまで行うよう部署で働きかけたが、視聴できていない人が多いが多かった。	・アルコール製剤を使用するタイミングと、正しい量が使用できるよう再検討し、各部署の使用量をあげる。 ・環境チェック項目、チェック方法を再検討し感染対策が100%出来るようにする。 ・防護具の着脱チェックを定期的にを行い、手順に沿った着脱を完全に身に着ける。
褥瘡対策 リンク ナース会	①自部署内の褥瘡予防対策を実践できる。 ②部署内の現状把握し、勉強会等で得た知識・技術を伝達できる。	・前年度と比較し、定期評価率は全部署で上昇した。定期評価率100%を達成した部署は3部署あったが、目標実施率に満たない部署もあった。 ・委員会内で自部署の症例報告を實踐し、情報共有を行い自部署外の実践状況も把握することが出来た。 ・委員会内で勉強会を行い、得た知識・技術等を自部署内で伝達を行った。部署内での伝達方法や周知方法の確認手法や、自部署以外の工夫なども委員会内で共有することができた。	・リンクナースがリーダーとなり、自部署内の褥瘡予防・治療対策を行う機会となった。 ・チーム活動や病院機能評価の評価対象時調査や病院内に於いては、適にならなっているため、部署内伝達講習は今後も継続が必要である。 ・令和3年度では、医療関連機器正圧創傷対策(深部静脈血栓症予防機器関連)の勉強会を実施出来なかったため、令和4年度の実施を計画検討する。

委員会・部会	目 標	最終評価	次年度の課題
認知症 ケア部会	① 各部署の看護師が認知症ケアに関する学びを共有し、看護計画を展開し、尊厳ある看護が提供できる。 ② 職場内で適切な認知症看護を展開し実践できるよう、実践モデル的な役割とスタッフへの指導を実践できる看護師を養成する。 ③ 各部署の看護師が、せん妄ケアに関する知識と技術を習得し、看護実践に活用できる。	・認知症看護計画の立案に関しては、実施率が上昇する病棟もあれば低下する病棟、全く立案されていない病棟もあり、評価、修正を含め昨年同様バラつきがあった。部会メンバーが自部署において、認知症の看護計画立案、実践、評価、修正という一連のプロセス実施の周知、チェックを行ったがなかなか定着せず、適切にケアが行われていたとしても、計画に沿ってケアを実践することができていなかった。 ・認知症eラーニングの受講率は各病棟30-50%台と予想より低い状況であった。受講期限を延ばして受講を進めた。 ・認知症看護インストラクターナーサス育成のための勉強会を、ほぼ予定通り実施することができた。情報分析と解釈、統合アセスメント、適切なケア内容について学びを深めることができた。 ・認知症、せん妄ケア(倫理も含む)に関する事例検討を各病棟、手術室、訪問看護で実施し、自分たちのケアを振り返り学びを得ることができた。事例検討で気づいたことや学んだことは、認知症・せん妄ケア対応力向上のため大きな意味があったと考えられる。	・認知症看護計画に基づいて看護展開できるよう、認知症アセスメント、計画立案、評価・修正、カンファレンスができるようテンプレートを作成する予定。作成後、実際に運用しながら評価・修正を繰り返していく。 ・認知症eラーニング受講は、知識と技術の習得、実践への活用を目的としているが、受講数が低い。受講する内容を再検討し、また、eラーニング以外の研修・勉強内容についても検討していく。 ・認知症インストラクターナース勉強会について、アンケートとテスト(2月予定)結果に基づき、次年度の内容、方法について検討していく。実際インストラクターとなつた看護師について、具体的に何をどのように行っていくのかを検討し、内容を明確化する。 ・認知症・せん妄事例検討を継続する。部会メンバーにもアンケートを実施し、その内容も含めて内容や方法などを検討していく。
エンドオブ ライフケア 部会	① 部会看護師がエンドオブライフケアに関する知識を各部署にフィードバックし、看護ケアの成果導き出す事が出来る。 ② 緩和ケア委員会と連携し、部会看護師が「症状緩和マニュアル」を看護ケアの実践に活用する役割を担うことができる。	・事例作成と部署内事例検討会の企画・運営をEOL部員が中心となり開催する事が出来た。検討内容を提示する事で、共通の焦点を当てた話し合いが各部署で行う事が出来た。各部署の内容を看護師全員が閲覧できるように1月中旬に設定予定。 ・EOL部員が中心となり、各部署の疼痛評価方法の確認を行った。Bolugスケールの勉強会を実施した。 ・新人対象の終末期の看護研修を実施した。3月の部会で内容を部員に伝達する。	・年度末のEOL部会での反省点をもとに、令和4年度の事例検討会在り方を企画・運営する。 ・Bolugスケールを今後使用していくかを検討する事から始め、普及手段を踏まえて活用方法を考える。 ・新人研修のアンケート内容を基に、次年度の研修内容を企画・運営していく。

委員会・部会	目 標	最終評価	次年度の課題
摂食・嚥下 障害ケア部会	①入院時、経口摂取開始時摂食機能評価に関する調査を行い、問題点を明確化し、改善につなげる。 ②メンバーの摂食嚥下障害ケアのスキルアップを図る。	・入院時に行う経口摂取時の嚥下障害アセスメントの実施率を前期と後期に分けて集計し、フィードバックを行った。 ・全体の実施率は32.94%であり、前期と比較し、後期の実施率は下がった結果になった。 ・看護職員が摂食嚥下障害アセスメントシートの方法と根拠を理解して実施できているか調査した。調査の結果、“RSST及びMWST、WSTについての理解が不十分である”や“正しく実施できているか不安である”などの意見が得られた。 ・調査結果を踏まえ、部会メンバーの知識と技術力向上を目的に勉強会を行った。勉強会の内容を他の看護職員へ周知するため、各部署ごとに演習を交えた研修会を開催し、嚥下障害についての理解を深める機会を設けた。	・摂食嚥下障害アセスメントの実施率をフィードバックした中で、アセスメントの項目内容や方法について課題が明確になった。 そのため、令和4年度はアセスメント方法、看護計画の立案、看護実践内容、カンファレンス内容など、記録として残せるシステム作りを検討する。 ・全看護職員が一定の知識と技術力を習得できるよう勉強会を行い、患者様が安全にEATを受けられるアセスメントができるようにする。
現任教育 委員会	I ①キャリア開発ラダーを取得し、看護実践者としての能力の向上を目指し、自己研鑽することができ。 ②IVナースの研修会の運営を行い、適切な知識、技術をもった看護師を育成する。 ③急変時対応に必要な知識技術を習得できる。 II ①3年目看護師が事例を振り返り、自己の看護について学びを深めることが出来る。 ②看護研究を通して看護の質の向上を図る。	①キャリア開発ラダー、レベルIは令和3年度全員取得予定である。レベルII以上は30名以上の目標に対して20名であった。目標人数に達するように、取得を推進していきたい。 IVナース・インストラクター育成について、自宅でも視聴できるようeラーニングを活用したが、予定より動画配信に時間がかかってしまい、時期が遅れてしまった。3月までに間に合わないスタッフも生じる恐れがあり、進捗状況の確認など進めていく。 急変時シミュレーションを各部署で実施しているが、内容・レベルについて各部署でばらつきがあり、どのように実施していくか検討が必要である。また、今年度はフィジカルアセスメント能力の向上を目指し研修会を企画し運営したが、実施率のみの評価となっており、アウトカムをどのように評価していくか課題であり、検討していく。 ②ケースレポートについて令和2年度のケースがずれこんでしまい、令和3年度は2回実施となってしまった。各部署の負担にならないように円滑に進めていく。 看護研究は今年度もなして終わってしまった。来年度以降、どのように進めていくか検討する必要がある。	キャリア開発ラダーは引き続き取得を推進し、取得者が増えるにはどのように推進するかなど検討する。 IVナース・インストラクター育成については、来年度より正規の育成プログラムを実施していく。 急変時シミュレーションや研修内容などは今年度の反省を生かし、看護部目標と照らし合わせ内容を検討していく。 ケースレポートや看護研究について、実施する側、指導する側双方に負担を軽減する方法や、自身の看護を振り返る場の提供を進めていきたい。

委員会・部会	目 標	最終評価	次年度の課題
新人教育委員会	①新人看護教育計画に沿って教育研修を行い、新人看護職員の基本的姿勢・態度・基礎看護技術の習得を支援する。 ②実習指導に必要な知識・技術・態度を習得し効果的な実習指導ができるように支援する。	①令和3年度は新人看護職員年間計画見直しを実施し、リアリテイーシヨックを緩和させ社会人基礎能力を高めた、フィジカルアセスメントを学び看護実践能力に活かす目的とし研修を企画した。基礎看護技術に対する集合研修、OJTでは、研修後アンケート結果においても満足度が高く、技術チェックすべての項目においてB評価以上取得しているため効果があつた。プリセプター研修では、令和3年度は3回実施しフォローアップ研修としてグループワークを実施し普段の指導に対する悩みや不安など共有できた。 ②委員会では研修の予定や内容について説明はあるが実習要項や指導方法については伝達しておらず、またコロナ禍で実習が減少したため実習指導が円滑に実施できなかつた。	①次年度の新人看護師の特徴や看護教育、医療体制、保健、福祉の動向を踏まえ集合研修を企画、運営する。また、実施した研修の評価表を作成し研修後の効果について分析していく。 ②新人看護師の研修後、アンケートやストレスチェック、振り返りシートの内容の見直しや新人教育マニュアルの見直しを行い、全病棟で統一した新人看護師指導を目指す。 ③新カリキュラム体制において実習の目的、内容、実習指導者が求められる能力や指導方法について研修を行い、教員と連携して実習をサポーターでできる体制づくりを目指す。
災害対策リンクナース会	①スタッフの減災意識を高め、災害発生時において患者の安全を図り迅速かつ円滑な対応ができるようにする。 ②減災、救護活動に必要な知識と技術の習得を支援し、常に救護体制を整備する。	①連絡網の整備、緊急連絡網訓練の実施、救護物品の点検など災害の備えができた。院内での訓練を2回実施できた。 ②救護員養成研修に11名参加し、救急法(現在コロナ禍のため研修会が行われていない)を取得すれば登録可能となった。救護員のフォローアップ研修の実施には至らなかつた。	①3月に実施する訓練の結果を評価し、課題を明確にする。それに対して他部署とも連携しながら災害に対する備えをする。 ②継続して救護員の養成を行う。コロナ禍における救護員研修のあり方や方法について支部とも連携する。
CS委員会	個々の接遇力の向上をはかり、患者・家族に満足していただく。	①「ご意見箱」「看護サービスアンケート調査」から得た情報、ご指摘の業務改善を行うことができた(5件)。 ②「コロナ禍におけるの接遇」ビデオ聴講100%。eラーニングの聴講・テスト100%。現在の「接遇マニュアル」見直し施行中。 ③「身だしなみチェック」の自己・他者評価・ラウンドを行い、身だしなみへの意識定着を図った。自己・他者評価実施100%。ラウンド実施100%。ラウンドは初の試み。	①アンケート回収率をupさせ、患者様の要望、意見を反映した業務改善の継続。アンケートからの情報のみならず、CSリンクナース会からの主体的な業務改善の実施。 ②コロナ禍により変化した内容も含めた接遇マニュアルの見直しを顧客サービス委員会と連携し行い完成させる。 ③身だしなみの共通認識と継続した意識付けを行っていく。

委員会・部会	目 標	最終評価	次年度の課題
看護補助者会	①直接ケア業務の看護技術の標準化を図り、安全安心な療養環境を提供する。 ②病棟間の棚の配置を統一し、スタッフが働きやすい環境を整える。	①ナースィングメモソッドを活用し、全身清拭・おむつ交換・寝衣交換の看護技術の目的・注意点などが理解でき実践できた。 補助者全員がナースィングメモソッドを視聴しテストを実施した。 ②5階・6階フロアの廊下の棚・SS内の観音扉の棚を統一し運用した。 4階・3階は別に運用を見直し中。	①直接ケア業務の看護技術の確認 ②看護補助者マニュアルの見直し ③5S活動の継続

令和3年度 看護部各部署の目標 最終評価と課題

部署	目標	最終評価	次年度の課題
3A病棟	①急性期医療・重症集中医療に対応できるアセスメント能力の向上と看護実践の向上を図る。 ②身体拘束を第1選択としない尊厳ある看護を提供する。 ③急性期医療・重症集中医療に則した職場環境を整える。	①専門的知識・技術の向上を図るために、eラーニングの聴講や多職種・認定看護師を講師とした勉強会を実施した。急変時シミュレーションと急変対応事例の振り返りを繰り返し行い、挿管介助やDCの操作方法について繰り返し学んだ。 ②HCU術前訪問・オリエンテーションを実施し、HCU入室患者が安心して術後ケアを受けられように体制を整えた。 ③小児科のクリニカルパスの作成・見直し、医療器材の整備、勉強会を行い、小児科の受け入れ体制を整えた。 ④身体抑制カンファレンスの内容を認知症ケア認定看護師と検討し、カンファレンス記録の書き方を提示した。また、事例の振り返りを行った。 ⑤物品の定数を見直し、倉庫・棚の整理を行った。	①専門的な知識・技術を基に、看護実践できるような研修内容を検討する。 ②事例検討を繰り返し行い、アセスメント能力を高め、個別性がある看護展開をできるようにする。 ③認知症、せん妄、高齢者看護の理解を深め、抑制しない尊厳ある看護に取り組む。 ④業務改善を継続し、実践していく。 ⑤5Sの継続を徹底する。
3B病棟	①循環器、心臓血管外科疾患・看護への学びを深めるとともに、急変時の対応が迅速にできる。 ②多職種と協働し、早期退院支援と個別性のある退院指導の実践ができる。 ③安全保護対策最小化に向けたアセスメント力の向上を図り、対策の実践が出来る。 ④病棟カンファレンスの充実を図り、質の高い看護の提供に努める。 ⑤コストを意識した物品、医療材料の取扱いが出来る。	①知識向上のための勉強会（医師、薬剤師、認定看護師）を講師として計画的に実施出来た。急変時の対応についての勉強会は、ほぼ予定通り実施できたが、参加率が低く参加できなかったスタッフに対しての伝達が不足していた。新人に対しては、新人教育プログラムに沿ったOJTの他に看護過程の展開や症状アセスメントの勉強会をスタッフが講師となり実施できた。 ②多職種カンファレンスの目標件数は達成できなかったが、カンファレンスの持ち方を改善し受け持ち看護師発信のカンファレンスが少しずつできるようになってきた。退院指導については今後周知し導入する予定である。 ③安全カンファレンスに医師が参加できると話し合い、年度後半から実施することが出来た。認知症ケアの事例検討は2回実施し、時間をかけて考えることで大切にしなければならなかった。何か気づくことができ、自分たちの良い看護の振り返りとなった。 ④カンファレンスのあり方を検討し、受け持ち看護師についての勉強会を行い、カンファレンスの方法を変更した。勉強会の動画をグループウェアで配信しスタッフ全員に周知ができた。目標の件数は達成できなかった。 ⑤不動在庫や定数を適宜見直し、適切な物品管理ができた。看護補助者が中心となりフロアで共有しながら5S活動ができた。	①急変が多い病棟であることを認識し、次年度も知識と技術、アセスメント能力向上のための勉強会を計画的に行う。特に、変化に気づく力を習得するため、フィジカルアセスメントに力を入れる。参加できなかったスタッフに対して資料の配布で終わらず別な方法を考える。 ②受け持ち発信のカンファレンスが定着するよう働きかけ、早期退院支援と個別性のある退院指導ができるようにする。 ③医師が参加できるような曜日や時間を調整し、医師を交えての安全カンファレンスを定着させる。 ④意思決定支援と非癌患者の終末期看護の勉強会を計画すること、倫理カンファレンスを計画すること、倫理事例検討を継続していくことで看護の質の向上に努める。 ⑤フロアで共有しながらの5S活動、不動在庫・定数見直しを継続する。

部署	目 標	最 終 評 価	次年度の課題
4病棟	①全ての妊産褥婦に継続した支援を提供することで、安心して育児ができる環境を整える。 ②助産師としての専門知識を向上させ、統一した質の高い助産を提供できる。 ③多くの科の疾患と看護について学習し、協働することができ。 ④専門的知識とアセスメント能力の向上につとめ、質の高い看護を提供する。 ⑤他職種と連携し、患者・家族の意志を尊重した退院支援を行う。 ⑥安全な療養環境を提供する。	①授乳・育児指導・家族計画など、退院指導の新しいパンフレットを作成し指導することができた。 ②電子カルテでケースカンファレンス・地域連携用紙(妊産婦連絡票・ハイリスク妊産婦票)を運用することで、スタッフ間で共有し早期に地域に繋げる体制ができた。 ③妊娠期・分娩期・産褥期、各期の勉強会を実施できた。有事的な勉強会も適宜開催できた。 ④2か月に1回勉強会を実施することができた。 ⑤受け持ち看護師発信のケースカンファレンスの実施率が少なかつた。 ⑥電子パス(7疾患)の運用を開始、統一した看護を提供することができた。 ⑤退院支援計画書を使用し、他職種と連携を行い退院支援ができた。 ⑥各担当場所、5Sを実施継続ができた。 使用後医療器材の最終チェックが不十分なことがあった。	①新しいパンフレットを使用、指導後のアンケート調査を実施し、評価修正を行う。 ②助産師育成のため、計画的な教育支援を実施・継続していく。 ③知識・技術・アセスメント能力向上のため、計画的勉強会の実施を継続していく。 ④受け持ち看護師としての自覚を持ち、定期的にカンファレンスを実施し個別性のある看護展開をしていく。 ⑤他職種連携のスムーズな退院支援の継続。 ⑥整理整頓の継続を徹底する。 コストを意識した物品管理(SPD定数の見直し)をする。
5A病棟	①患者様に寄り添った看護が提供できるよう業務内容を整理しベッドサイドでのケアの時間を増やす。 ②多職種カンファレンスを通し、情報共有を行いスタッフ全員で問題に向き合いケアに当たる。 ③質の高い看護が提供できるよう自己研鑽に励み統一した看護を提供する。 ④環境整備の徹底、在庫管理 ⑤スタッフ間でコミュニケーションを図りチーム力をつける。	①業務整理、情報収集方法の精査、状態一括シートなどの活用により、申し送りの短縮が図れたことでベッドサイドでのケアの時間が増えた。 ②呼吸器外科は毎週水曜日に定期的に実施できた。 ③整形外科における医師を交えたカンファレンスは2件のみだったが、退院支援でのカンファレンスは定期的に行うことができた。 ④勉強会を定期的に実施したが、参加率は55.8%だったため、不参加のスタッフへは動画配信で自己学習とした。症例検討、カンファレンスをする時間は定着できた。 ④病室、廊下、ピット内、回診車、ナースステーション内、休憩室、すべての整理整頓を行い在庫管理に努めた。 ⑤お互い相手チームの状況をみて、声掛けができる様になった。	①申し送りに関しては夜勤での送り時間が超過しているため再度見直しを図る。業務に関してもマニュアルを再検討し有効な時間の活用を図る。 ②多職種カンファレンスが必要な患者の見極めが出来るようなスタッフ育成をしていく。 ③当該科の疾患及び既往から予測できる症状マネージメントができるような勉強会を企画する。 ④環境整備は継続し常に整理整頓に努める。 ⑤協働を意識づけし、チーム力の向上につなげる。

部署	目 標	最終評価	次年度の課題
5B病棟	①当該病棟特有の疾患について知識を深め治療の根拠・観察の視点を養う。 ②多職種の仕事・精神・社会・倫理的課題をカンファレンスして看護実践に反映する。 ③問題や課題の経過が読み取れる看護記録を記述し、継続看護に繋ぐ。 ④感染予防に努め安全で清潔な療養環境を提供する。	①当該病棟特有の疾患の勉強会は、泌尿器科以外はできなかつた。参加率も低かつたため、スタッフ全員に周知する方法を検討する必要がある。 ②カンファレンスを28件実施したが、計画していた月4件には及ばなかつた。さらに、カンファレンス実施後看護計画に反映することについてまだまだ不十分だった。 ③看護サマリカンファレンスは142件実施できた。実施率66% ④看護補助者を中心に環境整備はチェックリストを用いて実践できたが、受け持ち看護師としてベッド周囲の環境整備では不十分なことがあった。週一回のシーツ交換は実施できたが、看護指示に反映させることができないことがあった。	①受け持ち看護師が自ら疑問点を発信し、疾患や治療などを学習する機会を作るように計画する。 ②カンファレンスで共有した情報を受け持ち看護師が看護実践に反映できるように看護計画を修正していく。 ③患者や家族の思いを反映した退院支援を受け持ち看護師が主体的に行う。 ④5S活動を通して部署内の環境整備を徹底する。 ⑤業務改善を行い各スタッフが自分の役割行動を充実させる。
6A病棟	①病棟基準に沿った感染管理を徹底する。 ②患者のニーズに合わせた看護ケアを提供し記録に残す。 ③看護ケアの振り返りを行い質の向上に努める。	①COVID-19入院患者対応マニュアルを作成し、運用を開始した。異動したスタッフマニュアルを確認したうえで、感染対応を行う事が出来た。 ②経過記録の定期的な評価を行い、スタッフの結果をフィードバックし、改善点を周知した。 ③事例の振り返りを行うためデスカンファレンスを実施し、緩和ケア認定看護師に行ったケアの評価をもらった。	①勤務状況が多様化する中で、継続して行える学習方法をチームで考え実施する。 ②病棟の運用方法が変化していく事を想定し、どのような変化にも即座に対応する事ができる適応力を身に付ける(レジリエンス エンジニアリング)。 ③倫理観を意識し、患者と接することと患者のニーズを充足させることに繋げる。 安全、認知症ケア、意思決定支援、退院支援、緩和ケア。

部署	目 標	最終評価	次年度の課題
6B病棟	①多職種と安全対策についてカンファレンスを実施し、記録を充実させ安全な環境をつくる。 ②多職種協働で、患者、家族の思いに寄り添った退院支援を実施することができている。 ③ストーマケアの専門的知識、技術を高め統一したケアを提供できる。 ④糖尿病患者指導の統一を図る。 ⑤勉強会を実施し専門的知識向上へ努める。 ⑥スタッフ全員がワークライフバランスが取れるように職場環境を整えることができる。 ⑦感染予防に努め安全安心な療養環境を整える。	①両チームとも看護師同士での安全対策に対してのカンファレンスは100%実施することができた。また、記録について、医療安全管理委員会で策定されたマニュアルに則り、記録できるよう周知し実践した。医師や多職種とのカンファレンスは、実施日が週一回のみだった。 ②チームごとに毎週一回MSW、退院支援ナースを含むカンファレンスを実施することができた。また、緩和ケアCNとデスカンファレンスを実施し看護を振り返る事ができた。 ③ストーマケアに対して、皮膚・排泄ケアCNと協働し患者様、スタッフ用ストーマケアDVDを作成した。また、スタッフへのストーマ器具交換技術チェックリストを作成した。しかし、DVD活用やスタッフへの技術チェック実施まで行うことが出来なかった。 ④前年度作成した糖尿病パンフレットを修正し、糖尿病患者1名に実施した。 ⑤消化器内科での治療（ERCP、肝硬変）について医師より勉強会を開催した。参加した人数が少なくことや、予定していた外科的ドレーンの管理について実施することが出来なかった。 ⑥日勤リーダーの業務見直しを実施したが、業務量や内容についてデータを元に分析することができず時間外削減まで至っていないかった。各チームにてC勤務リーダー兼日勤リーダー実現できるか検討し外科チームのみ実施へ移行できた。 ⑦チェックリストを活用し療養環境整備することが出来た。また、COVID19予防を考慮し感染対策の徹底と充実を図る事ができた。	①退院後も継続的に治療やケアが必要な患者様が増加しているため、今後も患者、家族の意思決定支援を行い、多職種と協働にて患者、家族のニーズにあった退院支援が実現できるようにカンファレンスの充実を図る。 ②がん疾患だけでなく非がん疾患や慢性疾患患者に対し身体的、精神的な苦痛を緩和し安心して治療、ケアが受けられるよう認定看護師や多職種と協働しケア検討していく。 ③安心して退院後も患者、家族がストーマケアを継続してできるような作成したDVDを活用し指導を行い、スタッフ一人一人の技術向上に努める。 ④業務量や内容を把握しデータを分析して各業務の見直しを図り時間外削減に努める。 ⑤感染予防に努め、療養環境整備を実施する。

部署	目 標	最終評価	次年度の課題
7病棟	①患者様の思いに寄り添い、尊厳ある看護を実践する。 ②患者様が見える看護記録を徹底する。 ③働きたいと思う職場環境を実現する。	① ・CVPPP(包括的暴力防止プログラム)を学び、医師との行動制限最小化カンファレンスを100%開催し、身体拘束最小化に努め、身体拘束率を37%から28%へ減少できた。 ・毎週開催多職種合同カンファレンスに加え、日々の個別ケースカンファレンスを開催し、受け持ち看護師をチームで支えながら退院支援に努め、平均在院日数を30日から25日へ減少できた。 ・勉強会やeラーニングを活用し学びを深め、看護の質向上に努めた。 ② ・行動制限最小化カンファレンスの6つの視点での記録、看護計画の個別性のある記録、SSTやレクレーションの実施記録、アセスメントのあるSOAPでの記録を徹底し、患者様が見える記録に努めた。 ③ ・清潔で安全な環境整備と物品管理の継続に努めた。	① ・患者様の思いに寄り添う尊厳ある看護を提供するため、倫理観を向上させる勉強会やカンファレンスを検討し、身体拘束最小化を継続する。 ・身体合併症併診科医師とのカンファレンス開催を検討し、早期退院支援を継続する。 ・精神疾患、身体合併症疾患、看護における学びを深め、急変時の迅速な対応、看護の質向上を図る勉強会を検討する。 ② ・精神保健福祉法の基準を満たしながら、院内看護記録と統一性を図った患者様が見える行動制限観察実施記録について検討する。 ③ ・円滑な医療提供に向け、5S活動チェック表の見直しと物品の適正化を図る。
手術室・サプライ	①患者の思いに寄り添い、安全安楽な手術看護を実践する ②新人(異動者)へ手術看護に必要な知識・技術が習得できるよう支援する。 ③コストを意識した物品管理を行い、不動態在庫を削減する。 ④手術看護記録の質の向上を図る。 ⑤安全な滅菌材料を提供する。	①手術マニュアル・体位固定マニュアルの見直しと改訂を行った。泌尿器科の新しい手術に対応するため、カンファレンス、マニュアル作成、ハイリリスク手術患者様の多職種カンファレンスを実施。新人(異動者)教育マニュアル作成・修正したものを活用して教育。評価・カンファレンスを行った。 ②無駄なく医療材料が提供できるようコスト見直しを行った。 ③手術看護記録の量・質監査表の作成。 ④安全な滅菌材料が提供できるよう、マニュアル・業務の見直し・勉強会・生物学的インジゲータの判定が毎回実施できるようにし教育、周知した。	①手術室マニュアルⅡにて、一部見直ししていない内容があるため、改訂後に共有できるようにする。安全な手術を提供できるよう多職種協働していく。 ②作成したマニュアルをもとに、プリセプター中心に教育をする。また、チームで教育に関われるよう支援する。 ③適正に不動態在庫の削減をおこなう。医療材料の無駄のないよう教育する。 ④作成した監査表の実施。 ⑤見直したマニュアル・業務を継続して教育。

部署	目 標	最終評価	次年度の課題
外来	①24時間救急患者を受け入れる体制の継続。 ②患者の思いに寄り添い、心温まる看護の提供。 ③継続看護や意思決定を考慮した記録を行う。 ④健康で楽しく働く職場環境をつくる。	①不応需件数の増加、救急受け入れ件数の減少という結果に至ったが、受け入れ体制の整備、調整は継続できた。 ②より良い看護を提供するために自己研鑽に(外部研修32名参加)努めた。CNを中心に患者指導を継続的に行うことができた。 ③ACPの勉強会を実施し意思決定支援の知識の向上に努めた。記録の改善を行ったこともあり、患者の言動や看護師のアセスメントを記録できるようになった。 ④有給休暇10日以上を達成、応援体制の強化をさらに図り業務量のバランスを調整した。	①受け入れ態勢の整備・調整を継続するとともに、救急患者数を増やし、不応需件数を減らすために関係各所との連携を図る。 ②自己研鑽での学びをスタッフと共有すること、また、それを看護にどのように活かしていくかを検討する。 ③スタッフ全体の知識の向上を継続して図っていく。意思決定支援、退院支援、継続看護を行うための他部署連携を検討する。 ④外来患者のスリム化や業務改善を行い有給休暇のさらなる確保を行う。

令和3年度 新人教育研修

新人看護師 21名 担当：新人教育委員会

NO.	研 修 名	開催日	参加人数
1	ローテーション研修 多職種研修	4 月	21名
2	基礎看護技術①	5 月29日(土)	21名
3	3ヶ月フォローアップ研修 基礎看護技術②	6 月25日(金)	21名
4	基礎看護技術③	7 月17日(土)	21名
5	医療安全研修	8 月6日(金)	21名
6	基礎看護技術④	9 月11日(土)	21名
7	6ヶ月フォローアップ研修	10月7日(木)	21名
8	緊急時シミュレーション研修 事例検討	12月10日(金)	21名
9	終末期の看護	1 月12日(水)	21名
10	1年目の振り返り	3 月3日(木)	21名
11	ナラティブ発表会(令和2年度新人研修最終)	6 月25日(金)	発表者数 16名

令和3年度 看護部教育研修実績

1. ラダーレベルⅡ相当研修

研 修 名	日 程	参加人数
急変時対応(各部署内シミュレーション等)	4 月	看護師全員
ケースレポートのまとめ方	10月1日(金)	看護師25名
認定看護師によるケースレポート発表会	10月8日(金)	看護師18名

2. ラダーレベルⅢ相当研修

研 修 名	日 程	参加人数
第1回呼吸器ケア	6 月11日(金)	看護師21名
脳神経看護	7 月14日(水)	看護師24名
第1回循環器看護	8 月13日(金)	看護師21名
ケースレポートを支援するために	10月4日(月)	看護師19名
看護倫理	10月11日(月)	看護師27名
接遇	9 月～10月 eラーニング研修	看護師全員
第2回呼吸器ケア	12月16日(木)	看護師22名
第2回循環器看護	1 月14日(金)	看護師20名

3. 専門コース(IVナース養成研修)

研 修 名	日 程	参加人数
①導入の意義と継続教育の概要	eラーニング研修	静脈注射に関わる 看護師受講 278名
①安全対策と事故防止		
②感染管理	eラーニング研修	278名
③静脈注射の実際	新人教育研修に参加	278名
④薬剤の基礎知識と管理	eラーニング研修	278名
⑤静脈注射に使用する医療機器		
⑥輸血用血液製剤	eラーニング研修	278名
⑦体液管理	eラーニング研修	①278名 ②230名
⑧アナフィラキシー	eラーニング研修	①278名 ②230名
⑨薬剤の知識と管理	eラーニング研修	①228名 ②230名
⑩CVポートの抜針	各部署演習実施研修	230名

4. 院内インストラクター研修

研 修 名	日 程	参加人数
認知症看護	6月15日(火)	看護師2名
必要度インストラクター養成研修	8月～9月	看護師8名

5. 救護看護師養成研修

研 修 名	日 程	参加人数
災害看護論 最近の救護活動の現状と課題Ⅰ	8月4日(水)	救護員養成研修受講者 10名
最近の救護活動の現状と課題Ⅱ	10月12日(火)	救護員養成研修受講者 9名

6. 全体(その他の研修)

研 修 名	日 程	参加人数
BLS研修	6月5日(土)	8名 院内推薦者
重症度、医療・看護必要度インストラクターフォローアップ研修	10月28日(木)	院内インストラクター 18名

7. 看護補助者研修

研 修 名	日 程	参加人数
今年度の看護部目標を理解する	4月22日(木)	看護補助者18名 うち病棟クランク4名
認知症患者の対応	8月23日(月) 8月27日(金)	看護補助者21名
日常生活に関わる業務について 「退院後の環境整備」	6月10日(木)	看護補助者14名
感染予防について	10月14日(木)	看護補助者13名
医療安全研修	12月9日(木)	看護補助者15名
個人情報保護について	2月10日(木)	看護補助者14名
小集団活動発表会	3月10日(木)	補助者15名 師長5名

8. 看護管理者研修

研 修 名	日 程	参加人数
机上避難訓練と防災設備について	4月28日(水)	師長 係長 35人
要因分析と事故防止対策	6月9日(水)	師長 係長 26名
抑制しない看護の実践への取り組み	8月25日(水)	師長 係長 22名
固定チームナーシング	12月4日(土)	師長 係長 31名
SWOT分析	12月15日(水)	師長 係長 23名

9. 院内発表

研 修 名	日 程	参加人数
3年目ケースレポート発表	6月2日(水) 6月3日(木) 6月4日(金)	4年目看護師 15名
3年目ケースレポート発表	3月9日(水) 3月10日(木)	3年目看護師 10名

令和3年度 院外研修・発表及び派遣

内 容	参加人数
福島県看護協会 認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修	安藤 沙紀 野地 静香 橋 智寿子 安藤 敦子
赤十字看護管理者研修Ⅲ 認定看護管理者教育課程サードレベル	車田 真美
感染看護認定看護師養成研修(B課程)	北村 慶
福島県看護協会県北支部研修会(Web研修) 「新型コロナウイルス感染症の感染対策」	鈴木 佳子 三浦 愛 鈴木 牧子 武井 明美 菅野いづみ
赤十字医療施設看護管理者・教育者研修会 (web研修)	師長・係長 12名
医療安全管理者養成研修	武井 明美 清和 彩子 泉 弘子
医療安全推進週間事業(Web研修) アナフィラキシーショック発生時の対応	鈴木 佳子 齋藤 明子 吉野公弥子
認知症高齢者の看護実践に必要な知識 (Web研修)	高橋 亜衣 渡辺 梨沙
病院・施設・在宅領域で働く看護師合同職能集会	野地 静香 小松真由子
新人看護職員研修 教育担当者研修	国分 朋子
保健師助産師看護師実習指導者講習会	伊藤久美子
新人看護職員研修 実施指導者研修	佐藤 智子 斎藤 祐香
看護職員認知症対応力向上研修	武井 明美
看護補助者活用推進研修	武井 明美 武田 里美
看護必要度院内指導者研修	佐藤 智子 齋藤 美保 八巻 歩美 橋 智寿子 渡辺 梨沙 三浦 将克 佐藤 香菜 北原奈緒美
東北ストーマリハビリテーション講習会	布施美奈子
訪問看護管理者研修	齋藤 泉
福島県がん看護研修(Web研修+参集)	八巻 歩美
赤十字こころのケア指導者養成研修 (web研修)	柳田 美穂 佐藤 裕子
原子力災害医療派遣チーム研修	清和 彩子
日本赤十字社福島県支部合同災害救護訓練	看護師15名
日本赤十字社 第2ブロック支部合同災害救護訓練	武井 明美 菊地 純子 齋藤 貴子
大規模地震時医療活動訓練(政府総合防災訓練)	泉 弘子 原田 瑞穂 武田 良平
固定チーム研究会東北地方会 演題：がん患者と家族の在宅療養支援 ～他職種と連携した継続的なかわり～	齋藤 泉
県北看護補助者研修会	紺野 一彰 尾形 和子 横山 幸恵 橋 麻紀

令和3年度 看護学校実習受入実績

学校名	領 域
福島県立医科大学看護学部	助産学実習
福島県立医科大学看護学部	母性看護学
福島看護専門学校	母性看護 成人看護学Ⅰ・Ⅱ 老年看護学
宮城県立白石高等学校	母性看護学
国際医療看護福祉大学校	基礎看護学

※コロナ感染症拡大のため中止

学校名	領 域
福島東陵高等学校	母性看護学 小児看護学
東北福祉看護学校	母性看護 成人統合 小児看護学

令和3年度 看護学校講師派遣実績

学校名	領 域	派遣人数
福島県立医科大学	助産学Ⅱ	助産師 遠藤 裕子
福島県立医科大学	助産学Ⅲ	助産師 橘 智寿子
大原看護専門学校	災害看護学	泉 弘子 岩崎 睦子
福島看護専門学校	災害看護 医療安全 看護管理 看護学Ⅰ(循環) 看護学Ⅰ(呼吸)	奈良輪弘美 医療安全推進室 齋藤 明子 認定看護管理者 曾澤 英子 クリティカルケア認定看護師 鈴木 安英 慢性呼吸器疾患認定師 今野 暁子
国際医療看護福祉大学校	災害看護	救急看護認定看護師 渡邊あゆみ
福島県立総合衛生学院	災害看護	成澤 裕美

令和3年度 地域活動 講師派遣実績

学校名	日 程	内 容	派遣人数
福島県立いわき支援学校	7月1日(木)	総合的な探求の時間	清和 彩子 三浦 愛
福島市吾妻中学校	7月5日(月)	職業人に聞く会	國分 朋子
福島県立福島北高等学校	11月4日(木)	産業社会と人間 職業インタビュー(WEB形式)	古俣紗由美

令和3年度 院外講師派遣実績

内 容	日 程	派遣人数
日本赤十字社幹部看護師研修センター 災害看護学Ⅰ・Ⅱ	8月24日(火) 11月25日(木)	成澤 裕美
第15回福島県滅菌業務研究会	9月4日(土)	第2種滅菌技士看護師 佐久間由美子
福島県看護協会 看護管理者教育課程セカンドレベル 「人材管理Ⅱ」	9月15日(水)	認定看護管理者 曾澤 英子
第31回 東北ストーマリハビリテーション講習会	12月12日(日)	皮膚・排泄ケア認定看護師 佐藤 美絵
福島県看護協会 認知症対応力向上研修	1月14日(金)・20日(木)	認知症看護認定看護師 佐川奈美子
第16回福島県滅菌業務研究会	2月20日(日)	第2種滅菌技士看護師 佐久間由美子

認定看護師・認定看護管理者・感染制御実践看護師

認定看護師 14名		
がん化学療法看護	森谷 浩子	野地 静香
皮膚・排泄ケア	佐藤 美絵	北原奈緒美
緩和ケア	小松真由子	新國 智子
救急看護	渡邊あゆみ	
クリティカルケア	鈴木 安英	
摂食・嚥下障害看護	八木沼裕子	
認知症看護	佐川奈美子	
脳卒中リハビリテーション看護	三浦 将克	
手術看護	根本 聡美	
慢性呼吸器疾患看護	今野 暁子	
慢性心不全疾患看護	田島 一樹	

認定看護管理者 2名	
曾澤 英子	鈴木 佳子

感染制御実践看護師 2名	
吉田 和恵	三浦 愛

特定行為研修制度終了看護師

特定行為研修制度終了看護師 2名	
佐藤 美絵	創傷管理関連 ろう孔管理関連
鈴木 安英	呼吸器(気道確保に係るもの)関連 呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連 動脈血液ガス分析関連

認定看護師・認定看護管理者・感染制御実践看護師

認定看護師 14名		認定看護管理者 2名
がん化学療法看護	2名	感染制御実践看護師 2名
皮膚・排泄ケア	2名	
緩和ケア	2名	
救急看護	1名	
クリティカルケア	1名	
摂食・嚥下障害看護	1名	
認知症看護	1名	
脳卒中リハビリテーション看護	1名	
手術看護	1名	
慢性呼吸器疾患看護	1名	
慢性心不全疾患看護	1名	



27. 検査部

【部 長】 田崎 和洋

【技 師 長】 小林 利美(検査部技師長・臨床検査技師)

【課 長】 峯 徹次(臨床検査課長・臨床検査技師・超音波検査士)
 酒井 克也(細菌検査課長・臨床検査技師)
 根本 浩(病理検査課長 兼 細胞診係長・臨床検査技師・細胞検査士・
 認定病理検査技師)
 佐藤美千子(生理検査課長・臨床検査技師・超音波検査士)

【係 長】 佐藤 由峰(病理検査係長・臨床検査技師・認定一般検査技師)
 大竹 利典(臨床検査係長・臨床検査技師・超音波検査士)
 森川 由美(輸血検査係長・臨床検査技師)
 中田 悠希(生理検査係長・臨床検査技師・超音波検査士・血管診療技師)

【臨床検査技師】 八島亜由美、吉田 憲治、相楽 孝行、石川 梓(細胞検査士)、
 丹野麻木子、吉田 絢香、菊池麻衣子、齋藤 智美、幕田 高平、
 三浦 義喜、安部みなみ、阿部 里奈、植野 桃佳、菅野 和典、
 佐々木一美

【看 護 師】 佐藤さゆり、岡野真由美

【検査助手】 猪狩 利恵、石井美和子、鈴木 美沙

<令和3年度実績>

1. 検査件数

(1)一般検査	入院	4,938件	外来	28,694件
(2)血液検査	入院	40,553件	外来	99,536件
(3)生化学検査	入院	208,078件	外来	658,992件
(4)免疫検査	入院	21,189件	外来	85,763件
(5)微生物検査	入院	4,343件	外来	2,856件
(6)病理検査	入院	2,297件	外来	4,653件
(7)生理検査	入院	2,600件	外来	20,259件

2. 参加学会・研修会名一覧

- 1 第146回光が丘心エコー症例検討会
- 2 甲状腺超音波検査の検査者育成に関する講習会・実技研修
- 3 第147回光が丘心エコー症例検討会
- 4 甲状腺超音波検査更新講習会
- 5 第148回光が丘心エコー症例検討会
- 6 第62回日本臨床細胞学会総会(春季大会)
- 7 みなとみらいフォーラム2021第2回上皮細胞類-1 P/C比・A/C比の考え方
- 8 第57回東北臨床細胞学会学術集会
- 9 ワクチン接種講習会
- 10 令和3年度第1回実技演習ワークショップ

- 11 第149回光が丘心エコー症例検討会
- 12 PHA Webカンファランス
- 13 みなとみらいフォーラム2021第2回上皮細胞類-2 Fabry病
- 14 甲状腺超音波検査「更新実技研修会」
- 15 心アミロイドーシス検査・診断セミナー
- 16 みなとみらいフォーラム2021第4回異形細胞類 回腸導管術
- 17 第82回細胞検査士ワークショップ(講義のみ)
- 18 みなとみらいフォーラム2021第5回円柱類・塩類・結晶類・火災によるシアン中毒
- 19 第81回細胞検査士教育セミナー
- 20 血圧脈波検査Webセミナー
- 21 日本臨床検査技師会北日本支部生理機能検査部門研修会
- 22 第150回光が丘心エコー症例検討会
- 23 肝炎コーディネーター養成研修会
- 24 一般検査セミナー EIKEN2021第1回尿沈渣で鑑別できるウイルス感染細胞
- 25 一般検査セミナー Eiken in Saitama 2021明日から役立つ尿沈渣テクニック教えます!!
- 26 医用超音波工学の基礎講座
- 27 東北大学医工学研究科医用超音波工学の基礎セミナー
- 28 第34回福島県輸血懇話会
- 29 第2回超音波セミナー in東北
- 30 第2回超音波Webセミナー in東北
- 31 第151回光が丘心エコー症例検討会
- 32 心アミロイドーシス連携セミナー
- 33 第152回光が丘心エコー症例検討会
- 34 肝疾患チーム医療を考える会in東北
- 35 第60回日本臨床細胞学会秋季大会
- 36 ECHO TOHOKU 2021
- 37 JSS東北第33回地方会研修会
- 38 EIKEN一般検査セミナー in東海北陸
- 39 令和3年度第29回福島県臨床検査精度管理調査事業報告会
- 40 第40回福島県臨床細胞学会総会(座長)
- 41 第153回光が丘心エコー症例検討会
- 42 一般検査セミナー EIKEN2021第2回尿沈渣の所見から見えてくる腎臓の病態
- 43 タスクシフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会
- 44 The・座談会 腸管エコー極めちゃう？
- 45 第154回光が丘心エコー症例検討会
- 46 令和3年度福島県病理・細胞診精度管理フォローアップ研修会
- 47 福島県臨床検査技師会県北支部第1回生理機能検査研修会
- 48 肺高血圧症Webセミナー inいわき
- 49 山形VTEチーム医療セミナー2022
- 50 第8回福島県内甲状腺検査実施機関連絡協議会
- 51 VTEマネジメントを考える
- 52 福島県臨床検査技師会県北支部第2回生理機能検査研修会
- 53 血圧脈波検査Webセミナー
- 54 第155回光が丘心エコー症例検討会
- 55 第375回消化器病研修会
- 56 令和3年度福島県・宮城県臨床検査技師会合同一般検査部門研修会
- 57 学術研修会 症例から学ぶ肝胆膵エコー
- 58 令和3年度福臨技県北支部臨床化学・免疫血清分野研究班研修会
- 59 令和3年度福臨技県北支部病理細胞診研修会

- 60 令和3年度生活習慣病検診等(子宮がん検診)従事者指導講習会
- 61 日本超音波医学会第63回東北地方会学術集会
- 62 アークレイ臨床検査セミナー2022東京
- 63 第141回医用超音波講義講習会
- 64 アークレイADAMSセミナー2022大阪
- 65 日本超音波医学会超音波診断講習会
- 66 第83回細胞検査士ワークショップ

3. 学会・研究会発表

(1) 第40回福島県臨床細胞学会学術大会

開催日 令和3年12月12日(日)

演 題 「スライドカンファランス婦人科症例 解答」

発表者 三浦義喜

<令和4年度活動目標>

1. 質的向上
2. 臨床への正確かつ迅速な検査結果の提供
3. 検査過誤防止に努める
4. 個々のスキルアップ(認定取得・学会発表)
5. 人材育成に努める
6. 検査業務全般の標準化

28. 事務部

総務課

【部 長】 須藤 浩光

【課 長】 野田 誠(事務副部長 兼 総務課長)

【係 長】 富田 夕紀(総務係長 兼 人事係長)、菅野 正幸(文書係長)

【主 事】 安田美喜子、村上 尋美、葛岡 大輔

【事 務 職】 阿部 暁子、廣野 登、横山 碧

【医局・研修医担当】 大原有香梨、三瓶由紀子、川井茉奈美

【委 託】 電話交換室2名(コムネット)
防災センター7名(キョウワプロテック)

【業務内容】総務係・人事係・文書係において以下の業務を担当。

人事・労務、給与、全社的福利厚生、医療安全、感染対策、教育研修、各種委員会および研修会、職員健診、医局、医師臨床研修、防災・防火対策、災害対策・原子力災害対策、図書、出張、儀式・慶弔、文書管理・処理、駐車場管理、売店テナント運営、ボランティア、委託派遣他各種契約関係、不在者投票、医師会関連、病院群二次救急輪番制、当直、車両運行、医療紛争、病院開設許可関連の等々、他課に属さない様々な業務を所管。

＜令和3年度活動実績＞

1. 人材確保事業

令和3年度も、令和2年度に続いて新型コロナウイルス感染症により、全職種において例年通りの学校訪問や会場に参集しての説明会開催が自粛されオンラインや郵送案内等を中心に、感染対策に工夫を凝らしての人材確保活動を実施。

(1. 看護師)

新型コロナウイルス感染症の院内感染防止対策のため、養成学校訪問や説明会・インターンシップを行わず、病院や看護部の看護体制等を紹介する動画を作成し、ホームページや外部就職ガイダンスの場にて募集活動を実施。併せて学校への募集要項郵送の方法を例年通り実施。【令和4年度採用8名】

(2. 医療技術職)

診療放射線技師の募集活動を実施。薬剤、リハビリテーション、放射線、検査、栄養の各部門においては、新型コロナ感染防止対策を施しながら、可能な限り実習及び見学を受入し人材確保活動を実施。【令和4年度採用・診療放射線技師2名】

(3. 臨床研修医)

臨床研修プログラム委員会を中心とした、指導医の丁寧な指導教育と他職種研修医教育体制との連携強化により研修医師に対する充実した研修について、新型コロナ感染防止対策を施しながら病院説明会・見学会をオンラインおよび当院内にて開催、またオンライン院外ガイダンス等にて紹介し募集活動を実施。【令和4年度採用8名】

2. 障害者雇用継続確保事業

対象雇用職員の退職により法定雇用率を下回る状況となっており、公共職業安定所・障害者雇用関連事業所等と連携し人材確保活動継続するとともに院内での配置部門や業務の洗い出し等の検討実施。

3. 院内感染対策関係事業

感染対策委員会事務局として感染管理室とともに、令和2年度から継続している新型コロナウイルス感染症関連業務の年間を通じた増加に対応。更に関連する国の指針変更追加等による福島県および福島市他院外関係機関ならびに院内との連絡調整、対策対応体制整備、お知らせ案内他の情報共有伝達業務の増加にも適宜対応。

4. 行事、イベント等

(1. 院外)

第57回日赤医学会(開催：九州ブロック・当番：福岡)、第20回全国赤十字スポーツ大会(開催：北海道ブロック・当番：釧路)、第22回東北ブロック赤十字病院球技大会(当番：福島)、にかかる事務連絡調整を担当。令和3年度も令和2年度に続きすべての広域参集イベントは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。

本社指導監査、保健所「病院立入検査」および東北厚生局「施設基準等に係る適時調査」をはじめ各関係機関検査・調査等にかかる事務全般を担当。令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を考慮した書面およびオンラインでの実施に対応。

(2. 院内)

年間を通し多目的ホール他で開催される会議、委員会、勉強会、講演会ならびに法定研修を含む各種研修については、令和2年度と同様に新型コロナ感染防止対策を講じながら、参集、院内ホームページ、院内グループウェアを利用したオンラインによる書面開催等各部会にて開催方法を検討調整し実施。

＜令和4年度目標＞

- 1) 働き方改革(医師の働き方含む)に向けた労務管理体制の推進・強化
- 2) 医師の働き方改革に伴う宿日直許可取得に向けた取り組み
- 3) 適正および必要な人員の確保・配置・管理
- 4) 所管業務の明文化・システム化・効率化

【課長】 松本 修(兼 医療情報システム課長)

【係長】 二階堂雄平(兼 医療情報システム係長)

【主 事】 奈良輪大輔(医療情報システム課 兼務)
佐藤 隆昭(医療情報システム課 兼務)
金子 瑛
横山 剛(医療情報システム課 兼務)

＜令和3年度実績＞

- ・各種統計、データ分析
(本社報告、自治体報告、病床機能報告、DPCデータ分析など)
- ・診療科・コメディカル部門に対する幹部ヒアリング事務、記録
- ・各種加算の施設基準取得に向けた分析、検討
- ・DPC・経営改善委員会の実施
- ・病床稼働率向上、効果的な病床運用に係る分析、調整。病床管理委員会の実施
- ・重点支援病院指定に係る本部との調整、各種報告。経営健全化計画の策定
- ・設備投資に係る方針の検討
- ・月次での収支管理
- ・予算策定、資金繰りに関する検討
- ・各種補助金申請に関する事務

＜令和4年度経営企画課目標＞

- ・データ分析による課題抽出と経営改善活動の推進及び医療の質向上の検討
- ・収益増加、費用削減等の収支改善に係る施策検討
- ・適正な人員配置の検討、定数の作成
- ・設備投資に係る方針の検討
- ・月次での収支管理
- ・予算策定、資金繰りに関する検討
- ・ホームページ、広報誌、Facebook等による情報発信
- ・病院機能評価受審に係る事務

医療情報システム課

【課長】 松本 修(兼 経営企画課長)

【係長】 二階堂雄平(兼 経営企画係長)

【主 事】 奈良輪大輔、佐藤 隆昭、横山 剛

＜令和3年度実績＞

- ① 医療情報システムの安定運用の継続
(院内全システムのサポートセンター業務)
 - QA・要望対応
 - 障害時調査(復旧対応、一次切り分け)
 - 帳票作成・修正
 - ハード故障交換(プリンタ・端末・その他機器)

(運用調整)

- 運用調整・全体説明
- システム操作説明
- メーカー対応
- 掲示板、グループウェアメンテナンス

(システム管理)

- 機器管理(サーバ・端末・その他機器)
- セキュリティ管理(USB、ウイルス対応)
- ネットワーク管理(新規接続許可、不正接続防止)
- 本社インベントリ管理・報告
- 機器・プログラム購入手続き
- 新規システム導入検討
- パソコン全般に対する問い合わせ

(データ抽出・調査)

- 定期的な統計(病床機能報告、自治体統計等)
- データ分析・職員の学会発表・論文作成に用いるデータ作成支援
- その他データ調査 等

② 次期システム更新に向けた計画の策定

- 第3次医療情報システム稼働調整・全体周知
- 各種WGのコントロール
- 運用フローの検討・作成
- システム選定・価格交渉(ソフト・ハード)
- メーカー作業調整
- マスタ設定作業支援
- システム操作、運用説明
- 次期システムにかかる開発作業
- 院内規定の制定 等

③ システムに関する技術・専門性を活かした費用削減活動

- 保守費用の削減活動
- システム設定変更対応
- システム帳票カスタマイズ
- 新規システム・ツールなどの開発
- 機器修理(PCが起動しない等)
- 誤って消した重要データ復旧
- 他システムへのデータ移行
- システム端末の複製及び設定 等

④ データを活用したコスト削減、運用適正化の実践

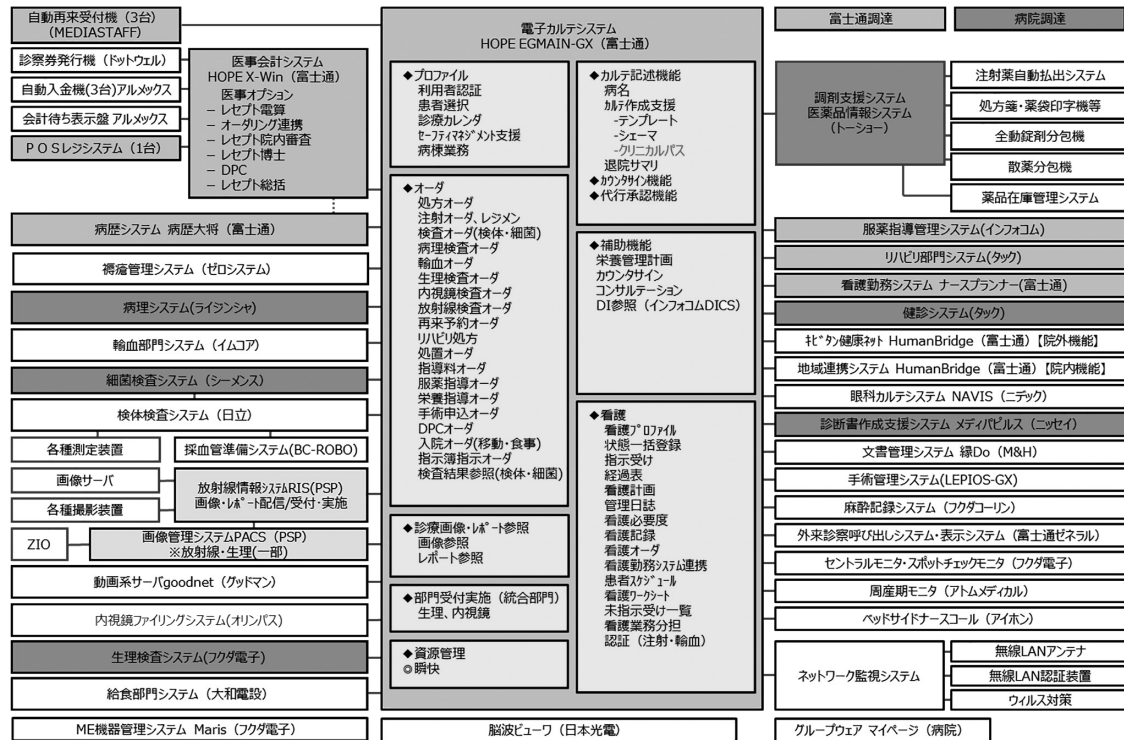
- 医療情報システム以外のデータも活用したデータの分析
- 各種データから見える無駄な費用の削減活動 等

<トピックス>

- ・第3次医療情報システム更新(下記のシステム構成図参照)
- ・全社統合情報システムの導入
- ・診療・院内業務における課題抽出・改善活動・マクロ開発による業務効率化

- ・院内情報の円滑な共有推進のための活動(システム掲示板の機能拡充、グループウェア利用推進)
- ・医療情報システム全般のメンテナンス、障害・QA対応、ウイルス対策
- ・動画によるコンテンツのアーカイブ化活動
- ・委員会、ワーキンググループのグループウェア利活用の推進
- ・新型コロナウイルスによる院内対応のデータ支援作業 等

福島赤十字病院 第3次医療情報システム全体構成図



<令和4年度目標>

① 医療情報システムの安定運用の継続

※ 厚生労働省『医療情報システムの安全管理に関するガイドライン』に則した医療情報システムの適正な管理の遂行

- ② システム更新・新規導入に向けた計画の策定
- ③ システムに関する技術・専門性を活かした費用削減活動
- ④ データを活用したコスト削減、運用適正化の実践
- ⑤ 院内の働き方改革を意識した業務改善活動の推進

会計課

【課長】 吉田 秀雄

【主事】 阿部 宣子、佐藤恵美子、山名慎一郎

【事務員】 羽田恵津子、大内 裕子

<令和3年度活動実績>

- 1) 令和2年度医療施設特別会計決算報告書作成
- 2) 令和4年度医療施設特別会計歳入歳出予算概要書作成

- 3) 令和2年度収益事業決算報告書作成
- 4) 令和2年度消費税収支決算報告書作成
- 5) 令和3年度中の運転資金極度借入手続き及び本社交付書類行使報告
- 6) 令和3年度中の運転資金短期借入金本社承認手続き及び交付書類行使報告
- 7) 令和3年度各運営費補助金及び設備整備事業補助金関係事務処理
 - ・福島県病床確保支援事業補助金
 - ・福島県新型コロナウイルス感染患者受入体制強化事業補助金
 - ・福島県新型コロナウイルス感染症患者等入院医療機関設備整備事業補助金
 - ・新型コロナウイルス感染症患者等入院受入医療機関緊急支援事業補助金
 - ・新型コロナウイルス感染症個別接種促進事業補助金
 - ・重点医療機関設備整備事業補助金
 - ・帰国者・接触者外来等設備整備事業補助金
 - ・救急・周産期・小児医療体制確保事業補助金
 - ・福島市発熱外来運営助成金
 - ・福島市新型コロナウイルス感染症患者に係る受入医療機関特別給付金
 - ・赤十字医療施設新型コロナウイルス感染症医療提供体制整備事業補助金
 - ・福島県新人看護職員研修事業費補助金
 - ・福島県産科医等確保支援事業補助金 他
- 8) 令和3年度事業委託契約に基づく事務処理
 - ・福島県看護職再就業支援研修業務
- 9) 令和3年度財政調整事業資金借入手続き
- 10) 令和4年度固定資産非課税措置適用申請
- 11) 給与明細等電子化のための「携帯便」導入契約により業務効率化
- 12) 令和3年度法律事務所委託分未収金回収額 778,246円

<令和4年度の目標>

「重点支援病院の指定解除」

用度施設課

【課 長】 野地 幸次

【係 長】 池田 久光(用度係長)、濱名 正美(施設係長)

【主 事】 菅野八重子

【技 術 員】 加藤 仁義(電気)

【委託職員(中央監視室技術員)】 5名

<令和3年度実績>

- 1) 病院竣工後2年次点検実施
- 2) 令和2年度地震被害の応急復旧及び調査、損害填補へ申請
- 3) 令和3年度地震被害の調査(継続)
- 4) 病院建設工事における不具合是正工事
- 5) ER及びMRI室系統の空調不具合是正工事(継続中)
- 6) 1Fエントランス寒さ対策工事(継続中)
- 7) 病院から発する騒音対策工事対策
- 8) 電気設備安全維持のため高圧電気設備年次点検実施

- 9) 非常用発電機、無停電装置、直流電源装置の定期点検実施
 10) 電子カルテ用サーバー更新のための電源増設工事
 11) 医薬品の価格交渉により年額約983万円の削減
 12) 診療材料定数削減と価格交渉及び安価材料切替えにより年額約550万円の削減
 13) 医療用器械備品整備状況(主なもの)

日付	品 名	規格・型式	台数	設置場所
03.05.31	高解像硬性鼻咽喉鏡	WA 4 KS400 0°	1	手術室
03.05.31	高解像硬性鼻咽喉鏡	WA 4 KS470 70°	1	手術室
03.06.03	気化器	D-Vapor 3000	1	手術室
03.06.23	血液凝固測定用経過時間タイマー (ACT装置)	CA-300	1	HCU
03.06.29	Tec6プラス気化器デスフルラン	M1221495 5392359	1	手術室
03.06.29	全自動身長体重計	AD-6228A	1	健診センター
03.06.30	マルチカラーレーザー光凝固装置	MC-500	1	眼科
03.06.30	睡眠評価装置パルスリープ	LS-140	1	生理検査室
03.09.08	自動染色装置	DRS-Prisma-P-JD	1	病理検査室
03.09.13	人工呼吸器	SERVO-I Adult	1	ME室
03.09.14	薬用冷蔵ショーケース	HMPR-S150H (OEM)	1	HCU
03.09.17	全自動錠剤分包機	Ci-2680Entrance MoonPhase60	1	薬剤部
03.09.22	経直腸バイプレンプローブ	PVL-715RS	1	泌尿器科
03.09.28	ベッドサイドモニター	DSC-8430	1	ME室
03.09.28	患者バイタル管理モニタスポット チェックモニタ	SC-1800	1	ME室
03.09.30	血液培養自動分析装置	BDバクテックFX40 システム	1	臨床検査部
03.10.07	富士50kwインバーター一般撮影装置	CALNEO FLOW システム一式	1	放射線科
03.10.08	血液浄化装置	ACH-Σ Plus type M	1	ME室
03.10.29	ウルトラベースユニット	4-0-A-2102	1	手術室
03.12.28	ENOVA LEDヘッドライト	QUASAR Cool 90092-003	1	手術室
04.01.26	セルサーバーエリートプラス	CSE-EW-JA	1	手術室
04.02.28	超音波診断装置	SONOVISTA GX30	2	産婦人科
04.03.25	超音波診断装置	Aplio i900CV	1	生理検査室
04.02.17	ドプラ胎児診断装置	CEVO BA2057 FD-490S	1	産婦人科
04.02.24	バイポーラ凝固止血器	GN160	1	手術室
04.03.07	黄疸計	JM-105	1	4 病棟
04.03.15	レサシアンアドバンスドスキルト レーナー	151-28000	2	HCU
04.03.11	ENOVA LEDヘッドライト	QUBIT クールプレミアム パッケージ90087-003	1	手術室
04.03.25	検診台	megujoyEX 1146675 回転タイプ	1	産婦人科
04.03.28	泌尿器科検診台	UR-7300	1	泌尿器科
04.03.30	運動負荷専用血圧計	タンゴM2 99-0088-40	1	心臓リハビリ室

<令和4年度目標>

- 1) 診療材料費の前年度比1%削減
 2) 診療材料、一般消耗物品等の在庫適正管理

- 3) 医薬品費の価格交渉による前年度比1%削減
- 4) 施設設備及び電気設備の無事故運転維持管理推進
- 5) 電力購入単価削減推進、維持点検費用の削減推進
- 6) 省エネルギー推進によるエネルギー使用量前年度比1%削減
- 7) 感染性医療廃棄物排出量前年度比1%削減
- 8) エネルギー施設設備の無事故運転維持管理推進及び建物設備の適宜修理と迅速対応
- 9) 病院から発する騒音問題の地域住民との和解
- 10) 令和2年度地震被害復旧工事
- 11) 令和3年度地震被害調査、損害填補へ申請
- 12) 令和3年度地震被害復旧工事
- 13) 病院建設工事における不具合是正早期解決(設計会社及び施工会社等と定例会開催)

医事課

【課 長】 菊田 基晴(兼 診療支援副室長)

【係 長】 阿部 育子(医事係長兼診療情報管理係長)、
金原 昭世(入院係長)
野地 美佳(外来係長)
斎藤 智浩(患者サービス推進室長 兼 病歴管理係長)

【主 事】 渡辺 源貴、穴澤 詩織、渡邊 千尋、加藤 菜月、芳賀沙耶加

【事 務 職】 志田 沙織、鈴木奈美子、芳賀 瑞樹、佐藤 郁美

【委 託】 入院4名(ニチイ学館) 外来20名(ニチイ学館) 医事20名 (ニチイ学館)

【業務内容】

医事係・入院係・外来係・診療情報管理係・病歴管理係において、下記の業務を担当。

診療に関する契約、診療録その他諸記録の整理保存、医事統計、患者受付及び接遇、入院手続き、入院・外来の料金算定及び支払請求、保険請求(レセプト作成・請求)、DPC対応全般、病歴管理、病歴統計、診療報酬に伴う施設基準の届出、その他、コロナ患者の受入、インフルエンザ予防接種受付、外国人患者の取り扱いなど、医事に関して多岐にわたる業務を所管。

＜令和3年活動実績＞

1. 令和2年度診療報酬改定・コロナ関連臨時診療報酬関連の算定状況を検証した。
2. 適切な保険請求を実現するため、項目毎に算定チェックを行い査定・返戻の削減を図った。
3. 「DPC導入の影響評価にかかる調査」のデータを、正確に遅滞なく提出した。
4. 院内共有サイト・マイページによる「保険診療に関する研修会 (年2回)」を実施した。
5. 新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬上の臨時的な取り扱いの情報収集・対策策定・および運営。
6. 新型コロナウイルス感染症に係る、外来業務変動への対応。
7. 東京オリンピック・パラリンピックや外国人患者受入体制の整備及び訓練を実施した。

【主な活動】

- 4月：新入職員向け研修会で医事課業務(保険診療・診療報酬、DPC制度、施設基準)についての説明を実施。
- 4月：施設基準)一般名処方開始に伴い、院内周知及び患者さまの啓蒙としてチラシを配付。

- 4月：施設基準)BRCA1／2遺伝子検査の施設基準に基づく体制整備のため、福島県立医科大学とBRCA遺伝子検査の契約を締結した。
- 4月：施設基準)向精神薬多剤投与、DPCデータの定期報告を実施した。
- 4月：発熱外来が、近隣病院持ち回りとなり、1日8人枠で再開され、運用実務を行った。
- 5月：がん患者指導管理料イ算定件数が全国赤十字病院で5位となった。口は12位。
- 6月：医師事務作業補助者25：1から20：1へ変更の届け出を提出。受理された。
- 6月：コロナまん延の対応として実施される「施設基準適時調査自主点検」を開始。(10月、厚生局に提出した)
- 7月：東京オリンピック・パラリンピック開催(7／22～)に伴う医療体制の整備と、外国人対応マニュアルの確認とボケトーク操作訓練、英会話訓練を実施。
- 7月：保険診療に関する講習会(第1回)を、診療情報管理室を中心に院内共有サイトにて開催した。タイトル「電子カルテの記録に関すること」受講者数：488名
- 7月：施設基準)向精神薬多剤投与、DPCデータ等、各種項目の定期報告を実施した。
- 8月：君島伊造医師による「乳腺外来」が開始された。(受付時刻14：00～)
- 8月：未収金対策強化を目的として「未収金マニュアル」「督促記録監視」の改正を行い、運用や督促体制の見直しを図った。
- 9月：外来緩和ケア管理料の届け出を提出し、受理された。
- 10月：東北福祉大学より実習生1名を受け入れ(10／18～10／22)、医事課を始めとして、診療支援課、医療情報システム課、経営企画課、地域医療連携室、各課外来が、業務内容の説明及び指導・評価を行った。
- 10月：施設基準)初診注2、注3の届け出を提出し、受理された。
- 11月：精神科病棟監査(診療録の記載・夜間防災訓練の開催等を確認された)
- 11月：インフルエンザ予防接種の受付業務を実施。
- 11月：オンライン資格確認・限度額認定証確認業務に向けて、カードリーダーを院内の2箇所に設置した。
- 11月：タイムスタンプ承認業務を医療情報システム課から診療情報管理室へ移行した。
- 11月：施設基準)緩和ケア診療加算の届け出を提出し、受理された。
- 12月：保険診療に関する講習会(第2回)を医事課入院係中心に院内共有サイトにて開催した。タイトル「厚生局における監査にて診療費返還を防ぐために・新型コロナウイルス感染症に係る加算について」受講者数：470名
- 12月：外国人患者受入体制強化のため、東京海上日動医療通訳サービスに登録し、電話医療通訳20回まで無料で利用可能となった。
- 1月：オンライン資格確認と限度額認定証確認業務開始(1階総合案内・2階保険証確認コーナー)。院内及び患者さまへの周知徹底に努めた。
- 1月：コロナまん延の対応策として、原則、“病状が安定し、薬のみの患者さま”を対象に電話診療を開始。予定検査、予定手術は医師の判断で延期。化学療法などの患者は通常診療、救急・紹介患者さまは通常診療。
- 1月：紹介受付運用改善プロジェクトが発足され、紹介受付を2ヶ所に増設するなどの配置換えを行い、紹介患者対応の改善を図った。
- 1月：施設基準)施設基準に定められる件数の掲示、向精神薬多剤投与、DPCデータ等、各種項目の定期報告を実施した。
- 2月：令和4年度診療報酬改定に向けて、医事課内の業務分担計画を策定し、短冊の詳細な振り分け、院内連携や運用方法の作成、施設基準届出票の作成まで振り分けられた担当者が責任を持って行う事を決定。
- 2月：各種診療報酬改定セミナーの内容・日時・実施場所の把握と院内関係者への周知・開催準備等を行った。
- 2月：医事課・診療情報管理室におけるBCP(事業継続計画)の作成。そのBCPを基に、コロナ感染によるダメージを最小限にするための実地訓練を開始。保育所に臨時医事課を設置し、2週間にわたり実地訓練を行った。

3月：令和4年度診療報酬改定のための準備（院内の連携・運用方法の確認・施設基準届出票作成等）・富士通診療報酬改定作業に伴う医事課内運用方法の確認。

<令和4(2022)年度目標>

1. 本社目標：「費用を掛けずに収益改善」を根拠とした、重要項目の分析と改善。
2. 医事課職員のスキルアップ。
（資格取得・職能技術向上・プレゼンテーションスキル・ファシリテータースキル等）
3. 外来患者数の適正化に向けた、かかりつけ医への逆紹介推進。
4. 業務フローおよびマニュアルの作成と整備

健診課

【健診センター長】 寺島久美子

【健診課長】 阿部 美幸

【保健師】 渡辺 由佳、赤間 由美、渡辺 純枝、齋藤かおり

【事務員】 渡辺真奈美、美野 陽子、松本 栄子、渡邊 幸子

<令和3年度実績>

1. 健診実績

	令和2年度	令和3年度	前年度比
人間ドック	325名	377名	52名
政府管掌(一般・付加)	934名	954名	20名
福島市民検診	509名	587名	78名
一般健診	551名	536名	△15名
健康診断	1,148名	1,111名	△37名
特定健診	338名	328名	△10名
その他	197名	662名	△9名
健診件数合計	4,002名	4,555名	79名
健診収益	76,386,254円	83,939,354円	7,553,100円

2. 保健指導実績

	令和2年度	令和3年度	前年度比
保健指導 人数	441名	505名	64名
収益	3,673,381円	4,626,492円	953,111円

3. 放射線内部被ばく検査・甲状腺検査実績

	令和2年度	令和3年度	前年度比
放射線内部被ばく検査 人数	11名	0名	2021年度から 受託していない
収益	51,000円	0円	
甲状腺検査 人数	62名	81名	19名
収益	537,416円	702,108円	164,692円

令和3年度も前年度に引き続き新型コロナウイルス感染防止のため、4月から肺機能検査は中止した。また感染状況に応じて随時健診受診の可否の条件を変更し、保健師の問診を徹底す

ることにより、感染防止に努めた。感染防止及び内視鏡検査室からの要望により健診者の胃内視鏡検査予約枠を減らしたため、健診者数を増やすことができなかった。

職員の健康管理を充実させるため、令和3年度の前期健診から要精検・要治療者の把握を行い、健診後の追跡調査を開始した。

<令和4年度目標>

1. 健診及び保健指導の収益アップを図る
 - (1)新規検査の導入
簡易睡眠時無呼吸検査を開始する。
 - (2)新規契約の獲得
福島県職員及び公立学校共済組合の人間ドック健診契約獲得
 - (3)乳がん検診数を増やす。
令和3年度からオプションの乳がん検診及び市民検診の乳がん検診ともにマンモグラフィの視触診が廃止となったため、医師の診察が不要となった。また女性放射線技師が増えマンモグラフィ撮影数を増加することが可能となっている。
 - (4)保健指導件数を増やす。
保健師4名による保健指導が可能となったため、該当者に対する勧奨を強化し保健指導件数を増やしていく。
2. 業務の見直しと効率化
 - (1)市民検診予約受付方法の変更
 - (2)業務マニュアルの作成
3. スタッフの能力向上と部署の活性化
 - (1)定期的に勉強会やカンファレンスを開催する。
 - (2)保健師の教育プログラムを作成する。
4. 職員の健康管理
 - (1)職員健診後に要精査・要治療者への受診勧奨後の状況等を把握し、職員の健康管理の充実を図る。
 - (2)職員の喫煙率を把握し、禁煙への働きかけを行う。

患者サービス推進室

【室 長】 齋藤 智浩(兼 医事課病歴管理係長)

<令和3年度活動実績>

1. 患者相談室一次対応者会議開催(12回)
2. 患者対応相談員カンファレンス開催(28回)
3. 患者相談対応件数(57件)
4. 診療記録等開示件数(22件)
5. 顧客サービス広報委員会開催(12回)
6. 医療従事者負担軽減対策委員会開催(2回)

<令和4年度目標>

1. 親しまれる病院となるよう、患者さんと病院の橋渡しとして、患者さんに接したい。
2. 患者さんの相談に耳を傾け、病院(職員)に抱いていた誤解や負のイメージを解消できるよう努めたい。

3. クレームの対象とされた職員への精神的フォロー等に心掛けたい。
4. クレーマーのレッテルを張られた患者さんに“(自分は病院からクレーマーとみられていることを)自覚”させ、言動を改善してもらうよう促していきたい。
5. 診療記録等の開示は、申請日から2週間以内を目指す。



29. 医療安全推進室

【医療安全推進室長】 鈴木 恭一(副院長)

【医療安全管理者】 齋藤 明子(看護師長)

【医療安全推進室員】 車田 真美(看護副部長)、川村 早苗(薬剤部病棟業務課長)
 峯 徹次(生理検査課長)、橋本 健一(臨床工学技術課長)
 野田 誠(事務副部長 兼 総務課長)

<令和3年度活動実績>

1. 医療安全研修

- 1)BLS研修(コメディカル・事務・看護補助者対象)8回開催
 令和3年：7月8日(42名)、8月12日(30名)、9月9日(26名)、10月14日(28名)
 10月14日補助者対象(7名)、11月11日(28名)、11月11日補助者対象(10名)
 12月9日(17名)

参加人数：188名

- 2)「チームワークを支えるコミュニケーション」動画視聴+テスト

受講人数：592名

- 3)「医薬品使用のための安全対策」動画視聴+テスト

受講人数：547名

- 4)「診療用放射線の安全利用」動画視聴+テスト

受講人数：315人

- 5)新採用職員オリエンテーション：医療安全

2. QCサークル活動

実施月日	項 目
6月8日	QCサークル活動キックオフ
7月16日	活動計画書提出
10月30日	中間報告書提出
1月7日	原稿データ提出
1月18日	QCサークル活動発表会
1月19日	QCサークル活動発表会
	最優秀賞：薬剤部 優 秀 賞：外来、臨床工学技術課、4病棟、地域医療連携室

3. 医療安全対策および医療安全推進室の活動

実施月	項 目	対策等の活動内容
通年	医療安全推進室メンバーによる安全ラウンド	医療安全ラウンド、医薬品・医療機器安全ラウンド及びヒヤリハット・アクシデント発生時のラウンドを実施する。
通年	医療安全研修について	新型コロナウイルス感染防止のために動画による研修を企画
通年	医療安全推進室カンファレンス	毎週木曜日に前週1週間に報告のあった事例について分析して対策を検討
通年	医療安全推進委員会 ワーキンググループ活動開始	①患者誤認防止対策チーム ②転倒転落防止対策チーム ③薬剤管理安全対策チーム
6月	パン提供による誤嚥防止	当院の給食の現状はご飯・軟飯・全粥・7分粥・5分粥で常菜の場合2回／週パンが提供される。副菜に合わせている状況が問題であり、ご飯・軟飯の主食患者のみパン提供することに変更。
7月	ナースコール優先度変更	離床CATCHコールの後、直ぐに患者急変でスタッフコールを押したがスタッフコールが鳴らなかった原因がどちらも優先度が(1)の設定だったので優先度変更を早急に行った。
9月	手術／内視鏡／IVRで使用する医療材料発注方法	主治医が電話で発注して依頼とは別の物品が届いて手術が延期になった事例から、FAXによる発注方法に切り替えた。
	当院利用者に対する注意喚起ポスター掲示	①許しません！暴言暴力迷惑行為防止 ②院内における写真・動画撮影・録画等のご遠慮願います ③教えてくださいフルネーム。生年月日も一緒にね

<令和4年度の目標>

1. 医療安全ラウンド

- 1) 医薬品・医療機器安全ラウンド・コメディカル部門安全ラウンド・医療安全環境ラウンド・転倒ラウンド等、院内各部署のラウンドを実施する。
- 2) ラウンド結果は各部署にフィードバックし必要時改善計画書の提出を求める。
- 3) ヒヤリハット・アクシデント事例発生時には随時ラウンドを実施する。

2. 医療安全研修会開催

- 1) 全職員対象の研修は院内グループウェアを利用した動画発信で行い受講率アップを図る
- 2) BLS研修を全職員対象に行う。(事前視聴用動画を作成して視聴したうえで演習に参加)
- 3) 東北ブロック赤十字病院医療安全推進担当者研修会に職員6名参加

3. 医療安全推進室カンファレンス開催

毎週木曜日に、前週に発生したヒヤリハット・アクシデント事例について分析と対策立案

4. 医療安全地域連携の相互評価を実施して当院の安全対策向上に努める

5. QCサークル活動の推進



30. 感染管理室

【室 長】 菅野 隆三(呼吸器外科部長)

【室 員】 吉田 和恵(感染制御実践看護師、看護係長)

1. 研修会開催

1) 院内感染研修

実施月日	対象者		テーマ	参加人数
4月5日	新人入職者(医師看護師、薬剤師、事務等)		感染管理の基本 ～標準予防策～	17名
8月10日 9月10日	全職員	第1回	「当院における針刺し事故の現状」	611名
10月18日 11月11日	全職員	第2回	「新型コロナウイルス感染症と感染予防について」	591名
	医療職種職員	第3回	抗菌薬の適正使用について (基本編・応用編)	200名

2) 看護助手への感染研修 10月14日13名 感染について

3) 中途採用者への感染研修 資料配布・30分間

2. 感染対策(感染管理室およびICTの活動)

実施月	項目	対策などの活動内容
通年	感染対策マニュアルの改訂	内容見直し
通年	耐性菌サーベイランス	JANIS(全入院患者部門、検査部門)
通年	院内感染対策委員会議事録の掲示	12回電子カルテに提示
通年	ICTラウンド	51回 目的別ラウンドを実施 (抗菌薬・耐性菌・環境ラウンドなど)
通年	感染研修の実施	感染研修一覧参照
通年	職業感染防止 (ワクチン接種)	HBVワクチン、麻疹・風疹・水痘・ムンプス、インフルエンザ
通年	新型コロナワクチン	職員新型コロナワクチン接種
通年	合同カンファレンス	4回開催(わたり病院、第一病院)
通年	相互評価	2回開催(藤田病院)
通年	結核接触者調査	結核届出数4件 職員の接触者調査対象者、患者の対象者
通年	保健所へ感染届提出	発生届58件(結核届を除く)
通年	院内感染対策事例対応	0件
通年	福島県新型コロナウイルス感染症対策会議	Web 12回
通年	コロナ陽性患者受入れ対応	265名(令和3年度)
令和3年度4月	新型コロナウイルス感染症対応	新型コロナウイルス感染症について作成 新型コロナウイルス感染症BCP作成
令和3年度7月	東京オリンピック開催 あづま球場 野球・ソフト 開催	関係者の検査対応準備

<令和4年度目標>

1. 新型コロナウイルス感染症における院内感染防止
 - 1) 標準予防策の徹底
2. 効果的に感染研修を開催する
参加者の知識や認知度に沿った内容の研修を企画し実施する。
3. 感染対策加算に係る合同カンファレンス、相互ラウンドの実施
4. ICT活動を通じて感染対策の充実を図る
 - 1) ICT会議、目的別ラウンドを週1回開催する。
 - (1) 耐性菌サーベイランスのフィードバック方法を見直し 電子カルテの活用
 - (2) 接触予防策ラウンド等の指導項目が改善される
 - (3) 手術部位感染 (SSI) サーベイランスを継続し、厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業 (JANIS) 開始し、関連部門へのフィードバックができる
5. 抗菌薬適正使用支援チーム活動の活発化
 - (1) 届出抗菌薬投与患者ラウンドの定期的な実施 (1回/週)
 - (2) 投与患者に対し効果的な各種培養検査を推奨
 - (3) 抗菌薬適正使用関連感染研修の開催 (2回/年)



31. 診療支援室

【診療支援副室長】 菊田 基晴 (兼 医事課長)

【診療支援係長】 高田日出子

【事務員】 樋口 由紀、山岸 優子、菅野 香子、鈴木 幸子、木村 仁美、齋藤 有沙、
根本 美穂、松川いつか、井上 希美、鈴木かおり、八巻 千恵、須永万里子、
黒江安希子、岡崎さゆり

<令和3年度活動実績>

- 1) 「入院総括」作成支援及び作成率向上に貢献。
- 2) 病棟入院患者「実施済注射伝票」「実施済配置薬」入力支援。
- 3) 「紹介状」入力支援。
- 4) 外来診察代行入力支援
(循環器内科、眼科、リウマチ膠原病内科、消化器内科、呼吸器外科)
- 5) 問診票入力支援 (内科、消化器内科、糖尿病代謝内科)
- 6) 指導料・管理料代行入力支援
- 7) 文書作成支援
- 8) 返書作成支援
- 9) 予約入院パス代行入力支援
- 10) NCD等調査支援
- 11) 福島県循環器疾患発症登録 (心筋梗塞、急性死、脳卒中) 支援
- 12) JND症例登録支援
- 13) JOANR登録支援
- 14) がん登録

<令和4年度目標>

- 1) 上記1)～14)を継続し医師の負担軽減に努める。
- 2) 医師事務作業補助体制加算20対1の維持に努める (令和3年度7月より算定)



32. 地域医療連携室

【室 長】 田畑 友子

地域医療連携係

【係 長】 伊藤 和子(地域医療連携係長)

【看護 師】 野田 江美

【社会福祉士】 松田千絵美、丸山 絢子

【事務 員】 高田 淳子

<令和3年度実績>

令和3年度の地域医療支援病院としての紹介率算定対象である初診の紹介件数は6,639件(前年度比+650件)、逆紹介についても、7,306件(+655件)と新型コロナウイルス感染症流行の影響を大きく受けた前年度よりも増加したものの、流行前の水準にまでは達しなかった。紹介率は92.5%、逆紹介率は101.8%と高い率を維持している。紹介率・逆紹介率はともに地域医療支援病院の基準値を上回り、安定した数値で経過している。紹介・逆紹介数上位の医療機関は下記の通りである。

紹 介			逆紹介		
1	福島県立医科大学附属病院	511件	1	福島県立医科大学附属病院	819件
2	わたり病院	266件	2	わたり病院	368件
3	北福島医療センター	195件	3	北福島医療センター	278件
4	おがたクリニック	191件	4	大原綜合病院	186件
5	きっかわ皮膚科	175件	5	あづま脳神経外科病院	173件
6	やざわみほこレディースクリニック	140件	6	西口ハートクリニック	159件
7	大原綜合病院	139件	7	大原医療センター	157件
7	公立藤田綜合病院	137件	8	公立藤田綜合病院	149件
9	うめつLS内科クリニック	130件	9	やざわみほこレディースクリニック	135件
10	みみ・はな・のど まついクリニック	129件	10	みみ・はな・のど まついクリニック	122件
11	福島第一病院	126件	10	南東北福島病院	122件
11	済生会福島病院	126件	12	保原中央クリニック	118件

共同利用については、CTは9医療機関より計159件(前年度比+47件)、MRIは17医療機関より計156件(+26件)、脳波は5医療機関より49件(+11件)、関節エコーは1医療機関より18件(-3件)、骨塩定量は3医療機関より11件(-1件)、神経伝導速度測定は1医療機関より8件(±0件)であった。レントゲン単純撮影と乳房撮影の利用はなかった。CT・MRI共同利用の上位の医療機関は下記の通りである。

CT			MRI		
1	さくま内科クリニック	77件	1	ライフ・ナビクリニック	31件
2	村上耳鼻科	37件	2	後藤整形外科	26件
3	スリープ呼吸器内科クリニック	30件	3	わたり病院	21件
4	おおたけ内科循環器科クリニック	8件	4	西口クリニック婦人科	18件
5	さとう日出夫整形外科	2件	5	北福島医療センター	15件

地域医療従事者研修会は、新型コロナウイルス感染症流行の影響により集合形式での開催は行うことができず、前年同様オンラインにて計5回、院外医療従事者118名の参加であった。

また、地域の医療機関へのアンケート調査を行い、当院への要望や意見を収集し、改善策を検討、実行してQCサークル活動として院内発表を行った。

<令和4年度目標>

1. 地域医療支援病院としての役割を果たす。
 - ①安定した紹介率・逆紹介率を維持する。
 - ②地域医療従事者研修会を開催し、地域の医療のレベルアップに寄与する。
 - ③地域医療支援委員会を開催し、地域の中での当院の課題を明らかにして対応に生かす。
2. 紹介患者のスムーズな受け入れに心がける。
 - ①近隣医療機関への協力を依頼し、可能な限り予約での来院を促す。
 - ②即日診療依頼の不应需数を減少させる。
3. 感染予防には十分注意し、予約受付を行う。
 - ①紹介元医療機関へ問診票記入の協力を依頼する。
 - ②電話対応時にも感染症の可能性について注意して聞き取り、外来師長との連携を図る。

退院支援係・医療福祉係

【係 長】 高根 晴美(退院支援係長・看護係長 退院支援担当)
菅野 直樹(医療福祉係長 精神保健福祉士 認知症疾患医療センター担当)

【看護師】 佐藤美智子(退院支援担当)
眞山 美里(退院支援担当)

【社会福祉士】 助川智恵子(退院支援担当)
岡崎 美紀(退院支援担当)
渡邊 真衣(医療相談・患者サポート窓口担当)

<令和3年度実績>

患者の抱えている問題に対して相談員が対応した件数は下記の通りであった。新型コロナウイルス感染症の影響による入院外来患者数の減少に伴い、相談支援件数は前年度同様減少傾向であった。退院支援においては、高齢・独居に加え認知症や悪性疾患等多問題のために退院を困難にしている入院患者増加の傾向は変わらず、さらに感染対策による面会制限により家族が患者の回復経過が実感できないことや退院指導に時間がかけられないことも加わり、退院困難となることがあった。問題解決のために、院内多職種との協働、また地域の医療機関・福祉・介護スタッフとの連携を深め、合同カンファレンスの開催等は可能な限り行ってきた。

相談室スタッフにおいては看護職と福祉職をチーム制とし協力し合うことで、得意分野を生かし、不得意分野を補い合える体制としている。また、勉強会を定期的に行うことにより、情報共有や学び合う機会を持ち、支援の質向上に努めてきた。

対応ケース実人数・・・2,479名(延べ相談件数6,994件)

*主な相談援助調整内容・・・

在宅療養・介護に関すること 658件
制度活用に関すること 581件
受診・受療に関すること 475件
日常生活に関すること 253件
経済的問題に関すること 134件
その他 319件

* 退院に関するもの・・・4,574件

他の病院転院 606名

(連携バス利用：脳卒中157件 大腿骨頸部骨折75件)

施設入所 255名

自宅退院 550名

* 在宅スタッフとの合同カンファレンス・・・181回

<令和4年度目標>

1. ていねいな面接と院内他職種との協働、地域の関係医療・福祉・介護スタッフとの連携に心がける。(常に患者の「生活」を柱に支援する。)
2. オンラインの活用によりカンファレンスの開催数を増やすことにより、患者支援の質向上を目指す。

入退院支援センター

【看護師】 伊藤美津子(看護部所属看護師長)

岩谷 伽奈(看護部所属看護師)

鶴田 彩夏(看護部所属看護師)

【事務】 ニチイスタッフ

<令和3年度実績>

入院が必要になった患者が安心して治療を受けながら入院生活を送ることができるよう支援することを目的としている。看護師が中心となり看護面談を行って患者情報を取得し、必要時には薬剤師やMSW等他職種との連携を図ることで、入院が予定された時から退院後の療養生活を見据えて必要な支援を早期に開始することができる。それにより、患者が一日も早く健康を回復し、住み慣れた生活の場に戻ることができることを目指している。また、事務担当者は、入院日までに必要な手続きや書類等についての説明を行い、準備をスムーズに行うことができるように支援している。入院当日は当センターに来室し、書類の確認の後に病棟からの迎えを待つが、入院前に関わりを持ったスタッフが迎えることで、患者の安心感につながるのではないかと考える。

看護面談対象患者は、予約入院患者とし、あらかじめ予定して行った件数が1,298件、外来からの依頼当日に行った件数が1,126件であった。

<令和4年度目標>

1. 患者が、入院後の治療・療養生活をイメージでき、安心して入院当日を迎えることができるようにする。
2. 入院前から退院後の生活を見据えた必要な支援につなげることができるようにする。
3. 外来、病棟との情報共有を行うことで、スムーズな入院支援を行うことができるようにする。



33. 福島赤十字訪問看護ステーション

【スタッフ】 5名

【所長】 齋藤 泉

【看護師】 高橋美千代、中村 広子、安田みどり、黒沢真由美

<令和3年度活動実績>

利用者数(のべ人数)	介護保険1,093人・医療保険200人	合計1,293人
新規利用者数	介護保険42人・医療保険35人	合計77人
訪問件数(のべ件数)	介護保険4,703件・医療保険995件	合計5,698件
介護保険単価(介護保険の収益／介護保険件数)	8,080円	
医療保険単価(医療保険の収益／医療保険件数)	10,440円	
在宅見取り数	36件	

- ・利用者数・新規利用者数ともに前年を上回っていた。新規利用者のうち、母体病院又は主治医である利用者は52%であった。病院地域連携室との連携を密にし、新規利用者の受け入れを継続する。
また、退院カンファレンスに積極的に参加し、入院中の患者が安心して在宅療養に移行できるよう支援していく。
- ・新規利用者数は前年度より僅少ながら増加した。地域多職種とのカンファレンスに参加する等情報共有に努め、地域の多職種と密接に連携することで、ステーションの信頼維持につなげることができた。
- ・サービス内容については多様性であり、個別性のある支援が求められた。スタッフは、研修会等に積極的に参加しスタッフ1人1人の看護力やサービスの質向上に努めた。

<令和4年度目標>

- 1) 利用者の療養生活に合わせた療養支援の充実を図る
- 2) 実施した看護を可視化し評価、実践する
昨年に引き続き在宅療養をする利用者の意思を尊重した看護が提供でき、療養支援の充実を図るために、「研修会等で看護力の向上を図る」「情報共有ができるシステムづくりの構築」を実践する。
- 3) 地域連携強化
地域ケア会議に参加し、地域多職種との情報共有を行い連携する。今まで構築された信頼関係を継続し、新規利用者の獲得につなげる。
- 4) 感染症対策の徹底
病院との連携を図り感染対策を徹底し、訪問を行う。自己の体調管理をしっかり行い、利用者に必要なサービスの提供を行えるようにする。
- 5) 業務継続に向けた取り組みの強化
感染症や災害が発生した場合でも必要な介護サービスが継続的に提供できる体制を構築する。事業所でのマニュアル作成等を行い運用する。(令和5年度末まで)

V

会議・委員会活動

1. 会議	121
2. 病院運営に関する委員会	125
3. 医療安全管理に関する委員会	131
4. 診療に関する委員会	137
5. 教育・研究に関する委員会	143
6. 労務及び安全管理に関する委員会	144



1. 会議

1. 幹部会議	
目 的	本院における経営方針及び業務の運営・管理に関する重要事項を審議する。
開催日	議 題
1：原則、毎週月曜日 (祝日の場合は火曜日) 2：時間 8時15分から	1：病院および幹部週間行事予定等の確認 2：病院における経営方針及び業務の運営・管理に関する重要事項の審議 3：病院全体および各部門における運営等に関する報告、検討、協議事項の掌握 4：各部門(医療安全、感染他)情報共有伝達
令和3年4月	5日(月) 12日(月) 19日(月) 26日(月)
5月	6日(木) 10日(月) 17日(月) 24日(月) 31日(月)
6月	7日(月) 14日(月) 21日(月) 28日(月)
7月	5日(月) 12日(月) 19日(月) 26日(月)
8月	2日(月) 10日(火) 16日(月) 23日(月) 30日(月)
9月	6日(月) 13日(月) 21日(火) 27日(月)
10月	4日(月) 11日(月) 18日(月) 25日(月)
11月	1日(月) 8日(月) 15日(月) 22日(月) 29日(月)
12月	6日(月) 13日(月) 20日(月) 27日(月)
令和4年1月	4日(火) 11日(火) 17日(月) 24日(月) 31日(月)
2月	7日(月) 14日(月) 21日(月) 28日(月)
3月	7日(月) 14日(月) 22日(火) 28日(月)

2. 経営会議	
目 的	本院における経営及び業務の運営・管理に関する重要事項を検討する。
第1回	令和3年4月30日(金)
1. 令和3年度構成メンバーおよび事務分掌 2. 令和2年度3月収支状況 3. 院長・副院長・院長補佐より報告	
第2回	令和3年5月31日(月)
1. 令和3年度4月収支状況 2. 新型コロナ高齢者ワクチン接種について 3. 2021年1月～4月疾患別新入院患者数について 4. 疾患別病床利用状況のシステム掲示板への掲載について 5. 診療報酬改定について 6. 院長、副院長、院長補佐より報告	
第3回	令和3年6月29日(火)
1. 令和3年度5月収支状況 2. 6A病棟の運用について 3. 副院長、院長補佐より報告	
第4回	令和3年7月30日(金)
1. 令和3年度6月収支状況 2. 副院長、院長補佐より報告	
第5回	令和3年8月31日(火)
1. 令和3年度7月収支状況 2. 組織分析について 3. 副院長、院長補佐より報告	
第6回	令和3年9月30日(木)
1. 令和3年度8月収支状況 2. 日赤全体の個別施設の収支状況について 3. 外来の併科受診状況について 4. 給与明細等のWeb配布について 5. 副院長、院長補佐より報告	

第7回	令和3年10月29日(金)
1. 令和3年度9月収支状況 2. 2021年度上半期新入院患者の入院経路 3. 本社病院支援部からの新入院患者獲得に向けたアドバイス 4. 副院長、院長補佐より報告	
第8回	令和3年11月30日(火)
1. 令和3年度10月収支状況 2. 副院長、院長補佐より報告	
第9回	令和3年12月27日(月)
1. 令和3年度11月収支状況 2. 働き方改革について 3. 副院長、院長補佐より報告	
第10回	令和4年1月31日(月)
1. 令和3年度12月収支状況 2. 2022年度診療報酬改定について 3. 副院長、院長補佐より報告	
第11回	令和4年2月28日(月)
1. 令和3年度1月収支状況 2. 紹介患者のワンストップ受入態勢構築への多職種での取り組みについて 3. 副院長、院長補佐より報告	
第12回	令和4年3月30日(水)
1. 令和3年度2月収支状況 2. 令和4年度予算について 3. 副院長、院長補佐より報告	

3. 管理会議	
目 的	本院の管理及び運営に関する事項を審議する。
第1回	令和3年4月5日(月)
1. 人事異動に伴う新任委員紹介 2. 令和2年度2月収支状況、主要計数、稼働データ 3. 令和2年度収支見込及び令和3年度予算について 4. 経営改善プロジェクト 5. 病院管理会議運営について 6. 組織改編について	
第2回	令和3年5月7日(金)
1. 令和2年度3月収支状況、主要計数、稼働データ 2. 経営改善プロジェクト 3. 新型コロナワクチン高齢者向け接種について 4. 委員会より報告	
第3回	令和3年6月2日(水)
1. 4月収支状況、各種目標数値、稼働データ 2. 経営改善プロジェクト 3. 新型コロナワクチン高齢者向け接種について 3. 委員会より報告	
第4回	令和3年7月1日(木)
1. 東京オリパラ福島市開催期間中の輪番体制について 2. 5月収支状況、各種目標数値、稼働データ 3. 経営改善プロジェクトおよび面会対応について 4. 委員会より報告	
第5回	令和3年8月2日(月)
1. 6月収支状況、各種目標数値、稼働データ 2. 経営改善プロジェクト 3. 委員会より報告	
第6回	令和3年9月1日(水)
1. 7月収支状況、各種目標数値、稼働データ 2. 経営改善プロジェクト 3. 外来待ち時間報告について 4. 委員会より報告	
第7回	令和3年10月1日(金)
1. 8月収支状況、各種目標数値、稼働データ 2. 経営改善プロジェクト 3. 日本赤十字社全体の個別施設の収支状況について 4. 外来の併科受診状況について 5. 委員会より報告	
第8回	令和3年11月1日(月)
1. 9月収支状況、各種目標数値、稼働データ 2. 経営改善プロジェクト 3. 委員会より報告	

第9回	令和3年12月1日(水)
1. 10月収支状況、各種目標数値、稼働データ 2. 経営改善プロジェクト 3. 委員会より報告	
第10回	令和4年1月5日(水)
1. 11月収支状況、各種目標数値、稼働データ 2. 経営改善プロジェクト 3. 医師の働き方改革について 4. 委員会より報告	
第11回	令和4年2月1日(火)
1. 12月収支状況、各種目標数値、稼働データ 2. 高齢者当番について 3. 特殊な患者に関するカルテ表記について 4. 福島市小児科救急当番医について 5. 委員会・各部門より報告	
第12回	令和4年3月1日(火)
1. 1月収支状況、各種目標数値、稼働データ 2. 委員会より報告 3. 令和4年度幹部人事について	

4. 業務連絡会議	
目 的	本院の業務の適正及び円滑な運営を図る。
第1回	令和3年4月13日(火)
1. 院長挨拶 2. 人事異動に伴う新しい委員の紹介について 3. 各部署からの報告事項(業務連絡会議メンバーの変更について、RIS / PACS更新について、職員の健康管理の徹底について、収支状況について、救急車収容状況について、電子カルテ更新について)	
第2回	令和3年5月11日(火)
1. 院長挨拶 2. 各部署からの報告(収支状況報告、救急車収容状況について、健診実績、紹介率逆紹介率)	
第3回	令和3年6月8日(火)
1. 院長挨拶 2. 各部署からの報告(労務管理について、原子力災害医療基礎研修受講者推薦について、支部災害救護訓練受講者推薦について、福島競馬場第5、7駐車場の貸付除外日対応について、収支状況について、未収金回収のお知らせ、救急車収容状況について、施設設備点検について、QCサークルの案内、紹介率逆紹介率、システムベンダ向け感染防止対策の徹底について)	
第4回	令和3年7月13日(火)
1. 院長挨拶 2. 各部署からの報告(Rプランについて、オリンピック開催中の救急受け入れ体制について、収支状況について、救急車収容状況について、経営改善プロジェクト『看護職員夜間配置加算』について、施設設備点検について、年報の作成について、健診実績)	
第5回	令和3年8月10日(火)
1. 院長挨拶 2. 各部署からの報告(Rプラン説明動画の視聴について、収支状況について、救急車収容状況について、経営改善プロジェクト『管理料・指導料等件数』について、施設設備点検について、電子カルテ入替に伴うシステム停止期間について、実習生の受入れについて)	
第6回	令和3年9月14日(火)
1. 院長挨拶 2. 各部署からの報告(職員の綱紀粛正について、収支状況について、電子カルテ更新に向けて、一般撮影装置③更新について、救急車収容状況について、総合入院体制加算、逆紹介の推移、施設設備点検について、QCサークル進捗状況報告)	

第7回	令和3年10月12日(火)
1. 院長挨拶 2. 各部署からの報告(院内会議のペーパーレス化について、労務管理に関する連絡について、収支状況について、給与明細書のWeb配布について、救急車収容状況について、施設設備点検について)	
第8回	令和3年11月9日(火)
1. 院長挨拶 2. 各部署からの報告(「NHK海外たすけあい」の協力について、収支状況について、救急車収容状況について、施設設備点検について、QCサークル活動発表会について、BLS研修について、紹介率逆紹介率、学生実習について、ランサムウェアによる電子カルテダウン事例について)	
第9回	令和3年12月14日(火)
1. 院長挨拶 2. 各部署からの報告(全社統合情報システム導入について、ハラスメント防止月間について、収支状況について、実習生の受入れについて、施設設備点検について、QCサークル活動発表会について、CTメンテナンスの実施について) 3. 会議の見直しにより、令和4年1月より業務連絡会議と病院管理会議を統合することとしたことから業務連絡会議は今月で終了。	



2. 病院運営に関する委員会

5. 倫理委員会	
目 的	本院及びその職員が人間を直接対象とした医学の研究(ヒトゲノム、遺伝子解析研究を含む。)及び医療行為を行う場合において、医の倫理に関するヘルシンキ宣言(1964年)の趣旨に添った倫理的配慮を図る。
委 員 長 副委員長	鈴木 恭一(副院長 兼 医療安全推進室長) 大和田尊之(副院長 兼 循環器センター長)
【審査事項案件 計11件】 ※一部抜粋 ①同種骨移植に関する院内倫理委員会への申請 ⑦新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の臨床的特徴の検討 ⑧おたふくかぜワクチン接種後の副反応に関する全国調査への協力 ⑨誘発電位モニタリングと蛍光血管撮影を用いた脳神経外科手術手技の検討 ⑩早期全身性エリテマトーデスに対するペリムマブの有効性と安全性を検討するプラセボ対照無作為化二重盲検並行群間比較試験 ⑪関節リウマチ患者の臨床的特徴、疾患活動性指標、治療成績と予後因子に関する研究	

6. 治験審査委員会	
目 的	「治験審査委員会標準業務手順書」参照
委 員 長 副委員長	大和田尊之(副院長 兼 循環器センター長) 管野 隆三(呼吸器外科部長)
第1回	令和3年10月28日(木)
「早期全身性エリテマトーデスに対するペリムマブの有効性と安全性を検討するプラセボ対照無作為化二重盲検並行群間比較試験」について、倫理委員会で承認(東北大学他施設共同研究のため)	

7. 栄養管理委員会	
目 的	本院の給食計画及び給食全般の改善実施について、検討並びに院長の諮問に応える。
委 員 長 副委員長	渡部 研一(循環器内科部主任部長 兼 医療技術部長) 佐藤 義憲(糖尿病・代謝内科部長)
第1回	令和3年4月20日(火)
・栄養管理委員会の委員変更 ・栄養指導実施件数 ・パン食提供の可否について ・令和2年度食器運用報告 ・その他 配膳車事故について	
第2回	令和3年6月15日(火)
・栄養指導実施件数 ・その他 病院食の味付け	
第3回	令和3年8月17日(火)
・栄養指導実施件数	
第4回	令和3年10月19日(火)
・栄養指導実施件数 ・嗜好調査結果報告	
第5回	令和3年12月21日(火)
・栄養指導実施件数 ・福島市産米消費喚起事業について	

第6回	令和4年2月15日(火)
・栄養指導実施件数 ・新型コロナウイルス感染拡大における業務継続計画 ・議事録運用について	

8. 診療材料等購入審議委員会	
目 的	健全な業務運営に資することを目的とし、本院において使用する診療材料の購入、使用及び管理等の適正化を図る。
委 員 長 副委員長	大和田尊之(副院長 兼 循環器センター長) 大須賀文彦(外科部長)
第1回	令和3年11月25日(木)
1) 診療材料の新規採用について ・マウスピース2種 ・インテフリフローF型麻酔回路 ・インターサージカル酸素マスク ・生化学的インジケーター3種 2) その他 ・2020年度診療材料費経費削減額 ・2021年診療材料価格交渉状況について ・診療材料費用削減について「メッカルGPO」検討	
第2回	令和4年2月25日(金)
1) 診療材料の新規採用について ・皮膚欠損用創傷被覆材「Sorbactコンプレス」 ・吸収性局所止血剤「ピュアスタット／ピュアスタットノズル」 ・MTW生検鉗子	

9. 災害対策委員会	
目 的	災害発生時における医療救護及び被害の拡大防止・災害復旧並びに災害・火災から職員、患者の生命、身体及び施設等を守るため、災害・防火対策に関する必要な事項を定める。
委 員 長 副委員長	遠藤 豪一(外科部主任部長) 渡部 研一(循環器内科部主任部長 兼 医療技術部長) 市川 剛(脳神経外科部長) 中村耕一郎(脳神経内科部主任部長)
第1回	令和3年5月19日(水)
1. 災害対策委員会規程の改正、委員の変更について 2. 救護関係要綱・規程等の改正について 3. 今年度の訓練・研修開催予定について 4. 支部訓練の内容について 5. その他	
第2回	令和3年7月15日(木)
1. 7月に実施した訓練・研修会について 2. 10月以降の訓練等について 3. DMAT技能維持研修について 4. 日赤災害医療コーディネートスタッフの推薦について 5. 東京オリンピック福島市開催について 6. 緊急時等の連絡体制の確立について	
第3回	令和3年12月10日(金)
1. 災害対策マニュアルの改訂について 2. 院内災害救護訓練の実施について 3. その他報告事項	

10. 医療情報システム検討委員会	
目 的	病院の医療情報の一元化を図り、総合的な医療情報システムの確立、段階的に診療システム導入としてオーダリングシステム、電子カルテシステムの構築など将来的なシステムに関する事項を調査検討して、導入の可能性の有無及び導入時期・システム規模等について審議する。

委員長 副委員長	多田 靖宏(耳鼻咽喉科部主任部長 兼 嚥下・ボイスセンター長 兼 医療情報部門責任者) 渡部 研一(循環器内科部主任部長 兼 医療技術部長)
第1回	令和3年9月3日(金)
1. 【報告事項】 (1) 第3次医療情報システム更新について ○第3次医療情報システム更新タイムスケジュール ○今回のシステムの変更点(全体に影響があるもの) ○システム停止期間中の運用(各部門への依頼事項) ○本稼働後の対応について (2) 新システムの操作説明・運用説明について	

11. 地域医療連携運営委員会	
目 的	本院と地域の医療機関が診療に関して緊密な連携を図ることにより、地域医療により良い環境を整える。
委員長 副委員長	渡部 洋一(院長) 田畑 友子(地域医療連携室長 兼 院長補佐)
第1回	令和3年10月28日(木)
1. 令和2年度地域医療連携運営委員の変更について 2. 令和元年度実績報告 1) 紹介率・逆紹介率 3. 検討事項 1) アンケート調査報告 2) 紹介患者のCOVID-19抗原検査について 3) 健診(検診)結果が要経過観察の対応について 4) 紹介患者の受付時間短縮について(診療情報提供書・画像データの事前郵送依頼)	

12. 病床管理委員会	
目 的	ベッドコントロールの円滑化と病床の有効活用
委員長 副委員長	大和田尊之(副院長 兼 循環器センター長) 車田 真美(看護副部長)
第1回	令和3年4月27日(火)
1. 委員変更について 2. 小児科・泌尿器科入院病棟について泌尿器科の入院病棟について 3. HCU稼働について	
第2回	令和3年9月9日(木)
1. 退院許可オーダーについて 2. その他	

13. 診療報酬適正化委員会	
目 的	本院における適正算定及び査定防止を図る。
委員長 副委員長	黒田 聖仁(消化器内科部主任部長) 遠藤 豪一(外科部主任部長)
第1回	令和3年4月28日(水)
1. 令和2年11月、12月、令和3年1月診療分保険査定について 2. その他	
第2回	令和3年6月23日(水)
1. 令和3年2月、令和3年3月診療分保険査定について 2. その他	

第3回	令和3年8月25日(水)
1. 令和3年4月、令和3年5月診療分保険査定について	2. その他
第4回	令和3年10月27日(水)
1. 令和3年6月、令和3年7月診療分保険査定について	2. その他
第5回	令和3年12月22日(水)
1. 令和3年8月、令和3年9月診療分保険査定について	2. その他
第6回	令和4年2月コロナ感染防止に伴いマイページ開催
1. 令和3年10月、令和3年11月診療分保険査定について	

14. 薬事委員会	
目 的	本委員会は、福島赤十字病院における医薬品の適正な管理と効率的な運用を目指すために設立された。その目的は、医薬品管理の標準化を達成することによって、診療部門における医療の質を保つことに貢献すると共に、病院経営上のコストベネフィットを向上させる事である。そのために本委員会では、有効性、安全性、経済性、合理性、フェアネスを基準として採用可否を審査している。
委 員 長 副委員長	市橋 淳(薬剤部長) 黒田 聖仁(消化器内科部主任部長)
第1回	令和3年5月10日(月)
1. 臨時採用、新規採用、院外限定採用、削除品の検討	2. DI情報(添付文書改訂)
3. 副作用報告	4. 薬剤流通に関する情報(供給遅延・再開、自主回収)
5. 薬事委員会規定改定	
第2回	令和3年7月6日(火)
1. 臨時採用、新規採用、院外限定採用、削除品の検討	2. DI情報(添付文書改訂)
3. 副作用報告	4. 薬剤流通に関する情報(供給遅延・再開、自主回収)
5. 後発品への変更	
第3回	令和3年9月6日(月)
1. 臨時採用、新規採用、院外限定採用、削除品(2規格の抗生物質注射)の検討	
2. DI情報(添付文書改訂)	3. 薬剤流通に関する情報(供給遅延・再開、自主回収)
4. 後発品への変更	5. 販売名変更
6. 麻薬処方箋様式変更について	7. 薬価改正
8. 患者からの医薬品副作用報告に関する広報の周知について	
第4回	令和3年11月8日(月)
1. 臨時採用、新規採用、削除品の検討	2. DI情報(添付文書改訂)
3. インフルエンザワクチンについて	4. 薬剤流通に関する情報(供給遅延・再開、自主回収)
第5回	令和4年1月11日(火)
1. 臨時採用、新規採用、院外限定採用、削除品の検討	2. DI情報(添付文書改訂)
3. 薬剤流通に関する情報(供給遅延・再開)	4. 後発品への変更
5. 院外処方箋疑義照会プロトコルの変更について	
第6回	令和4年3月7日(月)
1. 臨時採用、新規採用、院外限定採用、削除品の検討	2. DI情報(添付文書改訂)
3. 薬剤流通に関する情報(供給遅延・再開)	
4. 院内製剤で製剤実績のあるメチルロザニン塩化物の製剤廃止	
5. 一般名処方製剤の追加について	6. 土曜日の院外処方箋発行(ER)について

15. 顧客サービス・広報委員会	
目 的	療養環境・職場環境・接遇の改善等により、顧客(患者)の満足度を向上させ、顧客(患者)を意識した正確な情報発信を検討する。
委 員 長 副委員長	須藤 浩光(事務部長) 遠藤 豪一(医局長)、安達 明美(看護部7階病棟看護師長)
第1回	令和3年4月30日(金)
1. 今月の主な行事等	2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について
第2回	令和3年5月25日(火)
1. 今月の主な行事等	2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について
第3回	令和3年6月25日(金)
1. 今月の主な行事等	2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について
第4回	令和3年7月30日(金)
1. 今月の主な行事等	2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について
第5回	令和3年8月27日(金)
1. 今月の主な行事等	2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について
第6回	令和3年9月24日(金)
1. 今月の主な行事等	2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について
第7回	令和3年10月29日(金)
1. 委員の変更	2. 委員会に参加する心構え 3. 匿名の是非について
4. 今月の主な行事等	5. ご意見箱について 6. 山田委員からの提言について
7. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について	
第8回	令和3年11月26日(金)
1. 今月の主な行事等	2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について
第9回	令和3年12月24日(金)
1. 今月の主な行事等	2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について
第10回	令和4年1月28日(金)
1. 今月の主な行事等	2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について
第11回	令和4年2月25日(金)
1. 今月の主な行事等	2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について
第12回	令和4年3月24日(木)
1. 今月の主な行事等	2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について

16. 個人情報保護委員会	
目 的	患者様、職員の個人情報を適正に管理するための規則の取り決め、周知、教育を行う。
委 員 長	須藤 浩光(事務部長)
委員会の開催なし	

17. 省エネルギー推進委員会	
目 的	本委員会は福島赤十字病院の省エネルギー活動を効果的に推進することを目的として、省エネ法に適合したエネルギー管理方針を定め運用する。

委員長 副委員長 エネルギー管理 企画推進委員	大和田尊之(副院長 兼 循環器センター長) 須藤 浩光(事務部長) 濱名 正美
第1回	令和3年5月20日(木) 会場 16:00～ 多目的ホール2
1. 令和2年度全体のエネルギー使用量の報告 2. 令和3年度4月エネルギー使用量について 3. ES事業者から 4. 空調管理規定、電気機器管理規定について ・空調について ・コンセント、照明について 5. 省エネパトロールについて ・各委員よりパトロールの報告 6. その他 ・持ち込み機器ガイドラインについて	
第2回	令和3年7月29日(木) 会場 16:00～ 研修棟3階
1. 5月、6月のエネルギー使用量について 2. ES事業より ・エネルギー、空調、コンセント、照明の使用量について ・省エネ推進について 3. 空調管理規定、電気機器管理規定について ・空調について ・コンセント、照明について 4. 啓蒙、啓発活動について ①省エネパトロールについて ②省エネに協力をお願いする放送について 5. その他 ・電気機器の接地について ・浴室のエアコンについて	
第3回	令和3年12月9日(木) 会場 16:00～ 研修棟3階
1. 7月、11月のエネルギー使用量について 2. ES事業より 3. 空調管理規定、電気機器管理規定について ・空調管理規定について ・電気機器管理規定について 4. ウォームビズのお願い ・職員にウォームビズのお願い 5. 啓蒙、啓発活動について ・省エネパトロールについて ・各委員よりパトロールの報告	



3. 医療安全管理に関する委員会

18. 医療安全管理委員会	
目 的	医療事故防止対策の検討及び推進を図る。
委 員 長	渡部 洋一(院長)
副委員長	鈴木 恭一(副院長 兼 医療安全推進室長)
第1回	令和3年4月28日(水)
1. アクシデント事例3事例検討 2. 医療安全推進委員会報告 3. 患者相談室カンファレンス報告 4. 3月分死亡患者カルテ確認結果報告	
第2回	令和3年5月26日(水)
1. 新規同意書3件検討・承認 2. 死亡事例検討 3. 医療安全推進委員会報告 4. 患者相談室カンファレンス報告 5. 4月分死亡患者カルテ確認結果報告	
第3回	令和3年6月23日(水)
1. アクシデント事例2事例検討 2. クリティカルケア認定看護師の特定行為について承認 3. 医療安全推進委員会報告 4. 患者相談室カンファレンス報告 5. 5月分死亡患者カルテ確認結果報告	
第4回	令和3年7月28日(水)
1. 新規同意書1件承認、造影検査同意書は要検討 2. 「院内における写真・動画撮影録音等にご遠慮願います」掲示 3. 研修医が行う医療行為について 4. 医療安全推進委員会報告 5. 患者相談室カンファレンス報告 6. 6月分死亡患者カルテ確認結果報告 7. 本社報告アクシデント事例で経過観察中の2事例について	
第5回	令和3年8月25日(水)
1. アクシデント事例1事例検討 2. 医療安全推進委員会報告 3. 患者相談室カンファレンス報告 4. 7月分死亡患者カルテ確認結果報告 5. コロナ治療薬使用同意書の登録承認	
第6回	令和3年9月22日(水)
1. 患者相談報告書の画像見落としについての今後の対応について 2. 医療安全推進委員会報告 3. 患者相談室カンファレンス報告 4. 8月分死亡患者カルテ確認結果報告 5. 説明と同意書について：病院として承認と管理の仕組み作り	
第7回	令和3年10月27日(水)
1. アクシデント事例2事例、ヒヤリハット1事例について検討 2. 医薬品の安全使用のための業務手順書の改訂について 3. 医療安全推進委員会報告 4. 患者相談室カンファレンス報告 5. 9月分死亡患者カルテ確認結果報告	
第8回	令和3年11月26日(金)
1. 新規申請同意書について一部修正で承認 2. 面会を許可された場合の家族コロナ検査の同意書について 3. 医療安全推進委員会報告 4. 患者相談室カンファレンス報告 5. 10月分死亡患者カルテ確認結果報告 6. 患者誤認防止ポスター刷新	
第9回	令和3年12月22日(水)
1. アクシデント事例1事例検討 2. 保険外負担料金同意書について 3. 医療安全推進委員会報告 4. 患者相談室カンファレンス報告 5. 11月分死亡患者カルテ確認結果報告	

第10回	令和4年1月26日(水)
1. 医療安全推進委員会報告 2. 患者相談室カンファレンス報告 3. 1月分死亡患者カルテ確認結果報告 4. QCサークル活動報告発表会評価結果	
第11回	令和4年2月25日(金)
1. アクシデント事例1事例検討 2. 新規同意書申請1件保留→3月に再度検討、承認 3. 医療安全推進委員会報告 4. 患者相談室カンファレンス報告 5. 1月分死亡患者カルテ確認結果報告	
第12回	令和4年3月23日(水)
1. アクシデント事例1事例検討 2. 医療安全推進室員に放射線技師が加わるについて承認 3. 医療安全推進委員会報告 4. 患者相談室カンファレンス報告 5. 2月分死亡患者カルテ確認結果報告	

19. 医療事故調査委員会	
目 的	本院に医療事故やクレーム等が発生した場合、速やかに事故原因の究明と今後の対策等について検討する。
委 員 長 副委員長	鈴木 恭一(副院長 兼 医療安全推進室長) 須藤 浩光(事務部長)
第1回	令和3年11月4日(木)

20. 医療安全推進委員会	
目 的	医療事故防止対策の検討及び推進を図る。
委 員 長 副委員長	阪本 貴之(循環器内科部長) 齋藤 明子(看護師長 医療安全管理者)
第1回	令和3年4月16日(金)
1. 医療安全推進委員会メンバーについて 2. 3月の医療安全管理委員会報告 3. 令和2年度ヒヤリハット・アクシデント報告のまとめ 4. ワーキンググループ活動計画	
第2回	令和3年5月21日(金)
1. 4月の医療安全管理委員会報告 2. ワーキンググループ活動	
第3回	令和3年6月18日(金)
1. 5月の医療安全管理委員会報告 2. ワーキンググループ活動	
第4回	令和3年7月16日(金)
1. 6月の医療安全管理委員会報告 2. ワーキンググループ活動	
第5回	令和3年8月20日(金)
1. 7月の医療安全管理委員会報告 2. ワーキンググループ活動	
第6回	令和3年9月17日(金)
1. 8月の医療安全管理委員会報告 2. ワーキンググループ活動	
第7回	令和3年10月15日(金)
1. 9月の医療安全管理委員会報告 2. ワーキンググループ活動	
第8回	令和3年11月19日(金)
1. 10月の医療安全管理委員会報告 2. ワーキンググループ活動	
第9回	令和3年12月17日(金)
1. 11月の医療安全管理委員会報告 2. ワーキンググループ活動	

第10回	令和4年1月21日(金)
1. 12月の医療安全管理委員会報告 2. ワーキンググループ活動	
第11回	令和4年3月18日(金)
1. 2月の医療安全管理委員会報告 2. ワーキンググループ活動報告と1年間のまとめ	

令和4年2月の医療安全推進委員会は、新型コロナウイルス感染拡大のため開催を中止し紙面報告とした。

21. 院内感染対策委員会	
目 的	院内における微生物の感染を積極的に防止し、院内衛生管理の万全を期す。
委 員 長	渡部 洋一(院長)
副委員長	管野 隆三(呼吸器外科部長)
第1回	令和3年4月13日(火)
1. 3月分データ報告 2. 3月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 1) ワクチン注射後も行動制限は継続 2) 家族の付き添いについて 3) 今年度の相互評価・合同カンファランス(案) 4) 今年度の全体研修内容	
第2回	令和3年5月11日(火)
1. 4月分データ報告 2. 4月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について	
第3回	令和3年6月8日(火)
1. 5月分データ報告 2. 5月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 1) 2021年度職員ワクチン接種実施計画について	
第4回	令和3年7月13日(火)
1. 6月分データ報告 2. 6月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について	

第5回	令和3年8月10日(火)
1. 7月分データ報告 2. 7月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 1) 感染拡大につき玄関での対応について 2) 結核	
第6回	令和3年9月14日(火)
1. 8月分データ報告 2. 8月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 1) レジオネラ検査 2) 今年度のインフルエンザワクチン入荷状況について 3) インフルエンザワクチン職員接種日程について	
第7回	令和3年10月12日(火)
1. 9月分データ報告 2. 9月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 1) インフルエンザワクチン入荷状況について 2) インフルエンザワクチン職員接種日程について 3) 結核患者接触者健診終了について 4) 相互評価実施について	
第8回	令和3年11月9日(火)
1. 10月分データ報告 2. 10月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 1) インフルエンザワクチン入荷状況について 2) インフルエンザワクチン外来・入院患者様の接種日程について 3) 相互評価を実施	

第9回	令和3年12月14日(火)
1. 11月分データ報告 2. 11月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 1) インフルエンザワクチンについて 2) インフルエンザA検出について 3) 相互評価のため訪問について	
第10回	令和4年1月11日(火)
1. 12月分データ報告 2. 12月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について	
第11回	令和4年2月8日(火)
1. 1月分データ報告 2. 1月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 ・ N95マスク着用推奨について	
第12回	令和3年3月8日(火)
1. 2月分データ報告 2. 2月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 ・ 診療報酬改定について	

22. 医療従事者負担軽減対策委員会	
目 的	医療従事者の負担軽減及び処遇改善に係る計画の策定と実行、評価。
委 員 長	渡部 洋一(院長)
副委員長	遠藤 豪一(医局長)

第1回	令和3年4月20日(火)
1. 委員について 2. 『医療従事者の負担軽減及び処遇改善計画』 ア. 令和2年度の達成状況について イ. 令和3年度の目標について	
第2回	令和3年11月24日(水)
1. 医療従事者の負担軽減及び処遇改善計画 令和3年度目標の達成状況について	



4. 診療に関する委員会

23. クリニカルパス委員会	
目 的	本院に良質な医療を提供するため各部門参画によるチーム医療の推進を図る。
委 員 長	阪本 貴之(循環器内科部長)
副委員長	多田 靖宏(耳鼻咽喉科部主任部長 兼 嚥下・ボイスセンター長)／鈴木 佳子(看護部長)
第1回	令和3年4月15日(木)
<感染予防のためマイページ開催> 電子クリニカルパスの手引きの承認	
第2回	令和3年6月3日(木)
<感染予防のためマイページ開催> 新規パス承認 ①(小児科)小児気管支炎・肺炎 ②(小児科)小児急性胃腸炎	
第3回	令和3年8月16日(月)
<感染予防のためマイページ開催> ①看護記録の効率化について ②クリニカルパス通信について	
第4回	令和3年11月19日(金)
<感染予防のためマイページ開催> 新規パス承認 ①(泌尿器科)顕微鏡下精索静脈瘤低位結紮術 ②(泌尿器科)経会陰式前立腺生検	

24. 輸血療法委員会	
目 的	輸血療法の適応、血液製剤の保管管理、使用状況、適正使用の徹底及び輸血療法に伴う事故や副作用・合併症対策について検討し、適正な輸血療法を推進する。
委 員 長	遠藤 豪一(外科部主任部長)
副委員長	出羽 明子(麻酔科部長)
第1回	令和3年5月26日(水)
1. 血液製剤の使用状況について(3月、4月分)	
第2回	令和3年7月28日(水)
1. 血液製剤の使用状況について(5月、6月分) 2. 輸血後感染症検査のHIV抗体検査実施期間について	
第3回	令和3年9月29日(水)
1. 血液製剤の使用状況について(7月、8月分) 2. 輸血後感染症検査のHIV抗体検査実施における対策について 3. 輸血講演会について	
第4回	令和3年11月24日(水)
1. 血液製剤の使用状況について(9月、10月分) 2. 輸血講演会の動画視聴について 3. 県合同輸血療法委員会WEB研修の話題	

第5回	令和4年1月26日(水)
1. 血液製剤の使用状況について(11月、12月分) 2. 令和3年血液製剤使用状況まとめ 3. 輸血講演会動画視聴報告	
第6回	令和4年3月30日(水)
1. 血液製剤の使用状況について(1月、2月分)	

25. 臨床検査適正化委員会	
目 的	この臨床適正化委員会は福島赤十字病院臨床検査の管理、運営上の適正化を図るとともに重要事項を審議し、管理運営に万全を期するため、院内各部局と連携を密にし、もって当院の発展に寄与する事を目的とする。
委 員 長 副委員長	田崎 和洋(検査部長) 黒田 聖仁(消化器内科部主任部長)
第1回	令和3年4月22日(木)
1. 令和2年度日本医師会臨床検査精度管理調査結果報告 2. その他 SARS-COVID19院内検査の現状とシステム更新について	
第2回	令和3年10月26日(火)
1. 2021年度日本臨床検査技師会精度管理調査結果報告 2. CK-MB、RPR測定法の変更について 3. CA15-3、シフラ、proGRP測定院内実施について	

26. 診療情報管理委員会	
目 的	本院における診療情報の適正な保管・管理を図るとともに、診療・調査研究等に対し有効に活用できることを定める。
委 員 長 副委員長	多田 靖宏(耳鼻咽喉科部主任部長 兼 嚥下・ボイスセンター長) 渡部 研一(循環器内科部主任部長)
第1回	令和3年5月19日(水)
《協議事項》 《報告事項》	1. 入院診療計画書「特別な栄養管理の必要性」定義について 1. 診療情報感委員会名簿について
第2回	令和3年9月1日(水)
《協議事項》 《協議事項》	1. 入院診療計画書及び診療情報提供書の押印について 2. 入院診療記録の廃棄について
第3回	令和4年3月1日(火)
《協議事項》 《報告事項》	1. 新規文書登録について なし

27. DPC・経営改善委員会	
目 的	適切なコーディングの周知及び健全な病院経営
委 員 長 副委員長	渡部 洋一(院長) 須藤 浩光(事務部長)
第1回	令和3年6月10日(木)
1. 令和2年度医業収支 2. 県北医療圏MDC分析 3. 外来について 4. 業務効率化と作業工数の考え方 5. 適切なコーディングに関する委員会	

第2回	令和3年10月11日(月)
1. 適切なコーディングに関する委員会 ※紙面開催	
第3回	令和3年11月4日(木)
1. 令和3年度上半期医業収支について 2. 会議・委員会の見直しについて 3. 適切なコーディングに関する委員会	
第4回	令和4年3月17日(木)
1. 適切なコーディングに関する委員会 ※紙面開催	

28. 手術室運営委員会	
目 的	手術室の円滑な運営を図るため
委 員 長	出羽 明子(麻酔科部長)
副委員長	江花 英明(麻酔科副部長)、泉 弘子(看護師長)
第1回	令和3年4月26日(月)
1. 手術室運営委員会の規定 2. 手術室運営委員名簿 3. 手術スケジュールについて 4. 内視鏡タワー増設について、電気メスデモについて	

29. 救急センター運営委員会	
目 的	ERを利用する救急患者への対応に関する事項を審議し、ERにおける業務の適正かつ円滑な運営を図る。
委 員 長	市川 剛(脳神経外科部長 兼 救急センター長)
副委員長	渡邊あゆみ(看護師長)
令和3年度 委員会の開催なし	

30. ハイケアユニット運営委員会	
目 的	ハイケアユニットの適正な運営を図る。
委 員 長	出羽 明子(麻酔科部長)
副委員長	江花 英朗(麻酔科副部長)
第1回	令和3年6月24日(木)
1. HCU病床利用率、稼働率、収益についての報告 2. HCU運用基準について 3. HCU申し込み方法の変更について 4. HCU看護師勤務体系変更について	
第2回	令和4年1月7日(金)
1. HCU現状 2. 入院患者運営方法について 3. 緊急時、covid19感染の重症患者の病床について	

31. NST委員会	
目 的	入院患者に適切かつ効果的な栄養管理を行い、治療効果の向上を図る。
委 員 長	遠藤 豪一(外科部主任部長)
副委員長	元木 良和(皮膚科部長)
第1回	令和3年4月21日(水)
1. 令和3年度NSTメンバー報告 2. 症例報告 3. 令和3年度NST勉強会 4. その他	
第2回	令和3年5月19日(水)
1. 症例報告 2. その他	

第3回	令和3年6月16日(水)
1. NST介入依頼書 2. 消化器外科術前の栄養指導	
第4回	令和3年7月21日(水)
1. NSTラウンド報告 2. NSTラウンドの日程 3. その他	
第5回	令和3年8月18日(水)
1. NSTラウンド報告 2. アルブミン測定報告	
第6回	令和3年10月20日(水)
1. アルブミン測定報告 2. NSTラウンドの稼動状況 3. アイソカルサポート 4. 第28回NSTフォーラム開催のお知らせ 5. その他	
第7回	令和3年11月18日(木)
1. アルブミン測定報告 2. NSTラウンドの稼動状況 3. NSTの運用	
第8回	令和4年1月19日(水)
1. NST介入依頼、回診記録、治療報告書の入力説明 2. NSTラウンドに関する連絡事項 3. その他	
第9回	令和4年3月16日(水)
1. 近隣病院によるNST座談会の報告 2. 議事録の運用 3. その他	

32. 化学療法検討委員会	
目 的	がん化学療法を実施するにあたって、施設・設備などのハードウェア面、医師・看護師・薬剤師などのスタッフ面、セーフティーマネジメントなどの運用面など、充足すべき課題を検討し、化学療法を安全に、安心して実施するための基本的な考え方、具体的な方法を審議する。また、外来化学療法を実施するための運用についても審議し、実施される化学療法のレジメン(治療内容)の妥当性を評価し承認する委員会を兼ねる。
委員長 副委員長	管野 隆三(呼吸器外科部長) 矢澤 浩之(産婦人科部長)
第1回	令和3年5月18日(火)
1. 定例報告(外来化学療法実施件数、調製件数、栄養指導件数) 2. 新規申請レジメン承認 3. 遺伝子検査について 4. 指導料件数報告 5. 高額薬剤一覧	
第2回	令和3年8月17日(火)
1. 定例報告(外来化学療法実施件数、調製件数、栄養指導件数) 2. 新規申請レジメン承認 3. 化学療法時のリハビリ対応 4. 高額薬剤一覧	
第3回	令和3年11月16日(火)
1. 定例報告(外来化学療法実施件数、調製件数、栄養指導件数) 2. 新規申請レジメン承認	
第4回	令和4年2月14日(月)(紙面開催)
1. 定例報告(外来化学療法実施件数、調製件数、栄養指導件数) 2. 新規申請レジメン承認 3. 令和4年度診療報酬改定について	
第5回	令和4年3月9日(水)
1. 定例報告(外来化学療法調製件数) 2. 令和4年度診療報酬改定について	

33. 緩和ケア委員会	
目 的	生命を脅かす疾患に直面した全ての患者とその家族に、早期より全人的苦痛に対する適切な緩和ケア提供を推進する。
委 員 長 副委員長	出羽 明子(麻酔科部長) 清和 彩子(看護師長)
第1回	令和3年7月20日(火)
1. 外来緩和ケア加算等について 2. 今年度の研修会開催について 3. その他	
第2回	令和4年2月8日(火)
1. 緩和ケアチーム事務局より 2. その他	

34. 褥瘡対策委員会	
目 的	本院における褥瘡予防対策の確立や褥瘡治癒促進に向けて、褥瘡対策マニュアルの作成、褥瘡に関する情報の収集と共有、褥瘡対策についての教育研修の計画及び実施などを通し、褥瘡対策及び関連する事項について調査・審議する。
委 員 長 副委員長	元木 良和(皮膚科部長) 佐藤 美絵(看護係長、皮膚・排泄ケア認定看護師)
第1回	令和3年5月25日(火)
1. 診療報酬関連の情報・データ報告 2. 令和2年度活動報告 3. 令和2年度褥瘡データ報告 4. 症例報告 5. 令和3年度活動案	
第2回	令和3年7月27日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 院内研修案内 3. 院外研修案内 4. ラウンド 5. その他：マットレス管理について	
第3回	令和3年8月24日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 院内研修案内 3. 院外研修案内 4. ラウンド 5. その他	
第4回	令和3年9月28日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 院内研修案内 3. ラウンド 4. 症例報告 5. その他	
第5回	令和3年10月26日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 院内研修案内 3. ラウンド 4. 症例報告 5. その他	
第6回	令和3年11月30日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 院内研修案内 3. ラウンド 4. 症例報告 5. その他	
第7回	令和4年1月25日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 院内研修案内 3. ラウンド 4. 症例報告 5. その他	
第8回	令和4年2月22日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 院内研修案内 3. 院外研修案内 4. ラウンド 5. 症例報告	

35. 認知症ケア運営委員会	
目 的	認知症を有する患者ケアを行うために病棟での対応力とケアの質の向上を図る。
委 員 長 副委員長	藤森 春生(精神科部長) 武田 里美(看護師長)
第1回	令和3年4月1日(木)
1. 令和3年度メンバー変更について 2. 今年度の活動の進め方について ・ラウンドについて ・せん妄ハイリスクケアについて ・勉強会について ・活動内容について	

第2回	令和3年5月17日(月)
1. 今後の勉強会について ・6月の担当は、PSWの菅野さん。今年度中にリハビリ、地連主催での勉強会を開催予定 2. 6A病棟(コロナ病床)における認知症ケアのあり方について ・新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた認知症高齢者ケアの実際 3. 認知症ケアに関するWEB研修会開催のおしらせ	
第3回	令和3年6月14日(月)
1. PSW菅野さんによる「認知症疾患医療センター」についての勉強会を開催 2. 認知症ケアに関するWEB研修会について ・ひとり暮らしの高齢者に対する地域での関わり方について 3. 今年度役員の写真撮影について	
第4回	令和3年7月5日(月)
1. 認知症ケアチームの記念撮影(広報誌掲載のため)	
第5回	令和3年9月6日(月)
1. 地連丸山さんによる「社会福祉士から見た認知症患者への支援」についての勉強会開催 ・福島市の高齢化の現状と高齢者福祉計画について ・介護保険制度とサービスについて	
第6回	令和3年10月4日(月)
1. リハビリ相田さんによる「認知症リハビリテーション」についての勉強会開催 2. 11月より薬剤部の担当変更についてのおしらせ(二瓶さんより矢葺さんへ変更)	
第7回	令和3年11月1日(月)
1. PSW菅野さんによる「受診相談の流れとコツ」についての勉強会開催	
第8回	令和3年12月6日(月)
1. PSW菅野さんによる「福島市もの忘れ相談医連携フォーラム」 ～福島市もの忘れ相談医マップに関するアンケートについて(前編)～ の勉強会開催 ・上記フォーラム映像視聴にて情報を共有	
第9回	令和4年1月17日(月)
1. ラウンドについて ・院内の他チームの通常ラウンド再開を受け、当チームでもラウンドを再開する。 集合場所等の連絡事項はマイページにて共有 2. PSW菅野さんによる「福島市もの忘れ相談医連携フォーラム」 ～福島市もの忘れ相談医マップに関するアンケートについて(後編)～ の勉強会開催	
第10回	令和4年2月7日(月)
1. ラウンド患者のマイページ上カンファレンスについて ・患者毎のケアの方向性などの記載を佐川認定看護師がおこない、そこに他職種の方々の独自の知識を肉付けしていただき充実したラウンドに繋げる方向としていく。 2. 次年度からの委員会開催について ・司会進行は佐川認定看護師ひとりでおこなっていたが、チーム全員で順番に行う予定	
第11回	令和4年3月7日(月)
1. 次年度の役員変更について ・藤森医師の退職にともない委員長が変更となる。また、リハビリ、医事課も変更の予定 2. 次年度の活動のについて ・週1のラウンドは継続。チームの活動については、次年度以降に検討しながら進めていく予定	



5. 教育・研究に関する委員会

36. 医師臨床研修管理委員会	
目 的	本院と臨床協力病院及び臨床研修協力施設とが共同で行う医師の臨床研修の実施を統括管理する。
委 員 長 副委員長	渡部 洋一(院長) 鈴木 恭一(副院長)
第1回	令和3年9月29日(水)
1. 令和4年度採用初期臨床研修医の選考について	
第2回	令和4年3月17日(木)
1. 令和2年度採用初期臨床研修医の研修修了認定 2. 令和4年度臨床研修管理委員会について	

37. 医師臨床研修プログラム委員会	
目 的	医師の臨床研修の円滑な運営を図る。
委 員 長 副委員長	渡部 研一(循環器内科部主任部長 兼 医療技術部長) 出羽 明子(麻酔科部長)
第1回	令和3年4月12日(月)
1. 2年次OSCEについて	
第2回	令和3年6月7日(月)
1. 福島県地域医療症例検討会症例担当 2. 第三者機関(JCEP)による臨床研修体制・プログラムの評価	
第3回	令和3年8月16日(月)
報告事項のみ	
第4回	令和3年10月4日(月)
1. 研修予定変更希望について 2. JCEP受審へ向けて(令和4年度臨床研修の理念・基本方針の見直し)	
第5回	令和3年12月6日(月)
1. 当院における初期研修医の行う医療行為の基準について 2. JCEP受審へ向けて(研修医の位置付け・処遇に関する規程)	
第6回	令和4年2月7日(月)
1. 令和4年度の当委員会について 2. JCEP受審へ向けて(研修医の採用試験)	

38. 図書委員会	
目 的	本院全体における診療その他に必要な図書の整備、購入、利用、管理等を検討するとともに、病院図書の有効利用を図る。
委 員 長 副委員長	遠藤 豪一(外科部主任部長) 阪本 貴之(循環器内科部長)
令和3年度 委員会開催なし	



6. 労務及び安全管理に関する委員会

39. 安全衛生委員会	
目 的	職員の安全衛生及び健康管理に関する事項について調査審議し、快適な職場環境を形成する。
委 員 長 副委員長	守谷 新(脳神経内科部長) 藤森 春生(精神科部長)
第1回	令和3年4月28日(水)
1. 4月分労働者傷病報告	2. 長時間労働者の面接指導について
第2回	令和3年5月26日(水)
1. 5月分労働者傷病報告	2. 長時間労働者の面接指導について
第3回	令和3年6月30日(水)
1. 6月分労働者傷病報告	2. 長時間労働者の面接指導について
第4回	令和3年7月25日(日)
1. 7月分労働者傷病報告	2. 長時間労働者の面接指導について
第5回	令和3年8月25日(水)
1. 8月分労働者傷病報告	2. 長時間労働者に対する面接指導について
第6回	令和3年9月29日(水)
1. 9月分労働者傷病報告	2. 長時間労働者に対する面接指導について
3. 作業環境測定結果報告について	
第7回	令和3年10月27日(水)
1. 10月分労働者傷病報告	2. 長時間労働者の面接指導について
第8回	令和3年11月24日(水)
1. 11月分労働者傷病報告	2. 長時間労働者に対する面接指導について
第9回	令和3年12月22日(水)
1. 12月分労働者傷病報告	2. 長時間労働者に対する面接指導について
第10回	令和4年1月26日(水)
1. 1月分労働者傷病報告	2. 長時間労働者に対する面接指導について
3. ストレスチェック実施報告	
第11回	令和4年2月24日(木)
1. 2月分労働者傷病報告	2. 長時間労働者に対する面接指導について
第12回	令和4年3月30日(水)
1. 3月分労働者傷病報告	2. 長時間労働者に対する面接指導について
3. 作業環境測定結果報告	4. 令和4年度 委員会開催予定日について

40. 医療ガス安全管理委員会	
目 的	医療ガスに関わる安全管理・安全使用の推進を図る。
委 員 長 副委員長	管野 隆三(呼吸器外科部長) 出羽 明子(麻酔科部長)
第1回	令和4年3月1日(火)
1. 委員会名簿変更について	2. 医療ガス設備保守点検結果報告
3. 医療ガス研修会開催について	4. その他 *オンライン(マイページ)開催

VI

研究発表

1. 診療科部

(1) 消化器内科

学会 発表

期間	名前(発表者)	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
4月9日 ～ 4月11日	紺野 直紀	東京都	第118回 日本内科学会講演会	胆膵癌診断における新規マイクロ流体デバイスを用いた血中循環腫瘍細胞検出の有用性の検証
7月21日	佐藤 智基	福島市 (オンライン)	日本消化器病学会東北支部 第211回例会	腸閉塞を契機に診断された回腸癌の1例
9月22日 ～ 9月23日	浅間 宏之	東京都	第52回日本膵臓学会大会	当院における切除不能膵癌に対するがんゲノム医療の現状
2月4日	菅野有紀子	仙台市	第212回 消化器病学会東北支部例会	目指せ消化器病専門医 研修医からの報告
2月4日 ～ 2月5日	上田 健太	仙台市 (オンライン)	第212回日本消化器病学会 東北支部例会	膵臓の胸腔内逸脱による膵炎と特発性腸重積の反復を来したIV型食道裂孔ヘルニアの一例
2月4日 ～ 2月5日	鈴木 賛	仙台市 (オンライン)	第212回日本消化器病学会 東北支部例会	治療に難渋した無石胆嚢炎による巨大な肝被膜下腫瘍の一例
2月5日	大平 怜	仙台市 (オンライン)	第167回日本消化器内視鏡 学会東北支部例会	消化器内視鏡検査が診断の契機となった皮膚原発顔上皮肉腫の消化管多発転移の1例
2月5日	山下 莉奈	仙台市	第212回日本消化器病学会 東北支部例会	小腸穿孔をきたした成人T細胞性白血病リンパ腫の一例

研究会・研修会 発表

期間	名前(発表者)	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
6月23日	浅間 宏之	福島市	慢性便秘症を考える会	当院における慢性便秘症治療
11月26日	菅野有紀子	オンライン	肝細胞癌薬物治療のこれからを考える～カホメティクス効能追加1周年記念～	福島赤十字病院の現状について
2月18日	浅間 宏之	福島市	第375回 福島消化器病研究会	切除不能膵癌におけるがんゲノム医療の現状
3月18日	菅野有紀子	オンライン	磐越DOMミーティング	肝線維化進展例の絞り込み 消化器病・肝臓専門医への紹介基準

(2) 糖尿病・代謝内科

学会 発表

期間	名前(発表者)	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
11月6日	佐藤 宏樹	仙台市	日本糖尿病学会 第59回東北地方会	乳酸アシドーシスに一過性膵ベータ細胞スタニングを併発した2型糖尿病の1例
11月6日	佐藤 義憲	仙台市	日本糖尿病学会 第59回東北地方会	乳酸アシドーシスに一過性膵ベータ細胞スタニングを併発した2型糖尿病の1例

研究会・研修会 発表

期間	名前(発表者)	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
5月27日	佐藤 義憲	福島市	第117回県北糖尿病談話会	膵全摘後のグルカゴン測定
6月10日	佐藤 義憲	福島市	糖尿病研修会	ここ30年ほどの糖尿病診療をNEJMでふりかえる

(3)循環器内科

学会 発表

期間	名前(発表者)	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
6月5日	坂本 和哉	弘前市 (オンライン)	第172回 日本循環器学会東北地方会	Fisher症候群と心筋炎を同時期に発症した一例
9月17日	芳賀 文香	オンライン	第69回日本心臓病学会	パーキンソニズムと心臓交感神経障害を合併した野生型ATTRアミロイドーシスの1例
12月4日	坂本 和哉	山形市 (オンライン)	第173回 日本循環器学会東北地方会	急性心筋梗塞の治療後、数時間で生じた急性ステント血栓症の一症例
12月4日	芳賀 文香	オンライン	第173回 日本循環器学会東北地方会	心嚢液貯留で発見された心臓原発悪性リンパ腫の1例
2月26日	芳賀 文香	オンライン	第50回日本心血管インターベンション治療学会 東北地方会	右冠動脈にびまん性に血栓を認めた急性心筋梗塞に対し、JABP留置とウロキナーゼ血栓溶解を試み、翌日ステント留置術を施行した一例

研究会・研修会 発表

期間	名前(発表者)	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
5月21日	渡部 研一	福島市 (オンライン)	県北脳心連携の会	脳と命を守る心房細動の包括的管理と抗凝固療法
6月30日	大和田尊之	福島市	あぶくま実地医科の為の心不全治療セミナー	症例提示：コラランの使用経験と好適症例について
7月19日	渡部 研一	福島市	ふくしまし健康づくり Webセミナー	脳卒中对策のための1次予防
7月28日	大和田尊之	福島市	心房細動のトータルケア Webセミナー	HBRを考慮した高血圧症合併心房細動の診療について
12月9日	渡部 研一	福島市	Cardiovascular Masters WebSeminar	循環器疾患治療 最新の話題
2月17日	大和田尊之	オンライン	STOP！心臓血管死セミナー	慢性心不全の治療と電解質マネジメント
3月4日	大和田尊之	オンライン	Kawa web conference	循環器診療におけるTG管理の重要性

(4)脳神経内科

研究会・研修会 発表

期間	名前(発表者)	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
6月8日	守谷 新	福島市 (オンライン)	NMOSD Expert Meeting in 福島	当院で経験した抗AQP4陽性NMOSDの2例
8月23日	守谷 新	福島市 (オンライン)	福島県北 Parkinson's Disease Council	高齢PD患者の治療戦略と課題

(5)精神科

学会 発表

期間	名前(発表者)	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
7月16日 ～ 7月17日	宍戸 理紗	京都市	第43回 日本生物学的精神医学会	死後脳を用いた統合失調症脳病態のストレス・炎症関連分子による層別化の試み

研究会・研修会 発表

期間	名前(発表者)	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
12月14日	藤森 春生	福島市	緩和ケアフォーラム in Fukushima	県北エリアでの緩和ケア医療を適切に実施するには？

(6) 外科

学会 発表

期間	名前(発表者)	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
2月4日 ～ 2月5日	遠藤 豪一	仙台市 (オンライン)	第212回 日本消化器病学会東北支部 例会	脾臓の胸腔内逸脱による脾炎と特発性 腸重積の反復を来したIV型食道裂孔ヘルニアの一例

(7) 心臓血管外科

学会 発表

期間	名前(発表者)	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
5月19日 ～ 6月25日	籠島 彰人	名古屋市 (オンライン)	第49回 日本血管外科学会学術総会	大腿動脈大伏在静脈異常shunt血管に対して血管内治療を行った一例

研究会・研修会 発表

期間	名前(発表者)	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
11月12日 ～ 11月13日	籠島 彰人	会津若松市	第12回 会津 心臓病・心血管疾患 研究会	心臓外科セッション「心臓血管治療の最 前線1：手術の極意 エキスパートに きく」

論文発表・著書

著者	論文名	誌名・巻(号)・ページ
籠島 彰人	孤立性総腸骨動脈囊状瘤に対してStent Assisted Techniqueによるコイル塞栓術を施行した1例	日本血管外科学会雑誌 2021年30巻5号319-324

(8) 整形外科

研究会・研修会 発表

期間	名前(発表者)	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
7月17日	村上 和也	オンライン	第43回東北膝関節研究会	UKAの長期成績－UKAは膝OAの最終手 術になり得るか－

(9) 脳神経外科

学会 発表

期間	名前(発表者)	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
11月25日 ～ 11月27日	鎌村 美歩	福岡市 (オンライン)	第37回日本脳神経血管内治 療学会学術集会	血栓回収療法を施行した総頸動脈急性 閉塞の2例
3月17日 ～ 3月19日	鈴木 恭一	大阪市 (オンライン)	第51回日本脳卒中の外科学 会(STROKE2022)	穿通枝を意識した脳動脈瘤腫手術

研究会・研修会 発表

期間	名前(発表者)	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
8月31日	市川 剛	オンライン	Phenom ACCESS to SUCCESS	マイクロカテーテルとデタッチャブルコイル
11月13日	市川 剛	郡山市	CVN－福島20211113 福島脳血管内治療	CASPERステントの使用経験
12月18日	鎌村 美歩	郡山市	第22回福島神経疾患研究会	内視鏡で摘出した脳室内の一例
3月23日	市川 剛	オンライン	Stryker社内講演会	当院における頸動脈ステント留置術の 治療経験

論文発表・著書

著者	論文名	誌名・巻(号)・ページ
Yuhei Ito, Takao Kojima, Naoki Sato, Masahiro Oinuma, Kazuomi Horiuchi, Tsuyoshi Ichikawa, Keiko Oda, Takuya Maeda, Kiyoshi Saito	Results of Mechanical Thrombectomy 6 Hours after Stroke Onset: Analysis of Multiple Stroke Centers in Fukushima Prefecture	Journal of Neuroendovascular Therapy, 2021, 15 : p220-227
小祝 萌, 市川 剛, 鈴木 恭一, 渡部 洋一, 長井健一郎, 菊田 春彦, 大和田尊之	急性心筋梗塞のPCI中に発症した中大脳動脈閉塞に対して機械的血栓回収術を施行した1例	脳卒中, 2021, 43巻, 4号, p.337-342
Yuya Furukawa, Tsuyoshi Ichikawa, Yuki Harigane, Haruhiko Kikuta, Kenichiro Nagai, Kyouichi Suzuki, Yoichi Watanabe	A Case of Percutaneous Thrombectomy for Internal Carotid Artery Occlusion due to In-Stent Thrombosis Following Stent-Assisted Intra-Aneurysmal Embolization	Journal of Neuroendovascular Therapy, 2021, 15 : p595-601

(10)泌尿器科

研究会・研修会 発表

期間	名前(発表者)	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
9月30日	本田瑠璃子	福島市	第82回 うつくしま泌尿器科研究会	仕事も家庭もしなやかに強く
10月14日 ～ 10月17日	本田瑠璃子	メルボルン (オンライン)	ICS2021	Impact of nocturnal enuresis on QOL after robot-assisted radical prostatectomy

(11)産婦人科

学会 発表

期間	名前(発表者)	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
9月11日 ～ 9月13日	矢澤 浩之	オンライン	第61回 日本産婦人科内視鏡学会	当院における異所性妊娠の手術成績と管理の現状、-19年間、251例での検討と考察
1月22日 ～ 1月23日	矢澤 浩之	東京都	第43回日本エンドメトリ オーシス学会	進行卵巣がんが疑われた polypoid endometriosisの1例

論文発表・著書

著者	論文名	誌名・巻(号)・ページ
Miki Ohara	Metformin reduces androgen receptor and upregulates homeobox A10 expression in uterine endometrium in women with polycystic ovary syndrome	Reproductive Biology and Endocrinology volume 19, Article number : 77 (2021)
矢澤 浩之他	当院における異所性妊娠の手術成績と管理の現状	福島医学雑誌 2021 71(2) P69～P80
矢澤 浩之他	当院における希少部位異所性妊娠の手術成績と管理の現状	日本産科婦人科内視鏡学会誌 2021年37巻2号 P21～P29
矢澤 浩之他	当院における異所性妊娠大量出血症例の手術成績と管理の現状	日本産科婦人科内視鏡学会誌 2021年37巻2号 P30～P37

(12)麻酔科

学会 発表

期間	名前(発表者)	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
9月17日 ～ 11月15日	江花 英朗	金沢市 (オンライン)	日本血管麻酔学会 第26回学術集会	進行性胃癌に対する外科治療に際し、併存する冠動脈病変と腹部大動脈瘤への治療を先行させた1例
11月5日 ～ 11月6日	板倉 佑弥	札幌市 (オンライン)	第41回日本臨床麻酔学会	フィブリノゲン袋剤を原因としたアナフィラキシーショックが強く疑われた1例

研究会・研修会 発表

期間	名前(発表者)	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
6月29日	出羽 明子	福島市	緩和ケア研修会	当院での緩和ケアについて

(13) リウマチ・膠原病内科

学会 発表

期間	名前(発表者)	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
9月17日	宮田 昌之	オンライン	第32回中部リウマチ学会 —スポンサーシップシンポジウム—	関節リウマチにおける併存疾患とその 対策：肝機能障害について

研究会・研修会 発表

期間	名前(発表者)	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
4月3日	宮田 昌之	オンライン	リンヴォック発売1周年記念講演会	高齢発症関節リウマチにおけるリン ヴォックの有用性と注意点
5月27日	宮田 昌之	福島市	【Plus Chugai】関節リウマチWebセミナー	薬物治療アルゴリズムとトシリズマブ 治療
5月28日	宮田 昌之	オンライン	Fukushima Sarilumab Seminar	IL-6阻害治療における関節エコーの役 割—特に治療変更の判断において
6月9日	宮田 昌之	オンライン	第9回鹿児島IL-6研究会	関節リウマチにおける慢性の肝障害 —リウマチ学会診療ガイドラインによ るNASH様肝障害への対策とトシリズ マブの有用性
7月9日	宮田 昌之	福島市 (オンライン)	JAK阻害剤を考える会 in 福島	当院におけるJAK阻害薬の使いかた
11月6日	天目 純平	福島市	福島リウマチチームワーク ショップ2021	リウマチ診療における関節エコーの有 用性
11月10日	宮田 昌之	福島市	PLUS CHUGAI講演会	テーマ「関節リウマチにおける肝障害と 併用薬減量を見据えたトシリズマブの 治療戦略」
11月25日	宮田 昌之	オンライン	関節リウマチWEBセミナー ～TNF阻害薬の再考～	アンカードラッグとしてのメトトレキ サート(MTX)の使用法
12月7日	宮田 昌之	オンライン	リンヴォックインターネット ライブセミナー	ウバダシチニブの臨床試験の概要と自 験例
3月24日	天目 純平	福島市	Meet The Expert for Pharmacist	関節リウマチの病態と薬物治療

論文発表・著書

著者	論文名	誌名・巻(号)・ページ
Temmoku J, Migita K, Yoshida S, Matsumoto H, Fujita Y, Matsuoka N, Yashiro-Furuya M, Asano T, Sato S, Suzuki E, Watanabe H, Miyata M.	Real-world comparative effectiveness of bDMARDs and JAK inhibitors in elderly patients with rheumatoid arthritis. <i>Medicine (Baltimore)</i> .	2022 Oct 21 : 101(42) : e31161. doi : 10.1097/MD.00000000000031161.
Temmoku J, Miyata M, Suzuki E, Sumichika Y, Saito K, Yoshida S, Matsumoto H, Fujita Y, Matsuoka N, Asano T, Sato S, Watanabe H, Migita K.	Comparing the effectiveness and safety of Abatacept and Tocilizumab in elderly patients with rheumatoid arthritis.	PLoS One. 2022 Sep 19 ; 17(9) : e0274775. doi : 10.1371/journal.pone.0274775. eCollection 2022.

2. 看護部

(1) 訪問看護ステーション

研究会・研修会 発表

期間	名前(発表者)	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
11月3日	齋藤 泉	オンライン	固定チームナースング研究 会 第16回東北地方会 責任と継続性のある看護 ～地域包括ケア時代を担う 看護師育成～	癌患者と家族の在宅療養支援 多職種と連携した継続的なかわり

3. 薬剤部

学会 発表

期間	名前(発表者)	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
10月9日	渡部 寿康	オンライン	第31回日本医療薬学会	ナルデメジンの効果と、悪心及び疼痛への影響の確認
10月9日	佐藤 綾香	オンライン	第31回日本医療薬学会	医薬品使用期限管理の取り組み

研究会・研修会 発表

期間	名前(発表者)	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
4月5日	渡部 寿康	オンライン	福島赤十字病院薬剤部	研修医対象 処方・注射オーダーの方法と注意点
8月6日	市橋 淳	福島市(院内)	福島赤十字病院薬剤部	医薬品に関する医療安全①
8月6日	川村 早苗	福島市(院内)	福島赤十字病院薬剤部	医薬品に関する医療安全②
10月26日	武藤 芳和	福島市(院内)	福島赤十字病院薬剤部	病棟における向精神薬注射剤の適正使用について
12月10日	市橋 淳	福島市(院内)	福島赤十字病院医療安全推進室	医療安全研修
1月19日	矢葺 優佳	福島市(院内)	福島赤十字病院薬剤部	薬品安全管理 ～注射ver.～
1月24日	渡部 寿康	オンライン	疼痛緩和セミナー	当院における疼痛緩和の取り組み
1月26日	渡部 寿康	オンライン	福島赤十字病院疑義照会簡略化プロトコルについて	当院における疑義照会簡略化プロトコルの注意点
2月1日	渡部 寿康	オンライン	令和3年度福島赤十字病院化学療法レジメン研修会	レジメンの読み取りと副作用対策
2月1日	菊地 洋平	オンライン	令和3年度福島赤十字病院化学療法レジメン研修会	初回化学療法から継続した入院患者への関わり
2月1日	武藤 芳和	オンライン	令和3年度福島赤十字病院化学療法レジメン研修会	初回化学療法から継続した入院患者への関わり
2月21日	佐藤 南	福島市(院内)	福島赤十字病院薬剤部	パキロビットの使用方法
2月25日	緑上 淳一	福島市(院内)	福島赤十字病院ICT	令和3年度 感染研修 第1回「抗菌薬の適正使用について」 オンライン研修
3月9日	古賀 彩織	福島市(院内)	福島赤十字病院薬剤部	循環器病棟で使用される薬剤について
3月18日	緑上 淳一	福島市(院内)	福島赤十字病院ICT	令和3年度 感染研修 第2回「抗菌薬の適正使用について」(一般編) オンライン研修

4. 放射線科部

研究会・研修会 発表

期間	名前(発表者)	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
9月25日	五十公野純子	福島市(オンライン)	県北MDCTカンファレンス	CTの線量測定：CTDIの測定法と考え方について
9月25日	玉根 勇樹	福島市(オンライン)	県北MDCTカンファレンス	CTDIを測定していませんか？
11月20日	海藤 隆紀	福島市	福島県血管撮影技術セミナー	この脳動脈瘤はどう考える？ チームで共有したいコイル塞栓術
2月21日	阿部 直人	福島市(オンライン)	日本赤十字社放射線技師会東北ブロック研修会	新型コロナウイルス感染症への対応
2月22日	玉根 勇樹	福島市(オンライン)	日本赤十字社放射線技師会東北ブロック研修会	当院CT装置における表示値と測定値の関係

5. 医療技術部

(1) 臨床工学技術課

研究会・研修会 発表

期間	名前(発表者)	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
5月17日	早坂美智子	オンライン	FukushimaMEDICAL ArrhythmiaOnlineMeeting	心臓ペースメーカー業務について(シンポジスト)
11月13日	塩澤 将太	オンライン	第11回日本赤十字社臨床工 技士会東北ブロック研修会	当院のコロナウイルス感染症への対応

6. 事務部

(1) 経営企画課

研究会・研修会 発表

期間	名前(発表者)	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
11月1日 ～ 11月30日	金子 瑛	オンライン	第10回全国医療経営士実践 研究大会	コロナ禍での人材育成と今後の展望

7. 地域医療連携室

研究会・研修会 発表

期間	名前(発表者)	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
10月14日	菅野 直樹	石巻市 (オンライン)	第3回石巻市相談支援包括 化推進ネットワーク会議	「つながり」を感じる関係性とは ー福島の実験からー

福島赤十字病院
令和 3 年度 病院年報

通算第11号

令和 5 年 3 月発行

編集◎福島赤十字病院 事務部経営企画課

発行◎福島赤十字病院

〒960-8530 福島県福島市八島町 7 - 7

TEL 024-534-6101(代表) FAX 024-531-1721

<http://www.fukushima-med-jrc.jp/>

copyright©JAPANESE RED CROSS FUKUSHIMA HOSPITAL All rights reserved.



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.